

Nikon

デジタルカメラ

D850

メニューガイド

本書では、メニューについての詳細およびパソコンやプリンター、テレビとの接続や、使用できるアクセサリーなどの説明が記載されています。

Jp

目次

メニューガイド

10

初期設定一覧	10
▶ 再生メニュー：再生で使える便利な機能	20
削除	21
再生フォルダー設定	21
非表示設定	22
再生画面設定	23
画像コピー	24
撮影直後の画像確認	28
削除後の次再生画像	28
連続撮影後の再生画像	29
縦横位置情報の記録	30
縦位置自動回転	30
スライドショー	31
スマートフォンへの送信指定	32
📷 静止画撮影メニュー：静止画撮影で使える便利な機能	33
静止画撮影メニューの管理	34
静止画撮影メニューの拡張	36
記録フォルダー設定	36
ファイル名設定	39
主スロットの選択	41
副スロットの機能	41
フラッシュ発光	42
撮像範囲	46
画質モード	47
画像サイズ	48
RAW 記録	49
ISO 感度設定	50
ホワイトバランス	51

ピクチャーコントロール	52
カスタムピクチャーコントロール	53
色空間	56
アクティブ D- ライティング	56
長秒時ノイズ低減	57
高感度ノイズ低減	57
ヴィネットコントロール	58
自動ゆがみ補正	59
フリッカー低減	60
オートブラケティングのセット	62
多重露出	63
HDR (ハイダイナミックレンジ)	70
インターバルタイマー撮影	71
フォーカスシフト撮影	80
サイレント撮影 (静止画 Lv)	81
● 動画撮影メニュー：動画撮影で使える便利な機能	82
動画撮影メニューのリセット	83
ファイル名設定	83
動画記録先	83
撮像範囲	83
画像サイズ / フレームレート	84
動画の画質	85
動画記録ファイル形式	85
ISO 感度設定	86
ホワイトバランス	87
ピクチャーコントロール	87
カスタムピクチャーコントロール	87
アクティブ D- ライティング	87
高感度ノイズ低減	88
フリッカー低減	88
マイク感度	89
アッテネーター	89
録音帯域	90

風切り音低減	90
電子手ブレ補正	90
タイムラプス動画	91
 カスタムメニュー：撮影に関するさらに詳細な設定	100
カスタムメニューの管理	103
a：オートフォーカス	104
a1：AF-C モード時の優先	104
a2：AF-S モード時の優先	105
a3：AF ロックオン	106
a4：3D- トラッキングの顔認識	107
a5：3D- トラッキングの捕捉領域	107
a6：AF 点数切り換え	107
a7：縦 / 横位置フォーカス切換	108
a8：半押し AF レンズ駆動	109
a9：AF エリアモードの限定	110
a10：AF モードの制限	110
a11：フォーカスポイント循環選択	111
a12：フォーカスポイント表示の設定	111
a13：AF 設定時のフォーカスリング操作	112
b：露出・測光	113
b1：ISO 感度設定ステップ幅	113
b2：露出設定ステップ幅	113
b3：露出・調光補正ステップ幅	113
b4：露出補正簡易設定	114
b5：マルチパターン測光	115
b6：中央部重点測光範囲	115
b7：基準露出レベルの調節	116
c：AE ロック・タイマー	117
c1：シャッターボタン AE ロック	117
c2：半押しタイマー	117
c3：セルフタイマー	118
c4：モニターのパワーオフ時間	118

d：撮影・記録・表示	119
d1：低速連続撮影速度.....	119
d2：連続撮影コマ数	119
d3：ISO 感度表示.....	119
d4：連動リリースモード設定	120
d5：露出ディレーモード.....	120
d6：電子先幕シャッター	120
d7：連番モード	121
d8：ピーキング表示色.....	122
d9：ファインダー内格子線表示	122
d10：イルミネーター点灯	122
d11：連続撮影中の表示 (Lv)	123
d12：光学手ブレ補正.....	123
e：フラッシュ・BKT 撮影	124
e1：フラッシュ撮影同調速度.....	124
e2：フラッシュ時シャッタースピード制限.....	125
e3：フラッシュ使用時の露出補正.....	125
e4：⚡ 使用時の感度自動制御	126
e5：モデリング発光.....	126
e6：BKT 変化要素 (M モード)	127
e7：BKT の順序	128
f：操作	129
f1：カスタムボタンの機能.....	129
f2：中央ボタンの機能	141
f3：シャッタースピードと絞り値のロック	143
f4：コマンドダイヤルの設定.....	143
f5：マルチセレクターの半押し起動	147
f6：ボタンのホールド設定.....	147
f7：インジケーターの＋／－方向.....	147
f8：ライブビューボタンの設定.....	148
f9：☘ スイッチの機能.....	148
f10：MB-D18 のボタンの機能.....	149

g : 動画	152
g1 : カスタムボタンの機能	152
g2 : ハイライト表示の明るさ設定	155
✧ セットアップメニュー :	
カメラを使いやすくする基本設定	156
カードの初期化 (フォーマット)	157
言語 (Language)	157
地域と日時	158
モニターの明るさ	159
モニターのカラーカスタマイズ	160
水準器表示	161
インフォ画面の表示設定	162
AF 微調節	163
レンズ情報手動設定	167
イメージセンサークリーニング	167
クリーニングミラーアップ	168
イメージダストオフデータ取得	171
画像コメント	173
著作権情報	174
電子音	175
タッチ操作	176
HDMI	176
位置情報	177
リモコン (WR) 設定	178
リモコン (WR) の Fn ボタンの機能	179
機内モード	179
スマートフォンと接続	180
スマートフォンへの自動送信	181
Wi-Fi	181
Bluetooth	182
ネットワーク	182
Eye-Fi 送信機能	183
認証マークの表示	184

MB-D18 電池設定	185
電池の使用順序	186
電池チェック	187
カードなし時リリース	188
カメラ設定の保存と読み込み	189
カメラの初期化	191
ファームウェアバージョン	191
 画像編集メニュー：撮影した画像に行う編集機能	192
RAW 現像（パソコンを使わずに RAW 画像を JPEG 画像に変換する）	195
トリミング	199
リサイズ	200
D- ライティング	203
赤目補正	204
傾き補正	204
ゆがみ補正	205
アオリ効果	206
フィルター効果	206
モノトーン	207
画像合成	208
動画編集（始点 / 終点設定）	212
編集前後の画像表示	212
 マイメニュー /  最近設定した項目	214
 マイメニュー：よく使うメニューを登録する	214
 最近設定した項目：最近設定したメニューを たどる	219

フラッシュ撮影のシステム構成.....	220
一灯撮影.....	220
増灯撮影.....	220
光でリモートフラッシュを制御する	222
SB-5000 または SB-500 を使用して撮影する.....	223
電波でリモートフラッシュを制御する	231
電波制御の準備をする	231
増灯発光モードを設定して撮影する	235
電波制御したリモートフラッシュとカメラに 装着したスピードライトを同時に発光させる	241
増灯撮影時に調光補正する	242
電波制御のリモートフラッシュと、 光制御のリモートフラッシュを同時に使用する	244
フラッシュインフォ画面で増灯撮影時の スピードライトの設定を確認する	245
各発光モードの表示について	246

露出モード P (プログラムオート) のプログラム線図	248
パソコンに画像を取り込む方法	249
NX Studio をインストールする	249
NX Studio を使ってパソコンに画像を取り込む	250
別売のワイヤレストランスミッター WT-7 を使って、 無線 LAN または有線 LAN でパソコンに画像を 転送する	253
画像をプリンターで印刷する	255
カメラとプリンターを接続する	255
1 コマだけプリントする	256
複数の画像をプリントする	258
テレビで見る	260
HDMI ケーブルを使ってテレビと接続する	260
HDMI 対応機器との接続時の設定を変更する	261
使用できるアクセサリ	264
別売のマルチパワーバッテリーパック MB-D18 を 装着して EN-EL18c を使用した場合の連続撮影 可能コマ数について	273
カメラとパワーコネクター、AC アダプターの 接続方法	275

メニューガイド

初期設定一覧

再生、静止画撮影、動画撮影、カスタム、セットアップの各メニューの初期設定は次の通りです。

■ 再生メニューの初期設定

再生メニュー項目	初期設定
[再生フォルダー設定] (□□21)	全てのフォルダー
[撮影直後の画像確認] (□□28)	しない
[削除後の次再生画像] (□□28)	後ろのコマ
[連続撮影後の再生画像] (□□29)	最後の画像
[縦横位置情報の記録] (□□30)	する
[縦位置自動回転] (□□30)	する
[スライドショー] (□□31)	
[再生画像の種類]	静止画と動画
[インターバル設定]	2秒

■ 静止画撮影メニューの初期設定

静止画撮影メニュー項目	初期設定
[静止画撮影メニューの拡張] (□□36)	しない
[記録フォルダー設定] (□□36)	
[フォルダーグループ名変更]	ND850
[フォルダー番号指定]	100
[ファイル名設定] (□□39)	DSC
[主スロットの選択] (□□41)	XQDスロット
[副スロットの機能] (□□41)	順次記録

静止画撮影メニュー項目	初期設定
[フラッシュ発光] (□42)	
[発光モード]	TTL調光
[ワイヤレス設定]	しない
[増灯発光モード]	グループ発光
[撮像範囲] (□46)	
[撮像範囲設定]	FX (36×24)
[DX自動切り換え]	する
[ファインダーのマスク表示]	しない
[画質モード] (□47)	NORMAL
[画像サイズ] (□48)	
[JPEG/TIFF]	サイズL
[RAW]	サイズL
[RAW記録] (□49)	
[圧縮方式]	ロスレス圧縮RAW
[記録ビットモード]	14ビット記録
[ISO感度設定] (□50)	
[ISO感度]	100
[感度自動制御]	しない
[ホワイトバランス] (□51)	
	オート： AUTO0 白を優先する
[微調整値]	A-B: 0、G-M: 0
[色温度設定]	5000K
[プリセットマニュアル]	d-1
[ピクチャーコントロール] (□52)	オート
[色空間] (□56)	sRGB
[アクティブD-ライティング] (□56)	しない
[長秒時ノイズ低減] (□57)	しない
[高感度ノイズ低減] (□57)	標準
[ヴィネットコントロール] (□58)	標準
[自動ゆがみ補正] (□59)	しない

静止画撮影メニュー項目	初期設定
[フリッカー低減] (□□60)	
[フリッカー低減機能]	無効
[フリッカー検出の表示]	する
[オートブラケティングのセット] (□□62)	
	AE・フラッシュ ブラケティング
[多重露出] (□□63)*	
[多重露出モード]	しない
[コマ数]	2
[合成モード]	加算平均
[全画像の保存]	する
[HDR (ハイダイナミックレンジ)] (□□70)	
[HDRモード]	しない
[露出差]	オート
[スムージング]	標準
[インターバルタイマー撮影] (□□71)	
	設定解除
[開始日時の設定]	即時
[撮影間隔]	1分
[撮影回数×1回のコマ数]	0001×1
[露出平滑化]	しない
[サイレント撮影]	しない
[撮影間隔優先]	しない
[フォーカスシフト撮影] (□□80)	
[撮影回数]	100
[フォーカスステップ幅]	5
[待機時間]	0
[露出平滑化]	しない
[サイレント撮影]	しない
[サイレント撮影 (静止画Lv)] (□□81)	
	しない

※ 多重露出撮影中は、1コマ目を撮影してから設定したコマ数分撮影し終えるまで静止画撮影メニューはリセットできません。

■■ 動画撮影メニューの初期設定

動画撮影メニュー項目	初期設定
[ファイル名設定] (□83)	DSC
[動画記録先] (□83)	XQDスロット
[撮像範囲] (□83)	
[撮像範囲設定]	FX
[DX自動切り換え]	する
[画像サイズ/フレームレート] (□84)	1920×1080 60p
[動画の画質] (□85)	高画質
[動画記録ファイル形式] (□85)	MOV
[ISO感度設定] (□86)	
[制御上限感度]	25600
[Mモード時の感度自動制御]	しない
[Mモード時のISO感度]	100
[ホワイトバランス] (□87)	静止画の設定と同じ
[微調整値]	A-B: 0、G-M: 0
[色温度設定]	5000K
[プリセットマニュアル]	d-1
[ピクチャーコントロール] (□87)	静止画の設定と同じ
[アクティブD-ライティング] (□87)	しない
[高感度ノイズ低減] (□88)	標準
[フリッカー低減] (□88)	オート
[マイク感度] (□89)	マイク感度 オート
[アッテネーター] (□89)	無効
[録音帯域] (□90)	広帯域
[風切り音低減] (□90)	しない
[電子手ブレ補正] (□90)	しない

動画撮影メニュー項目	初期設定
[タイムラプス動画] (□91)	設定解除
[撮影間隔]	5秒
[撮影時間]	25分
[露出平滑化]	する
[サイレント撮影]	しない
[撮像範囲]	
[撮像範囲設定]	FX
[DX自動切り換え]	する
[画像サイズ/フレームレート]	1920×1080 60p
[撮影間隔優先]	しない

■ カスタムメニューの初期設定

	カスタムメニュー項目	初期設定
a1	[AF-Cモード時の優先] (□104)	リリース
a2	[AF-Sモード時の優先] (□105)	フォーカス
a3	[AFロックオン] (□106)	
	[横切りへの反応]	3
	[被写体の動き]	(標準)
a4	[3D-トラッキングの顔認識] (□107)	しない
a5	[3D-トラッキングの捕捉領域] (□107)	標準
a6	[AF点数切り換え] (□107)	55点
a7	[縦/横位置フォーカス切換] (□108)	しない
a8	[半押しAFレンズ駆動] (□109)	する
	[非合焦時のリリース]	許可
a10	[AFモードの制限] (□110)	制限しない
a11	[フォーカスポイント循環選択] (□111)	しない
a12	[フォーカスポイント表示の設定] (□111)	
	[フォーカスポイント照明]	オート
	[マニュアルフォーカス時の表示]	する
	[ダイナミックAF時のアシスト表示]	する
a13	[AF設定時のフォーカスリング操作] (□112)	有効

カスタムメニュー項目		初期設定
b1	[ISO感度設定ステップ幅] (□113)	1/3段
b2	[露出設定ステップ幅] (□113)	1/3段
b3	[露出・調光補正ステップ幅] (□113)	1/3段
b4	[露出補正簡易設定] (□114)	しない
b5	[マルチパターン測光] (□115)	顔認識する
b6	[中央部重点測光範囲] (□115)	φ12 mm
b7	[基準露出レベルの調節] (□116)	
	[マルチパターン測光]	0
	[中央部重点測光]	0
	[スポット測光]	0
	[ハイライト重点測光]	0
c1	[シャッターボタンAEロック] (□117)	しない
c2	[半押しタイマー] (□117)	6秒
c3	[セルフタイマー] (□118)	
	[時間]	10秒
	[撮影コマ数]	1コマ
	[連続撮影間隔]	0.5秒
c4	[モニターのパワーオフ時間] (□118)	
	[画像の再生]	10秒
	[メニュー表示]	1分
	[インフォ画面表示]	10秒
	[撮影直後の画像確認]	4秒
	[ライブビュー表示]	10分
d1	[低速連続撮影速度] (□119)	5コマ/秒
d2	[連続撮影コマ数] (□119)	200
d3	[ISO感度表示] (□119)	しない
d4	[連動リリースモード設定] (□120)	連動する
d5	[露出ディレーモード] (□120)	しない
d6	[電子先幕シャッター] (□120)	無効
d7	[連番モード] (□121)	する
d8	[ピーキング表示色] (□122)	赤
d9	[ファインダー内格子線表示] (□122)	しない

カスタムメニュー項目		初期設定
d10	[イルミネーター点灯] (□122)	しない
d11	[連続撮影中の表示 (Lv)] (□123)	する
d12	[光学手ブレ補正] (□123)	する
e1	[フラッシュ撮影同調速度] (□124)	1/250秒
e2	[フラッシュ時シャッタースピード制限] (□125)	1/60秒
e3	[フラッシュ使用時の露出補正] (□125)	全体を補正
e4	[ 使用時の感度自動制御] (□126)	被写体と背景
e5	[モデリング発光] (□126)	する
e6	[BKT変化要素 (Mモード)] (□127)	フラッシュ・ シャッタースピード
e7	[BKTの順序] (□128)	[0] → [-] → [+]
f1	[カスタムボタンの機能] (□129)	
	[プレビューボタン]	プレビュー
	[プレビューボタン+ 	設定しない
	[Fn1ボタン]	設定しない
	[Fn1ボタン+ 	撮像範囲選択
	[Fn2ボタン]	レーティング
	[AF-ONボタン]	AF-ON
	[サブセクター]	フォーカスポイント選択
	[サブセクター中央]	AE-L/AF-L
	[サブセクター中央+ 	設定しない
	[BKTボタン+ 	オートブラケットング
	[動画撮影ボタン+ 	設定しない
	[レンズのフォーカス作動ボタン]	AF-L
f2	[中央ボタンの機能] (□141)	
	[撮影モード]	フォーカスポイント 中央リセット
	[再生モード]	拡大画面との切り換え
	[拡大画面との切り換え]	低倍率 (50%)
	[ライブビュー]	フォーカスポイント 中央リセット

カスタムメニュー項目		初期設定
f3	[シャッタースピードと絞り値のロック] (□143)	
	[シャッタースピードのロック]	しない
	[絞り値のロック]	しない
f4	[コマンドダイヤルの設定] (□143)	
	[回転方向の変更]	露出補正の設定時: □、 シャッタースピード/ 絞り値の設定時: □
	[メインとサブの入れ換え]	露出設定: しない、 AF設定: しない
	[絞り値の設定方法]	サブコマンドダイヤル
	[再生/メニュー画面で使用]	しない
	[サブコマンドダイヤルで画像送り]	10コマ
f5	[マルチセクターの半押し起動] (□147)	しない
f6	[ボタンのホールド設定] (□147)	しない
f7	[インジケータの+/-方向] (□147)	
f8	[ライブビューボタンの設定] (□148)	有効
f9	[※スイッチの機能] (□148)	※の点灯/消灯
f10	[MB-D18のボタンの機能] (□149)	
	[Fnボタン]	AE-L (リリースでリセット)
	[Fnボタン+☺]	設定しない
	[AF-ONボタン]	カメラのAF-ONボタンと同じ
	[マルチセクター]	カメラのマルチセクターと同じ
	上下左右機能入れ換え	しない

カスタムメニュー項目		初期設定
g1	[カスタムボタンの機能] (□152)	
	[プレビューボタン]	インデックスマーキング
	[プレビューボタン+ 	設定しない
	[Fn1ボタン]	インデックスマーキング
	[Fn1ボタン+ 	設定しない
	[Fn2ボタン]	設定しない
	[サブセレクター中央]	AE-L/AF-L
	[サブセレクター中央+ 	設定しない
	[シャッターボタン]	静止画撮影
g2	[ハイライト表示の明るさ設定] (□155)	248

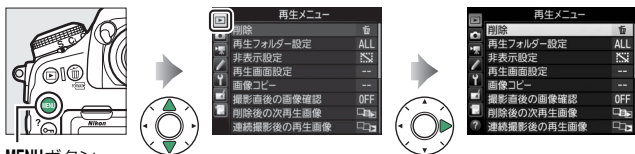
■ セットアップメニューの初期設定

セットアップメニュー項目		初期設定
[地域と日時] (□158)		
	[スマートフォンと同期]	しない
	[夏時間の設定]	しない
[モニターの明るさ] (□159)		
	[メニュー / 再生]	0
	[ライブビュー]	0
[モニターのカラーカスタマイズ] (□160)		A-B: 0、G-M: 0
[インフォ画面の表示設定] (□162)		自動
[AF微調節] (□163)		
	[AF微調節 (する/しない)]	しない
[イメージセンサークリーニング] (□167)		
	[電源スイッチに連動]	電源ONとOFFで実行
[電子音] (□175)		
	[電子音設定]	無効
	[音量]	2
	[音の高さ]	低音

セットアップメニュー項目	初期設定
[タッチ操作] (□□176)	
[タッチ操作の設定]	有効
[1コマ送り時のフリック操作]	左→右
[HDMI] (□□176)	
[出力解像度]	オート
[外部記録制御]	しない
[詳細設定]	
[出力レンジ]	オート
[出力画面サイズ]	100%
[ライブビュー時の情報表示]	する
[モニターの同時表示]	する
[位置情報] (□□177)	
[スマートフォンから取得]	しない
[GPS機器設定]	
[半押しタイマー]	有効
[衛星による日時合わせ]	する
[リモコン (WR) 設定] (□□178)	
[LEDランプの点灯]	する
[リンクモード]	ペアリング
[リモコン (WR) のFnボタンの機能] (□□179)	設定しない
[機内モード] (□□179)	無効
[スマートフォンへの自動送信] (□□181)	しない
[Bluetooth] (□□182)	
[通信機能]	無効
[電源OFF中の通信]	する
[Eye-Fi送信機能] (□□183)	有効
[MB-D18電池設定] (□□185)	アルカリ単3形電池
[電池の使用順序] (□□186)	MB-D18から
[カードなし時リリース] (□□188)	リリース許可

▶ 再生メニュー：再生で使える便利な機能

MENUボタンを押して、タブの▶アイコンを選ぶと、再生メニューが表示されます。



MENUボタン

再生メニューの項目は、次の通りです。

メニュー項目	📖
削除	21
再生フォルダー設定	21
非表示設定	22
再生画面設定	23
画像コピー	24
撮影直後の画像確認	28

メニュー項目	📖
削除後の次再生画像	28
連続撮影後の再生画像	29
縦横位置情報の記録	30
縦位置自動回転	30
スライドショー	31
スマートフォンへの送信指定	32

📌 関連ページ

「再生メニューの初期設定」(📖10)

削除

MENU ボタン →  再生メニュー

複数の画像を一括して削除できます。

 選択画像削除	選んだ画像を削除します。
ALL 全画像削除	「再生フォルダー設定」で設定したフォルダー内の全ての画像を削除します。 メモリーカードを2枚使用している場合は、画像を削除するスロットを選択できます。



再生フォルダー設定

MENU ボタン →  再生メニュー

画像の再生時に表示するフォルダーを設定します。

(フォルダーグループ名)	D850で作成された全てのフォルダー内の画像を再生します。フォルダーグループ名は静止画撮影メニュー「記録フォルダー設定」の「フォルダーグループ名変更」(□36)で変更できます。
全てのフォルダー	メモリーカード内の全てのフォルダーの画像を再生します。
記録中のフォルダー	画像の記録に実際に使われているフォルダーの画像を再生します。

非表示設定

MENUボタン → 再生メニュー

非表示設定した画像は、非表示設定画面以外では表示されません。

1 [設定] を選ぶ

- [設定] を選んでマルチセクターの🔍を押すと、画像の選択画面が表示されます。



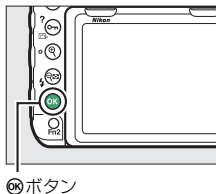
2 非表示にする画像を選ぶ

- マルチセクターを操作して画像を選び、**中央**ボタンを押して設定します。設定すると🔍が表示されます。もう一度**中央**ボタンを押すと、🔍が消えます。
- 非表示にする画像全てに設定してください。
- 🔍ボタンを押している間、選んだ画像を拡大表示します。



3 設定を完了する

- **OK** ボタンを押して、設定を終了します。



✓ 非表示設定についてのご注意

- メモリーカードを初期化すると、非表示設定した画像も削除されますのでご注意ください。
- プロテクトと非表示の両方を設定した画像の非表示設定を解除すると、プロテクト設定も解除されます。

✓ 設定した非表示設定を一括で解除したいときは

[非表示設定] 画面で [一括解除] を選ぶと、[非表示設定] で設定した内容を全て解除します。

再生画面設定

MENU ボタン → 再生メニュー

標準表示画面で、選んだフォーカスポイントまたはピント合わせに使用したフォーカスポイントを表示するかどうかを設定できます。また、1コマ表示時の画像情報表示に、画像のみ表示、ハイライト表示、RGBヒストグラム表示、撮影情報表示、統合表示を追加します。

- 追加したい項目を選び、マルチセレクターの を押してチェックボックスをオン ☒ にします。もう一度 を押すと、チェックボックスがオフ ☐ になります。
- **OK** ボタンを押すと、設定を完了します。

画像コピー

MENUボタン → 再生メニュー

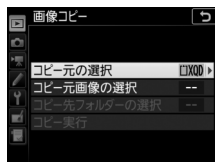
メモリーカードを2枚使用しているときに、メモリーカード内の画像をもう一方のメモリーカードにコピーできます。

コピー元の選択	コピーしたい画像があるスロットを選びます。
コピー元画像の選択	コピーしたい画像を選びます。
コピー先フォルダーの選択	〔コピー元の選択〕で選ばなかったスロットにあるフォルダーを画像のコピー先として選びます。
コピー実行	コピーを実行します。

■ 画像のコピー方法

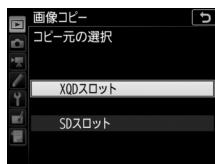
1 〔コピー元の選択〕を選ぶ

- 〔コピー元の選択〕を選んでマルチセクターの $\odot$ を押すと、〔コピー元の選択〕画面が表示されます。



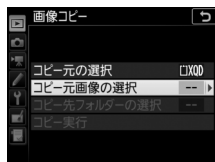
2 コピーしたい画像があるスロットを選ぶ

- コピーしたい画像が入っているカードのスロットを選んで $\odot$ ボタンを押すと、〔画像コピー〕画面に戻ります。



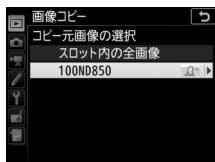
3 〔コピー元画像の選択〕を選ぶ

- 〔コピー元画像の選択〕を選んで $\odot$ を押すと、〔コピー元画像の選択〕画面が表示されます。



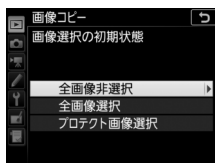
4 コピー元画像があるフォルダーを選ぶ

- コピー元画像のあるフォルダーを選んで $\odot$ を押すと、[画像選択の初期状態]画面が表示されます。



5 画像の選択方式を選ぶ

- コピー画像の選び方は、次の3通りがあります。



全画像非選択	フォルダー内の全ての画像が選ばれていない状態で表示されます。 コピーする画像を1枚ずつ自分で選びたい場合に適しています。
全画像選択	フォルダー内の全ての画像が選ばれた状態で表示されます。 フォルダー内の全画像をコピーしたい場合に適しています。
プロテクト画像選択	フォルダー内のプロテクトされている画像だけが選ばれた状態で表示されます。

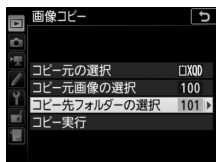
6 コピーする画像を選ぶ

- マルチセクターで画像を選んで中央ボタンを押すと、✓が表示されます。もう一度中央ボタンを押すと、✓が消えます。
- $\odot$ ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。
- コピーしたい全ての画像に✓を入れてから $\odot$ ボタンを押すと、[画像コピー]画面に戻ります。



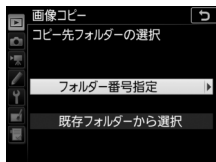
7 [コピー先フォルダーの選択] を選ぶ

- [コピー先フォルダーの選択] を選んで
⏏を押すと、[コピー先フォルダーの選択] 画面が表示されます。



8 コピー先フォルダーの選択方法を選ぶ

- コピー先フォルダーの選択方法を選んで
⏏を押します。



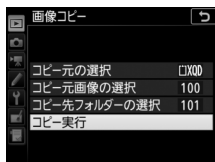
フォルダー 番号指定	コピー先のフォルダー番号を入力して指定します (□□37)。指定したフォルダー番号のフォルダーがない場合は、フォルダーを新規作成します。	The screenshot shows the 'Image Copy' menu with 'Folder number designation' selected. It displays a numeric keypad with '101' entered and 'ND850' next to it. At the bottom, it shows '100 - 999' and buttons for 'Move', 'Settings', and 'OK/Decision'.
既存フォルダー から選択	既存フォルダーの一覧表示から、コピー先フォルダーを選びます。	The screenshot shows the 'Image Copy' menu with 'Select from existing folders' selected. It displays a list of folders: '100ND850', '101ND850' (highlighted), '102ND850', and '103ND850'. At the bottom, it shows buttons for 'OK/Decision' and 'OK/Decision'.

9 コピー先フォルダーを選ぶ

- それぞれの画面で、フォルダー番号を指定または選んで⏏ボタンを押すと、コピー先フォルダーを設定して [画像コピー] 画面に戻ります。

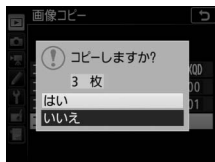
10 [コピー実行] を選ぶ

- [コピー実行] を選んで **OK** ボタンを押すと、コピーの確認画面が表示されます。



11 [はい] を選ぶ

- [コピーしますか?] というメッセージと、コピーする枚数が表示されます。
- [はい] を選んで **OK** ボタンを押すと、コピーを実行します。
- コピーが終了したら、もう一度 **OK** ボタンを押してコピーを完了します。



✓ 画像コピーについてのご注意

- コピー先メモリーカードの残量がない場合、コピーできません。
- コピー先フォルダーに同じファイル番号が存在する場合、図のような画面が表示されます。このとき、[上書き] または [全て上書き] を選ぶと、コピー元の画像に上書きされますのでご注意ください。ただし、コピー先の画像にプロテクトまたは非表示が設定されている場合は、上書きできません。[スキップ] を選ぶと、上書きせずに残りの画像のコピーを続けます。[キャンセル] を選ぶと、コピーを中止します。
- プロテクトおよびレーティングの設定はコピー先の画像に引き継がれます。
- 非表示設定した画像はコピーできません。
- 動画をコピーするときは、バッテリー切れを防ぐため、十分に充電されたバッテリーをお使いください。



撮影直後の画像確認

MENUボタン → 再生メニュー

撮影直後に画像を自動的に表示するかどうかを設定します。[しない]を選んだ場合に撮影画像を表示確認するには、ボタンを押してください。

削除後の次再生画像

MENUボタン → 再生メニュー

画像を削除した後に表示する画像を設定できます。

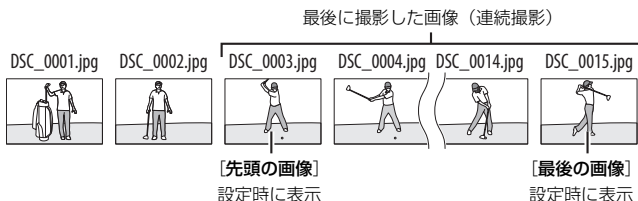
 後ろのコマ	削除した画像の次に撮影した画像を表示します。 最後の画像を削除した場合は、1つ前の画像を表示します。
 前のコマ	削除した画像の前に撮影した画像を表示します。 最初の画像を削除した場合は、次に撮影した画像を表示します。
 直前コマ送り方向に従う	- 直前のコマ送りが前の画像から後の画像の順番のときは、[後ろのコマ]と同じ動作になります。 - 直前のコマ送りが後の画像から前の画像の順番のときは、[前のコマ]と同じ動作になります。

連続撮影後の再生画像

MENU ボタン → 再生メニュー

最後に撮影した画像が連続撮影の場合、画像を再生したときに連続撮影した最初のコマまたは最後のコマのどちらを表示するかを設定できます。

- 再生メニュー **「撮影直後の画像確認」** (28) が **「しない」** に設定されている場合のみ有効です。



縦横位置情報の記録

MENUボタン → 再生メニュー

撮影時のカメラの縦横位置情報を画像に記録できます。

する	画像モニターやNX Studioで画像を再生するときに、記録した縦横位置情報を利用して、自動的に回転表示されます。 記録されるカメラの縦横位置情報は、次の3種類です。  横位置  縦位置 時計回りに 90°回転  縦位置 反時計回りに 90°回転
しない	縦横位置情報は記録されず、再生時には常に横位置で表示します。

✓ 縦横位置情報記録についてのご注意

カメラを上向きまたは下向きにして撮影したり流し撮りすると、縦横位置情報が正しく得られない場合があります。

縦位置自動回転

MENUボタン → 再生メニュー

〔する〕に設定すると、縦位置で撮影した画像を自動的に回転して表示します。

- 自動的に回転して表示するには、〔縦横位置情報の記録〕も〔する〕に設定しておく必要があります。

✓ 縦位置自動回転についてのご注意

〔縦位置自動回転〕を〔する〕に設定しても、撮影直後の画像確認時は自動回転しません。

スライドショー

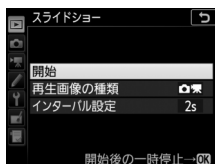
MENU ボタン → 再生メニュー

撮影した画像を記録された順番に1コマずつ連続再生します。[再生フォルダー設定] (□21) で設定されたフォルダー内の画像が記録された順番で再生されます。ただし、[非表示設定] (□22) されている画像は再生されません。

開始	スライドショーを開始します。
再生画像の種類	スライドショーで再生する画像の種類を [静止画と動画]、[静止画のみ]、[動画のみ] から選べます。
インターバル設定	1コマの静止画を表示する時間を設定します。

■ スライドショーを再生する

[開始] を選んで ボタンを押すと、スライドショーが始まります。スライドショーの再生中は、次の操作が可能です。



1コマ進む/戻る	マルチセレクトの を押すと前の画像が、 を押すと次の画像が表示されます。
画像情報を切り換える	または を押すと、静止画再生時に画像情報の切り換えができます。画像情報を「画像のみ」に切り換えると、画像だけをスライドショーで再生できます。
一時停止する	ボタンを押すと、スライドショーが一時停止します。[再開] を選んで ボタンを押すと、スライドショーが再開します。
動画再生中に音量を調節する	ボタンを押すと音量が大きくなり、 ボタンを押すと小さくなります。
再生メニューに戻る	MENU ボタンを押すと、スライドショーを中止して、再生メニューに戻ります。
通常再生に戻る	ボタンを押すと、スライドショーを中止して、1コマ表示モードまたはサムネイル表示モードに戻ります。
撮影に戻る	シャッターボタンを半押しすると、すぐに撮影できます。

再生が終わると、メニューが表示されます。
 [再開] を選んで **OK** ボタンを押すと、スライドショーが再開します。
 [終了] を選んで **OK** ボタンを押すと、スライドショーが終了します。



スマートフォンへの送信指定

MENUボタン → **再生メニュー**

スマートフォンに取り込みたい静止画を送信指定することができます。
 送信指定した画像は、2Mサイズで送信されます。動画は送信指定できません。

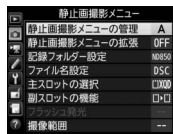
画像の選択	スマートフォンに送信指定する画像を選択します。
送信指定の一括解除	送信指定を一括で解除します。

静止画撮影メニュー： 静止画撮影で使える便利な機能

MENUボタンを押して、タブの  アイコンを選ぶと、静止画撮影メニューが表示されます。



MENUボタン



静止画撮影メニューの項目は次の通りです。

メニュー項目	📖
静止画撮影メニューの管理	34
静止画撮影メニューの拡張	36
記録フォルダー設定	36
ファイル名設定	39
主スロットの選択	41
副スロットの機能	41
フラッシュ発光	42
撮像範囲	46
画質モード	47
画像サイズ	48
RAW記録	49
ISO感度設定	50
ホワイトバランス	51
ピクチャーコントロール	52

メニュー項目	📖
カスタムピクチャーコントロール	53
色空間	56
アクティブD-ライティング	56
長秒時ノイズ低減	57
高感度ノイズ低減	57
ヴィネットコントロール	58
自動ゆがみ補正	59
フリッカー低減	60
オートブラケティングのセット	62
多重露出	63
HDR（ハイダイナミックレンジ）	70
インターバルタイマー撮影	71
フォーカスシフト撮影	80
サイレント撮影（静止画Lv）	81



関連ページ

「静止画撮影メニューの初期設定」（📖10）

静止画撮影メニューの管理

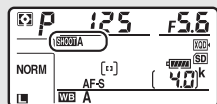
MENUボタン →  静止画撮影メニュー

カメラは、静止画撮影メニューの設定内容を、「A」、「B」、「C」、「D」の4通り記憶できます。それぞれの静止画撮影メニューで設定した内容は、他の静止画撮影メニューには反映されません。ただし、**[静止画撮影メニューの拡張]**、**[多重露出]**、**[インターバルタイマー撮影]**、**[フォーカスシフト撮影]**での設定は、全ての静止画撮影メニューで共通になります。

[静止画撮影メニューの管理]で「A」、「B」、「C」、「D」のいずれかを選んでから静止画撮影メニューの設定を変更すると、カメラが設定内容を記憶します。記憶した設定内容は、設定時の静止画撮影メニューを選び直すことで呼び出せます。

静止画撮影メニュー設定表示について

表示パネルとインフォ画面には、**SHOOT**と静止画撮影メニュー名（「A」～「D」）が表示されます。



関連ページ

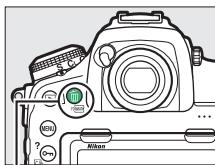
- 露出モード、シャッタースピード、絞り値、フラッシュモードも静止画撮影メニューに記憶する →  **[静止画撮影メニューの拡張]** (□□36)
- ボタン操作で、静止画撮影メニューの「A」～「D」を切り換えられるようにする →  f1 **[カスタムボタンの機能]** (□□129)

■■ 名前編集

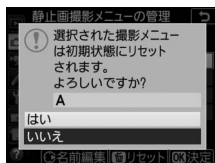
静止画撮影メニュー「A」～「D」の名前を編集するには、名前を変更したい静止画撮影メニューを選んでマルチセクターの  を押します。名前は20文字まで入力できます。入力画面での文字の入力方法については、「入力画面の操作方法について」(□40) をご覧ください。

■■ 静止画撮影メニューのリセット

静止画撮影メニュー「A」～「D」を個別にリセットできます。リセットしたい静止画撮影メニューを選んで  (FORMAT) ボタンを押すと、確認画面が表示されます。[はい] を選んで  ボタンを押すと、選んだ静止画撮影メニューの設定をリセットして初期設定に戻します(□10)。



 (FORMAT) ボタン



静止画撮影メニューの拡張

MENUボタン →  静止画撮影メニュー

[する] を選ぶと、静止画撮影メニュー（「A」～「D」）ごとに露出モード、シャッタースピード（露出モード**S**、**M**のみ）、絞り値（露出モード**A**、**M**のみ）、フラッシュモードを記憶できます。

- **「静止画撮影メニューの管理」** で「A」、「B」、「C」、「D」のいずれかを選んでから露出モード、シャッタースピード、絞り値、フラッシュモードの設定を変更すると、カメラが設定内容を記憶します。記憶した設定内容は、設定時の静止画撮影メニューを選び直すことで呼び出せます。
- **「しない」** を選ぶと、[する] を選ぶ前に設定した露出モード、シャッタースピード、絞り値、フラッシュモードに戻ります。

記録フォルダー設定

MENUボタン →  静止画撮影メニュー

撮影した画像を保存するフォルダーについての設定を行います。

フォルダー名



フォルダー番号 フォルダーグループ名

■ フォルダーグループ名変更

このカメラのフォルダーには、末尾に「ND850」というフォルダーグループ名が付きます。[フォルダーグループ名変更] では、新規フォルダーを作成する場合の「ND850」の5文字を任意に変更できます。入力画面での文字の入力方法については、「入力画面の操作方法について」(P40) をご覧ください。

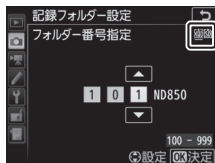
- 既存のフォルダー名は変更できません。
- 文字入力画面で  (P40) ボタンを長押しすると、フォルダーグループ名を初期設定に戻せます。

■ フォルダー番号指定

画像を保存するフォルダーを、フォルダー番号を指定して変更します。指定したフォルダーが存在しない場合、新規フォルダーを作成します。

1 [フォルダー番号指定] を選ぶ

- [フォルダー番号指定] を選んでマルチセクターの  を押すと、[フォルダー番号指定] 画面が表示されます。
- [フォルダー番号指定] 画面の右上には、フォルダーを作成するスロットが下線で強調されて表示されます。フォルダーを作成するスロットは、静止画撮影メニュー [副スロットの機能] (41) の設定によって異なります。



2 フォルダー番号の桁を選ぶ

-  または  を押して、フォルダー番号の変更したい桁を選びます。

3 フォルダー番号を変更する

-  または  を押して、フォルダー番号の数値を変更します。

4 フォルダー番号を設定する

- 既存のフォルダー番号を指定すると、フォルダー番号の左にフォルダーマーク (□、, ) が表示されます。□ または  が表示されたフォルダーを選んで  ボタンを押すと、指定したフォルダーを記録フォルダーに設定してメニューに戻ります。
- 既存のフォルダー番号以外の数値を入力して  ボタンを押すと、入力したフォルダー番号で新規フォルダーを作成します。
- 次に撮影する画像は、指定したフォルダーまたは作成した新規フォルダーに保存されます。
- キャンセルしたい場合は、**MENU** ボタンを押してください。

フォルダーマークについて

[フォルダー番号指定] 画面では、フォルダー番号の左に、画像の入っていないフォルダーのときは□、フォルダー内のファイル数が5000個またはファイル番号が9999に達しているフォルダーのときは■、その他のフォルダーのときは□のフォルダーマークが表示されます。■が表示されているフォルダーには、画像は記録できません。

■ 既存フォルダーから選択

既存のフォルダーの一覧から選びます。

1 [既存フォルダーから選択] を選ぶ

- [既存フォルダーから選択] を選んでマルチセクターの⏮を押すと、[既存フォルダーから選択] 画面が表示されます。



2 フォルダーを選ぶ

- ⏮または⏭を押して、画像を記録するフォルダーを選びます。

3 画像を記録するフォルダーを設定する

- ⏮ボタンを押すと、設定が有効になりメニュー画面に戻ります。
- 次に撮影する画像は、選んだフォルダーに保存されます。

✓ フォルダー番号およびファイル番号についてのご注意

フォルダー番号が999になるとカメラが自動的にフォルダーを作成できないため、次のときに撮影ができなくなります。

- フォルダー内のファイル数が5000個に達したとき（動画撮影時、最長記録時間を記録するのに必要なファイルによってフォルダー内のファイル数が5000個を超えるとカメラが判断した場合、動画の撮影はできなくなります）
- ファイル番号が9999に達したとき（動画撮影時、最長記録時間を記録するのに必要なファイルによってフォルダー内のファイル番号が9999を超えるとカメラが判断した場合、動画の撮影はできなくなります）

ただし、次の場合、メモリーカードにまだ空き容量があれば、さらに撮影を続けられます。

- フォルダー番号が999未満のフォルダーを新規に作成し、それを記録フォルダーとして選んだ場合
- 動画撮影時、動画撮影メニュー〔画像サイズ/フレームレート〕(□84) および〔動画の画質〕(□85) の設定を変更した場合

📁 大容量のメモリーカードを使用する場合

すでにたくさんのフォルダーや画像が記録されているメモリーカードを使用する場合、メモリーカードを挿入したときや、カメラの電源をONにしたときなどに行われるファイル検索に時間がかかるため、撮影や再生ができるまでに時間がかかることがあります。

ファイル名設定

MENUボタン → 📷 静止画撮影メニュー

このカメラで撮影した画像には、自動的にDSC_nnnn.xxxというファイル名が付きます。〔ファイル名設定〕では、「DSC」の3文字を任意に変更できます。入力画面での文字の入力方法については、「入力画面の操作方法について」(□40) をご覧ください。

📌 ファイル名について

- このカメラで撮影された画像にはDSC_nnnn.xxxという名称が付きます。
nnnnには0001～9999までの数字が入ります。xxxには選んだ画質モードによって、次の拡張子が入ります。
 - NEF：RAWの場合
 - TIF：TIFF（RGB）の場合
 - JPG：FINE/NORMAL/BASICの場合
 - MOV：MOV形式の動画の場合
 - MP4：MP4形式の動画の場合
 - NDF：イメージダストオフデータの場合
- 静止画撮影メニューの「色空間」で「Adobe RGB」（□56）を選んだ場合は_DSCnnnn.xxxという名称が付きます。
- 同時記録されたRAW画像とJPEG画像のファイル名は同じですが、拡張子がそれぞれNEF、JPGになります。

📌 入力画面の操作方法について

ファイル名設定や画像コメントなど、文字を入力するときに表示される画面での操作方は次の通りです。

- 入力エリアに新しい文字を入力する場合は、キーボードエリアで文字をタッチしてください。マルチセクターを操作して入力するキーボードエリアの文字上にカーソルを移動させ、**中央ボタン**を押しても入力できます。
- 入力エリアのカーソルを左右に移動するには、入力エリアをタッチするか🔍（↔）ボタンを押しながらマルチセクターの🔍または🔍を押します。
- 入力エリアからあふれた文字は削除されます。
- 1文字削除するには、🔍（↔）ボタンを押しながらマルチセクターの🔍または🔍を押して削除する文字の上にカーソルを移動させ、🗑️（FORMAT）ボタンを押します。
- 内容を確認し、文字入力を終了する場合は、🔍ボタンを押します。
- 文字の入力をキャンセルするには、**MENU**ボタンを押します。



主スロットの選択

MENU ボタン →  静止画撮影メニュー

撮影時や再生時に優先的に使うスロットを設定します。

XQDスロット	XQDカードを優先的に使うときに選びます。
SDスロット	SDカードを優先的に使うときに選びます。

副スロットの機能

MENU ボタン →  静止画撮影メニュー

2つあるメモリーカードスロットの両方を使って画像を記録するときの副スロットの機能を設定できます。

  順次記録	主スロットから優先的に記録し、空き容量がなくなったら、記録先を副スロットに変更します。
  バックアップ記録	バックアップ用として同じ画像を主スロット、副スロットに記録します。
  RAW+JPEG分割記録	• [画質モード] が [RAW+FINE★]、[RAW+FINE]、[RAW+NORMAL★]、[RAW+NORMAL]、[RAW+BASIC★]、または [RAW+BASIC] の場合、主スロットにRAW画像、副スロットにJPEG画像を記録します。 • その他の画質モードの場合は、同じ画像を主スロットと副スロットの両方に記録します。

フラッシュ発光

MENUボタン → 静止画撮影メニュー

別売のスピードライトを取り付けた場合の発光モードを設定したり、ワイヤレス増灯撮影時の設定を行います。別売スピードライトを使用した撮影については□220をご覧ください。



■ 発光モード

SB-5000、SB-500、SB-400、またはSB-300をカメラに装着した場合、スピードライトの発光モードや補正量などは、静止画撮影メニュー「フラッシュ発光」の「発光モード」で設定できます。選べる発光モードは装着したスピードライトによって異なります。選んだ項目によって「発光モード」の下に表示されるメニュー項目が変更されます。



- SB-5000をお使いの場合はスピードライト本体でも設定できます。
- SB-500、SB-400、SB-300以外のスピードライトを装着した場合、発光モードなどの設定はスピードライト本体で行ってください。

TTL調光	スピードライトの発光量は、撮影状況に応じて自動的に調節されます。 • 「TTL調光補正」でスピードライトの調光補正値を設定します。SB-500、SB-400またはSB-300を装着した場合、調光補正は () ボタンを押して行えます。
外部自動調光	スピードライトの発光による被写体からの反射光を外部自動調光用センサー窓で測光し、スピードライトが発光量を制御します。 • 「外部自動調光補正」でスピードライトの調光補正値を設定します。 • 「絞り連動外部自動調光」(A) と「外部自動調光」(A) があります。セットアップメニューの「レンズ情報手動設定」(□167) でレンズの開放絞り値と焦点距離を設定していない非CPUレンズを装着した場合はAモードになります。詳しくはご使用のスピードライトの使用説明書をご覧ください。

距離優先 マニュアル発光	スピードライトから被写体までの距離を設定すると、カメラの設定に合わせて適正な発光量をスピードライトが自動的に設定します。 • 〔距離優先マニュアル発光設定〕 の 〔距離〕 で被写体までの距離を、〔調光補正〕 でスピードライトの調光補正値を設定します。
マニュアル発光	指定した発光量でスピードライトが発光します。 • 〔マニュアル発光量〕 でスピードライトの発光量を設定します。
リピーティング 発光	1回の露光中に、スピードライトを連続発光させて、被写体の連続的な動きを多重露出のように写し込みます。 • 〔リピーティング発光設定〕 の 〔発光量〕 でスピードライトの発光量を、〔回数〕 で連続発光する回数を設定できます。〔周波数〕 で発光周波数（1秒あたりの発光回数）をHz（ヘルツ）単位で設定できます。 • 最大連続発光回数は〔発光量〕 と 〔周波数〕 の組み合わせにより異なります。詳しくはご使用のスピードライトの使用説明書をご覧ください。

■ ワイヤレス設定

複数のスピードライトを同時に発光させて撮影（ワイヤレス増灯撮影）する場合に、制御方法を選びます。このメニューは、カメラにSB-5000、SB-500、またはWR-R10を装着したときのみ表示されます。



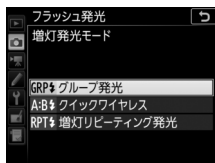
 光制御AWL	マスターフラッシュの微小発光で、リモートフラッシュを制御します。 カメラにSB-5000またはSB-500を装着した場合に選べます。
 光制御/ 電波制御AWL	光で制御するリモートフラッシュと、電波で制御するリモートフラッシュを併用してフラッシュ撮影を行います。 - カメラにSB-500およびWR-R10を装着した場合に選べます。 「増灯発光モード」(□45) は「グループ発光」のみ使用できます。
 電波制御AWL	カメラに装着したWR-R10を使用して、電波によってリモートフラッシュを制御します。 - カメラにWR-R10を装着した場合に選べます。 - リモートフラッシュは、電波制御AWL対応のスピードライトのみ使用できます。
しない	リモートフラッシュの制御を行いません。

ワイヤレスリモートコントローラー WR-R10について

- カメラに装着するには、WR用変換アダプター WR-A10が必要です。
- 電波制御アドバンストワイヤレスライティングを行うためには、別売のワイヤレスリモートコントローラー WR-R10のファームウェアをVer.3.0以降の最新版にバージョンアップしてお使いください。ファームウェアのバージョンアップ方法については、当社のホームページでご確認ください。

■ 増灯発光モード

フラッシュの増灯発光モードを設定できます。選んだ項目によって「増灯発光モード」の下に表示されるメニュー項目が変更され、それぞれの増灯発光モードでの設定が変更できます。



グループ発光	グループごとに発光モードを設定できます。 • グループ発光設定 で各グループの発光モードおよび補正量を設定できます。光制御の場合は、リモートフラッシュと通信を行うためのマスターフラッシュのチャンネルを設定します。
クイックワイヤレス	リモートフラッシュのAグループとBグループの光量比、およびCグループの発光量を設定します。Cグループはマニュアル発光のみ使用できます。 • マスターフラッシュは発光しません。 • クイックワイヤレス発光設定 でAグループとBグループの光量比、調光補正、Cグループの発光量を設定できます。光制御の場合は、リモートフラッシュと通信を行うためのマスターフラッシュのチャンネルを設定します。
増灯リピーティング発光	1回の露光中に、増灯したスピードライトを連続発光させて、被写体の連続的な動きを多重露出のように写し込みます。 • 増灯リピーティング発光設定 で発光量、回数、周波数を設定できます。光制御の場合は、リモートフラッシュと通信を行うためのマスターフラッシュのチャンネルを設定します。 • 最大連続発光回数は発光量と周波数の組み合わせにより異なります。詳しくはご使用のスピードライトの使用説明書をご覧ください。

■ 電波リモートフラッシュ情報

電波制御で接続されているスピードライトの情報を表示します。



撮像範囲

MENUボタン →  静止画撮影メニュー

■ 撮像範囲設定

このカメラで設定できる撮像範囲は次の通りです。

 FX (36×24)	35mm判カメラに準じた画角のFXフォーマットで画像を記録します。35mm判カメラ用のニッコールレンズを装着して撮影するときに設定します。
 1.2× (30×20)	レンズに表記されている焦点距離の約1.2倍のレンズに相当する画角になります。
 DX (24×16)	DXフォーマットで画像を記録します。レンズに表記されている焦点距離の約1.5倍のレンズに相当する画角になります。
 5:4 (30×24)	アスペクト比（縦横比）が5：4の画像を記録します。
 1:1 (24×24)	アスペクト比（縦横比）が1：1の画像を記録します。

■ DX自動切り換え

DXレンズを装着したときに、自動的に撮像範囲を **[DX (24×16)]** に切り換えるかどうかを設定できます。

■ ファインダーのマスク表示

[する] にすると、撮像範囲が **[1.2× (30×20)]**、**[DX (24×16)]**、**[5:4 (30×24)]**、および **[1:1 (24×24)]** のときに記録されない部分を薄暗く表示します。

画質モード

MENUボタン → 静止画撮影メニュー

画像を記録するときの画質モードを設定できます。

画質モード	ファイル形式	内容
RAW	NEF	撮像素子の生データを未現像の状態で記録します。撮影時に設定したホワイトバランスやコントラストなどを、撮影後に変更できます。
RAW + FINE★/ RAW + FINE	NEF + JPEG	RAWとJPEG (FINE) の2種類の画像を同時に記録します。
RAW + NORMAL★/ RAW + NORMAL		RAWとJPEG (NORMAL) の2種類の画像を同時に記録します。
RAW + BASIC★/ RAW + BASIC		RAWとJPEG (BASIC) の2種類の画像を同時に記録します。
FINE★/FINE	JPEG	画像データを約1/4に圧縮して記録します (サイズ優先時)。
NORMAL★/ NORMAL		画像データを約1/8に圧縮して記録します (サイズ優先時)。
BASIC★/ BASIC		画像データを約1/16に圧縮して記録します (サイズ優先時)。
TIFF (RGB)	TIFF (RGB)	画像を8ビット非圧縮のTIFF-RGB形式で記録します。多くの画像アプリケーションで使用できます。

📌 JPEG画像の圧縮方式について

JPEG画像は★の有無によって圧縮方式が異なります。

- ★がある項目は画質優先となり、画質の劣化を抑えて圧縮します。画像によってファイルサイズは異なります。
- ★がない項目はサイズ優先となり、ファイルサイズがほぼ一定になるように圧縮します。

画像サイズ

MENUボタン →  静止画撮影メニュー

画像を記録するときの画像サイズ（大きさ）を設定できます。[JPEG/TIFF] ではJPEGまたはTIFFの画像サイズ、[RAW] ではRAWの画像サイズを設定できます。画像サイズは撮像範囲との組み合わせで変わります。

撮像範囲	画像サイズ	プリント時の大きさ (出力解像度300dpiの場合) ※
FX (36×24)	L (8256×5504ピクセル)	約69.9×46.6 cm
	M (6192×4128ピクセル)	約52.4×35.0 cm
	S (4128×2752ピクセル)	約35.0×23.3 cm
1.2× (30×20)	L (6880×4584ピクセル)	約58.3×38.8 cm
	M (5152×3432ピクセル)	約43.6×29.1 cm
	S (3440×2288ピクセル)	約29.1×19.4 cm
DX (24×16)	L (5408×3600ピクセル)	約45.8×30.5 cm
	M (4048×2696ピクセル)	約34.3×22.8 cm
	S (2704×1800ピクセル)	約22.9×15.2 cm
5:4 (30×24)	L (6880×5504ピクセル)	約58.3×46.6 cm
	M (5152×4120ピクセル)	約43.6×34.9 cm
	S (3440×2752ピクセル)	約29.1×23.3 cm
1:1 (24×24)	L (5504×5504ピクセル)	約46.6×46.6 cm
	M (4128×4128ピクセル)	約35.0×35.0 cm
	S (2752×2752ピクセル)	約23.3×23.3 cm

※ ピクセル数÷出力解像度 (dpi) ×2.54 cmで計算しています。

RAW画像を記録するときの圧縮方法および記録ビットモードを設定できます。

■■ 圧縮方式

ON  ロスレス 圧縮RAW	可逆圧縮します（データを完全に復元できます）。[非圧縮RAW]に対してファイルサイズが約60～80%になります。記録した画像は[非圧縮RAW]と同等の画質になります。
ON  圧縮RAW	非可逆圧縮します（データは完全には復元できません）。[非圧縮RAW]に対してファイルサイズが約45～65%になります。非可逆圧縮ですが、記録した画像は[非圧縮RAW]とほぼ同等の画質になります。
非圧縮RAW	圧縮しないため、[ロスレス圧縮RAW]や[圧縮RAW]に比べ、ファイルサイズが大きくなります。

■■ 記録ビットモード

12-bit 12ビット記録	RAW画像を12ビットで記録します。
14-bit 14ビット記録	RAW画像を14ビットで記録します。[12ビット記録]の場合よりもさらに豊かな階調表現になります。画像のファイルサイズは[12ビット記録]よりも大きくなります。

ISO感度設定

MENUボタン →  静止画撮影メニュー

静止画撮影時のISO感度に関する設定ができます。

ISO感度	ISO 64～25600から設定できます。また、ISO 64から約0.3段～約1段の範囲での減感と、ISO 25600から約0.3段～約2段の範囲での増感ができます。
感度自動制御	[する] を選んで  ボタンを押すと、カメラが自動的にISO感度を変更するようになります。[しない] を選ぶと、[ISO感度] で設定したISO感度に固定されます。 • [する] を選んだ場合、[制御上限感度] または [ 使用時の制御上限感度] でISO感度が高くなりすぎないように制御上限感度を、[低速限界設定] で露出モードPまたはAのときの感度自動制御が働き始めるシャッタースピード（1/4000～30秒）を設定できます。 • [ 使用時の制御上限感度] では、別売スピードライトを使用した場合の上限感度を設定できます。

ホワイトバランス

MENU ボタン →  静止画撮影メニュー

光源の種類に合わせてホワイトバランスを設定します。

ホワイトバランス	内容
AUTO オート	カメラが自動的にホワイトバランスを調節し、ほとんどの光源に対応できます。また、別売のスピードライト使用時は、フラッシュ発光時の条件に応じて適したホワイトバランスに調整されます。
AUTO0 白を優先する	
AUTO1 標準	
AUTO2 電球色を残す	
 A 自然光オート	自然光下での撮影に適したホワイトバランスに調整され、 AUTO （オート）より見た目に近い色味で撮影できます。
 電球	白熱電球下での撮影に適しています。
 蛍光灯	蛍光灯など、次の7種類の光源を使った撮影に適しています。
ナトリウム灯混合光	野球場、体育館などのナトリウム灯の混合光を使った撮影に適しています。
電球色蛍光灯	電球色蛍光灯下での撮影に適しています。
温白色蛍光灯	温白色蛍光灯下での撮影に適しています。
白色蛍光灯	白色蛍光灯下での撮影に適しています。
昼白色蛍光灯	昼白色蛍光灯下での撮影に適しています。
昼光色蛍光灯	昼光色蛍光灯下での撮影に適しています。
高色温度の水銀灯	高色温度の水銀灯などを使った撮影に適しています。
 晴天	晴天の屋外での撮影に適しています。
 フラッシュ	別売のスピードライトを使って撮影する場合に適しています。
 曇天	曇り空の屋外での撮影に適しています。
 晴天日陰	晴天の日陰での撮影に適しています。
 K 色温度設定	色温度を直接指定できます。
PRE プリセットマニュアル	撮影者が被写体や光源を基準にホワイトバランスを合わせたり、メモリーカード内の画像と同じホワイトバランスで撮影したりできます。

ピクチャーコントロール

MENU ボタン →  静止画撮影メニュー

記録する画像の仕上がり（ピクチャーコントロール）を、撮影シーンや好みに合わせて選べます。

 A オート	〔スタンダード〕をもとに、色合いや階調をカメラが自動的に調整します。 - 人物を撮影するシーンでは、〔スタンダード〕に比べて人物の肌を柔らかく表現した画像になります。 - 屋外のシーンでは、〔スタンダード〕に比べて青空や草木などの色が鮮やかな画像になります。
 SD スタンダード	鮮やかでバランスの取れた標準的な画像になります。 ほとんどの撮影状況に適しています。
 NL ニュートラル	素材性を重視した自然な画像になります。 撮影した画像を調整、加工する場合に適しています。
 VI ビビッド	メリハリのある生き生きとした色鮮やかな画像になります。 青、赤、緑など、原色を強調したいときに適しています。
 MC モノクローム	白黒やセピアなど、単色の濃淡で表現した画像になります。
 PT ポートレート	人物の肌が滑らかで自然な画像になります。
 LS 風景	自然の風景や街並みが色鮮やかな画像になります。
 FL フラット	シャドー部からハイライト部まで幅広く情報を保持した画像になります。 撮影した画像を積極的に調整、加工する場合に適しています。

カスタムピクチャーコントロール

MENUボタン → 静止画撮影メニュー

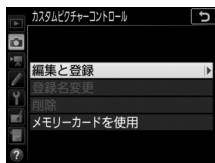
「ピクチャーコントロール」を好みに合わせて調整して、「カスタムピクチャーコントロール」として登録できます。

編集と登録	カスタムピクチャーコントロールを登録または編集します。
登録名変更	登録したカスタムピクチャーコントロールの名前を変更します。
削除	登録したカスタムピクチャーコントロールを削除します。
メモリーカード を使用	登録したカスタムピクチャーコントロールをメモリーカードに保存したり、メモリーカードに保存したカスタムピクチャーコントロールをカメラに登録できます。

■ カスタムピクチャーコントロールの登録方法

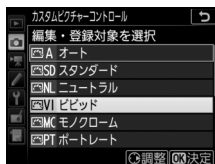
1 [編集と登録] を選ぶ

- [編集と登録] を選んで  を押すと、
[編集・登録対象を選択] 画面が表示されます。



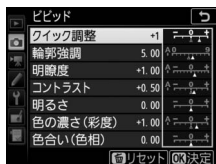
2 元にするピクチャーコントロールを選ぶ

- ピクチャーコントロールを選んで  を押すと、編集画面が表示されます。
- 編集を行わない場合は  ボタンを押します。[登録先の選択] 画面が表示されます (手順4へ)。



3 ピクチャーコントロールを調整する

- 項目の内容や調整方法は「ピクチャーコントロール」と同じです。
- **OK** ボタンを押すと「登録先の選択」画面が表示されます。
- **FORMAT** ボタンを押すと初期設定の内容に戻ります。



4 登録先を選ぶ

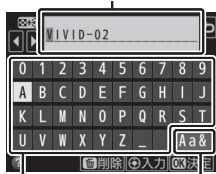
- C-1～9（カスタム1～9）の中から登録先を選びます。



5 登録名を編集する

- 登録先を選んで**OK**を押すと、「登録名変更」画面が表示されます。
- 初期状態では、「(元になったピクチャーコントロール名) -XX」が名前エリアに入力されています。XXには自動的に数値が設定されます。
- 登録名は19文字まで入力できます。文字はカーソル位置に挿入されます。
- 文字種変更アイコンをタッチすると、アルファベット大文字/小文字/記号を切り換えられます。
- 文字の入力方法については、「入力画面の操作方法について」(P40)をご覧ください。

名前エリア

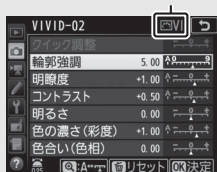


キーボード 文字種変更
エリア

元になったピクチャーコントロールの表示について

カスタムピクチャーコントロールの調整画面では、元になったピクチャーコントロールがアイコンで表示されます。

元になった
ピクチャーコントロール

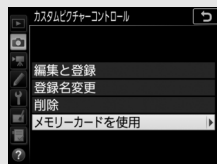


カスタム1～9で調整できる項目について

カスタム1～9を選んだ場合は、元になったピクチャーコントロールと同じ項目が調整できます。

カメラで登録したカスタムピクチャーコントロールについて

「[カスタムピクチャーコントロール] の [メモリーカードを使用]」を使うと、カメラで登録したカスタムピクチャーコントロールをメモリーカードにコピーできます。また、メモリーカード内のカスタムピクチャーコントロールをカメラに登録したり、削除したりできます（メモリーカードを2枚使用している場合、静止画撮影メニューの「主スロットの選択」(□41) で選んだ主スロットのカードが対象になります）。



- **[カメラに登録]**：メモリーカードに保存されているカスタムピクチャーコントロールをカメラに登録（インポート）できます。カメラに登録したいカスタムピクチャーコントロールと登録先（C-1～9（カスタム1～9））を選んで名前を付けると、選んだカスタムピクチャーコントロールがカメラに登録されます。
- **[メモリーカードから削除]**：メモリーカードに保存されているカスタムピクチャーコントロールを選んで削除できます。
- **[メモリーカードにコピー]**：カメラで登録したカスタムピクチャーコントロールをメモリーカードにコピー（エクスポート）できます。メモリーカードにコピーしたいカスタムピクチャーコントロールとコピー先（1～99）を選んでⓧボタンを押すと、選んだカスタムピクチャーコントロールがメモリーカードにコピーされます。

色空間

MENUボタン →  静止画撮影メニュー

記録する画像の色空間を指定します（色空間とは、モニターやプリンターで表現できる色の範囲のことです）。[sRGB] 色空間は、再生やプリントなど、一般的な用途で画像を楽しむのに適しています。[Adobe RGB] 色空間は[sRGB] 色空間に比べて色域が広いので、商業印刷などの業務用途に適しています。

色空間についてのご注意

他社製の画像閲覧用または画像編集用ソフトウェアを使うと、このカメラで設定した色空間と異なる設定の色空間に置き換えられることがあります。NX Studioをお使いになると、このカメラで設定した色空間で画像を開くことができます。

Adobe RGB色空間について

適切な色再現には、カラーマネジメント機能に対応したアプリケーション、モニター、プリンターなどの環境が必要です。

アクティブD-ライティング

MENUボタン →  静止画撮影メニュー

白とびや黒つぶれを軽減した、見た目のコントラストに近い画像を撮影できます。

オート	撮影シーンに応じて自動的にアクティブD-ライティングの効果の度合いを設定します。
より強め	効果の度合いは、強い順に [より強め]、[強め]、[標準]、[弱め] から選択できます。
強め	
標準	
弱め	
しない	アクティブD-ライティングを設定しません。

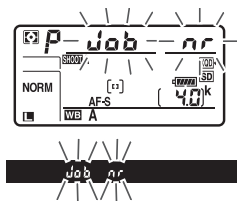
長秒時ノイズ低減

MENUボタン → 静止画撮影メニュー

低速シャッタースピードになったときに発生するノイズ（むら、輝点）を低減します。

する	シャッタースピードが1秒より低速になった場合に、長秒時ノイズの低減処理を行います。
しない	長秒時ノイズの低減処理を行いません。

長秒時ノイズ低減処理は、撮影後に行われます。処理中は、表示パネルとファインダー内表示に「Job nr」が点滅します。この表示が消えるまで、撮影はできません。長秒時ノイズの低減処理を行う場合、画像を記録するまでの時間は、長秒時ノイズ低減を行わない場合の約2倍になります。



✓ 長秒時ノイズ低減についてのご注意

- 連続撮影速度は遅くなり、連続撮影可能コマ数も少なくなります。
- 処理中に電源をOFFにすると、処理は行われず、長秒時ノイズの低減処理を行う前の画像が保存されます。

高感度ノイズ低減

MENUボタン → 静止画撮影メニュー

静止画撮影時に、感度が高くなるほど発生しやすいノイズ（ざらつき）を低減します。

強め	全てのISO感度で高感度ノイズの低減処理を行います。ISO感度が高くなるほど効果的です。
標準	
弱め	
しない	ノイズが発生しやすい条件で撮影する場合のみ、ノイズ低減処理を行います。この場合のノイズ低減効果は「弱め」に設定したときよりもさらに弱くなります。

ヴィネットコントロール

MENUボタン →  静止画撮影メニュー

ヴィネットコントロールは、レンズの特性による周辺光量の低下をレンズに応じて軽減します。特に開放絞り側で撮影した場合に効果的です。Gタイプ、Eタイプ、Dタイプレンズを装着しているときのみ機能します（PCレンズを除く）。

☐ H 強め	
☐ N 標準	効果が強い順に、[強め]、[標準]、[弱め] になります。
☐ L 弱め	
しない	周辺光量の低下を補正しません。

ヴィネットコントロールについてのご注意

- 次の場合、ヴィネットコントロールの効果は適用されません。
 - 静止画撮影メニューの [多重露出] (□□63) を設定しているとき
 - 動画撮影時
- TIFF および JPEG 画像の場合、使用するレンズ、撮影条件や撮影シーンの組み合わせによっては、周辺光量が過剰に補正されて画像周辺部が明るくなることや補正が不足して暗くなること、画像にノイズ（むら）が発生することがあります。また、調整したピクチャーコントロールやカスタムピクチャーコントロールを設定している場合も、適切な補正ができない場合があります。試し撮りをして、撮影状況に適した設定を選ぶことをおすすめします。

自動ゆがみ補正

MENUボタン →  静止画撮影メニュー

〔する〕にすると、広角レンズ使用時のたる型のゆがみや、望遠レンズ使用時の糸巻き型のゆがみを補正して撮影します。

- **〔自動ゆがみ補正〕**は、Gタイプ、Eタイプ、Dタイプレンズを装着した場合のみ機能します。ただし、PCレンズ、フィッシュアイレンズ、その他一部のレンズを装着した場合は機能しません。また、対応レンズ以外を装着した場合には、動作を保証しません。

自動ゆがみ補正についてのご注意

- 〔する〕の場合、シャッターをきってから、記録が始まるまで時間がかかる場合があります。
- ゆがみを大きく補正するほど、画像周辺部は切り取られます。
- DXレンズを装着している場合は、自動ゆがみ補正を行う前に、**〔DX自動切り換え〕**を〔する〕に設定するか、**〔撮像範囲設定〕**を**〔DX (24×16)〕**に設定してください(□46)。その他の撮像範囲で撮影すると、画像周辺部が大きく切り取られたり、DXフォーマットの外側の部分が特に強く補正されることがあります。
- 動画撮影時は、自動ゆがみ補正の効果は適用されません。

関連ページ

撮影した画像のゆがみを補正する →  **〔ゆがみ補正〕** (□205)

フリッカー低減

MENU ボタン → 静止画撮影メニュー

ファインダー撮影時に蛍光灯や水銀灯などの光源下で発生する、照明の明滅による明るさのちらつき（フリッカー現象）の影響を低減できます。フリッカー現象が発生している場合、撮影した画像の一部に露出ムラが生じたり、連続撮影時に露出や色みにばらつきが生じることがあります。

フリッカー低減機能	[有効] にすると、「フリッカー現象」の影響が少ないタイミングで撮影できます。 • [有効] に設定した場合、連続撮影速度が遅くなる場合があります。
フリッカー検出の表示	フリッカーを検出したとき、ファインダー内に FLICKER アイコンを表示するかどうかを設定できます。[フリッカー低減機能] を [有効] にして、[フリッカー検出の表示] を [する] にした場合、フリッカー検出時にシャッターボタンを半押しするとファインダー内に FLICKER アイコンが点灯します。FLICKER アイコンが点滅する場合は [フリッカー低減機能] の設定が [無効] になっています。 FLICKER アイコン

📌 静止画撮影メニュー【フリッカー低減】について

- 撮影の前に、試し撮りをおすすめします。
- フリッカー低減機能を使うと、光源によってシャッターのきれるタイミングが少し遅れることがあります。また、連続撮影時は撮影速度が遅くなったり、撮影間隔が一定ではなくなることがあります。
- 電源周波数が50Hzの場合は100Hzの点滅周期を、また電源周波数が60Hzの場合は120Hzの点滅周期を検出します。連続撮影中に光源の点滅周期が変化した場合、フリッカーの影響は低減できません。
- 背景が暗い場合や輝度が高い光源が含まれる場合など光源や撮影条件によっては、フリッカーが検出できなかったり、フリッカー低減の効果が得られないことがあります。
- イルミネーションなどの特殊な光源下では、フリッカー低減機能の効果が得られないことがあります。

✅ 静止画撮影メニュー【フリッカー低減】の制限について

次の場合など、静止画撮影メニュー【フリッカー低減】が無効になります。

- レリーズモードが**Mup**の場合
- 露出ディレーモード (□□120) が有効の場合
- シャッタースピードが 1/100 秒より低速の場合や、**bulb** (バルブ) または **-** (タイム) の場合

オートブラケティングのセット

MENUボタン →  静止画撮影メニュー

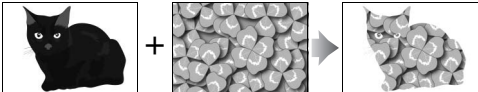
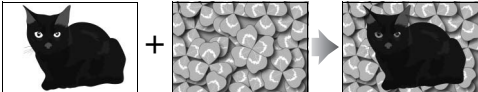
オートブラケティングの種類を設定できます。

 AE・フラッシュ ブラケティング	露出値（AE）とフラッシュの発光量を変えながら撮影します。
AE AEブラケティング	露出値を変えながら撮影します。
 フラッシュ ブラケティング	フラッシュの発光量を変えながら撮影します。
WB WBブラケティング	1回の撮影でホワイトバランス（WB）を変えた画像を記録します。複数の光源が混在しているなど、ホワイトバランスを決めにくいときや、微妙な白の色みを好みで選びたいときなどに便利です。RAW画像を含む画質モードを設定したときは、WBブラケティングは使用できません。
 ADLブラケティング	アクティブD-ライティングの効果の度合いを変えながら撮影します。

多重露出

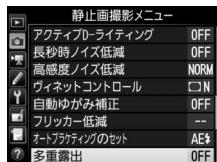
MENUボタン → 静止画撮影メニュー

2～10コマのRAWデータを重ねて写し込み、1つの画像として記録します。

多重露出モード	• する（連続）：解除するまで連続して多重露出撮影します。多重露出撮影を解除するには、もう一度［多重露出モード］を選んで［しない］に設定してください。 • する（1回）：多重露出撮影を終了すると、多重露出が解除されます。 • しない：多重露出撮影を解除します。
コマ数	コマ数（露光回数）を設定します。
合成モード	• 加算：全ての露光結果をそのまま重ね合わせます。 • 加算平均：重ね合わせた画像の露出が適正になるように、露光回数に合わせて自動的にゲイン（出力）を補正します。 - 各コマのゲインは、「$1 \div \text{露光回数}$」となります。たとえば、露光回数が「2コマ」の場合は1/2、「3コマ」の場合は1/3になります。 • 比較明合成：撮影した各画像を比較し、最も明るい部分を選択して合成します。  • 比較暗合成：撮影した各画像を比較し、最も暗い部分を選択して合成します。 
全画像の保存	• する：多重露出で撮影した全てのコマを静止画として保存します。 • しない：合成した画像のみ保存します。
1コマ目の画像（RAW）の指定	メモリーカード内のRAW画像から1コマ目に使用する画像を選ぶことができます。

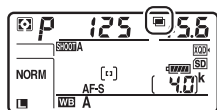
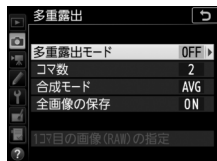
II 多重露出の撮影方法

- ## 1 静止画撮影メニューの[多重露出]を選んでマルチセクターの $\odot$ を押す



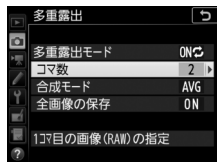
2 [多重露出モード] を設定する

- [多重露出モード] を選んで、 $\odot$ を押します。
- $\odot$ または $\odot$ を押して多重露出モードを設定し、 $\odot$ ボタンを押します。
- [する (連続)] または [する (1回)] を選ぶと、多重露出の撮影待機状態になり、表示パネルに $\square$ マークが点灯します。



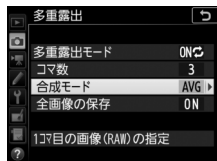
3 [コマ数] (露光回数) を設定する

- [コマ数] を選んで、 $\odot$ を押します。
- $\odot$ または $\odot$ を押して露光回数を設定し、 $\odot$ ボタンを押します。



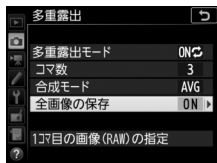
4 [合成モード] を設定する

- [合成モード] を選んで、 $\odot$ を押します。
- $\odot$ または $\odot$ を押して項目を選び、 $\odot$ ボタンを押します。



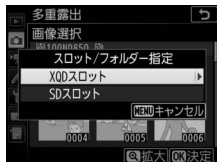
5 [全画像の保存] を設定する

- [全画像の保存] を選んで、 を押します。
-  または  を押して項目を選び、 ボタンを押します。
- [する] を選ぶと、多重露出で撮影した各コマの画像と合成後の画像を保存します。[しない] を選ぶと、合成後の画像のみを保存します。



6 [1コマ目の画像 (RAW) の指定] を設定する

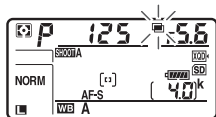
- 撮影済みの画像に重ねて写し込みたい場合は、[1コマ目の画像 (RAW) の指定] を選んで  を押し、メモリーカード内のRAW画像から1コマ目に使用する画像を選びます。
- 静止画撮影メニュー [画像サイズ] の [RAW] を [サイズL] に設定して撮影したRAW画像のみ使用できます。
- マルチセクターで黄色い枠を移動して画像を選びます。
- 画像は、 ボタンを押している間、拡大して確認できます。
-  ボタンを押すと、[スロット/フォルダー指定] 画面が表示され、スロットやフォルダーを切り換えられます。
- 画像を選択したら、 ボタンを押します。



7 撮影を開始する

- 撮影を始めると、マークが点滅します。

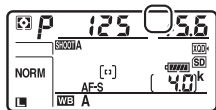
- 設定したコマ数を撮影してください。手順6の「1コマ



目の画像 (RAW) の指定」でメモリーカード内のRAW画像から1コマ目に使用する画像を選んだ場合は、2コマ目以降を撮影します。

- 「[する (連続)]」の場合、「[多重露出モード]」で「[しない]」を選んで多重露出モードを解除するまで、多重露出撮影できます。

- 多重露出モードが「[する (1回)]」の場合、手順3で設定したコマ数分の撮影をすると、多重露出撮影が解除され、マークが消灯します。



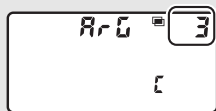
BKTボタンとコマンドダイヤルで多重露出モードとコマ数を設定する

カスタムメニュー f1 [カスタムボタンの機能] (□129) の「[BKTボタン+]」を「[多重露出]」に設定すると、BKTボタンとコマンドダイヤルの操作で手順2の「[多重露出モード]」と手順3の「[コマ数]」を設定できます。

- BKTボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回してOFF (「[しない]」)、I (「[する (1回)]」)、C (「[する (連続)]」) から選んでください。



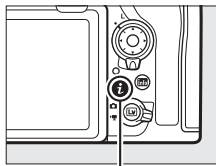
- BKTボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回すと、表示パネルのコマ数が切り替わります。



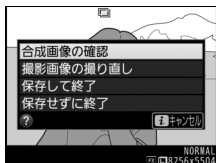
■ i ボタンを使う

多重露出撮影中に **▶** ボタンを押してから **i** ボタンを押すと、次のメニューが表示されます。項目を選んで **OK** ボタンを押すと、選んだ項目が実行されます。

- **i** ボタンを押したときの設定は、タッチ操作でも行えます。



i ボタン



合成画像の確認	それまでに撮影したコマで合成画像を作成してレビューします。
撮影画像の撮り直し	最後に撮影したコマを撮影し直せます。
保存して終了	それまでに撮影したコマで合成画像を作成し、保存して多重露出撮影を終了します。
保存せずに終了	合成画像を保存しないで多重露出撮影を終了します。 • [全画像の保存] が [する] の場合は、撮影した画像を合成せずに1コマずつ保存します。

✓ 多重露出撮影時のご注意

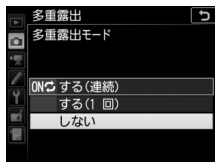
- 多重露出の撮影途中、画像の再生やメニュー画面の表示で画像モニターを点灯した場合、画像モニターが消灯してから操作のないまま30秒程度経過すると、画像が記録されて多重露出が解除されます。撮影間隔が長くなる場合は、カスタムメニュー c2 [半押しタイマー] (□117) を長めに設定すると、多重露出が解除されるまでの時間が延長されます。
- 多重露出撮影中は、ライブビューを開始できません。
- 多重露出モードを [する (連続)] または [する (1回)] に設定していても、ライブビュー表示にすると [しない] になります。
- 多重露出で撮影する場合、ノイズ (ざらつき、むら、すじ) が発生しやすくなります。
- レリーズモードを CL、CH、または QC に設定した場合、多重露出モードが [する (1回)] のときは、シャッターボタンを押し続けると、多重露出で設定された撮影コマ数の撮影後、多重露出撮影を解除します。[する (連続)] のときは、シャッターボタンを押し続けている間、多重露出で設定された撮影コマ数で多重露出撮影を繰り返します。
- セルフタイマー撮影時 (□118) には、シャッターボタンを全押しすると、カスタムメニュー c3 [セルフタイマー] (□118) の [連続撮影間隔] で設定した撮影間隔で撮影します。ただし、c3 の [撮影コマ数] で設定した撮影コマ数にかかわらず、多重露出で設定した撮影コマ数の撮影が終了した時点で画像が記録されます。
- 多重露出の撮影設定および撮影データは1コマ目の内容になります。
- 多重露出による撮影中は、メモリーカードを交換しないでください。
- 多重露出撮影中はメモリーカードの初期化はできません。また、一部のメニュー項目がグレーで表示されて選択できません。

📌 [1コマ目の画像 (RAW) の指定] について

高感度 (Hi 0.3~Hi 2) で撮影されたRAW画像を1コマ目に指定した場合、カスタムメニュー d6 [電子先幕シャッター] (□120) を [有効] にしていても、多重露出撮影中は電子先幕シャッターが無効になります。

■■ 多重露出撮影を終了するには

設定したコマ数分を撮影する前に多重露出撮影を終了するには、多重露出モードを[しない]に設定します。多重露出撮影を中断すると、その時点までの露光結果だけを重ね合わせた画像が記録されます（[合成モード]を[加算平均]に設定していた場合は、露光回数に合わせてゲイン補正が行われます）。



このほか、次の場合も、多重露出は終了されます。

- ツーボタンリセットを行ったとき
- カメラの電源をOFFにしたとき
- バッテリーの残量がなくなったとき
- 多重露出撮影中に▶ボタンを押してからiボタンを押し、[保存して終了] または [保存せずに終了] を選んだとき

多重露出とインターバルタイマー撮影の組み合わせについて

多重露出を設定してから1コマ目を撮影する前にインターバルタイマー撮影（□72）を設定すると、設定されたインターバルで多重露出撮影ができます。この場合、[インターバルタイマー撮影]で設定されたインターバルで1コマずつ撮影され、[多重露出]で設定されたコマ数の撮影が終了すると、インターバルタイマー撮影を終了します。多重露出が[する（1回）]の場合は、多重露出も終了します。

HDR（ハイダイナミックレンジ）

MENU ボタン →  静止画撮影メニュー

1回の撮影で露出が異なる画像を2コマ撮影して合成することにより、輝度範囲の広いシーンでも白とびや黒つぶれの少ない画像を記録します。

HDRモード	• する（連続）：解除するまで連続して HDR 撮影します。HDR モードを解除するには、もう一度 ［HDRモード］ を選んで ［しない］ に設定してください。 • する（1回）：1回撮影を終了すると、HDRモードが解除されます。 • しない：HDRモードを解除します。
露出差	合成する2コマの露出差を設定できます。露出差が大きいほど、階調の幅が広がります。 ［オート］ に設定すると、撮影シーンに応じて自動的に露出差を設定します。
スムージング	合成する2コマの境界のなめらかさを設定できます。

インターバルタイマー撮影

MENUボタン →  静止画撮影メニュー

設定した撮影間隔（インターバル）と撮影回数で自動的に撮影するインターバルタイマー撮影を行えます。インターバルタイマー撮影をするときは、リリースモードを $\odot$ 以外に設定してください。

撮影開始	インターバルタイマー撮影を開始します。[開始日時の設定]で[即時]を選んでいる場合は約3秒後に撮影を開始し、[日時指定]を選んでいる場合は設定した日時に撮影を開始します。撮影は、設定した撮影間隔とコマ数で繰り返されます。
開始日時の設定	インターバルタイマー撮影の開始方法を設定します。インターバルタイマー撮影をすぐに開始する場合は[即時]を、開始日時を設定する場合は[日時指定]を選びます。
撮影間隔	撮影間隔（時、分、秒）を設定します。
撮影回数×1回のコマ数	撮影回数と1回で撮影するコマ数を設定します。
露出平滑化	[する]を選ぶと、1コマ前に撮影した静止画と大きく明るさが変化しないようにカメラが自動で露出を調整します。ただし、輝度の変化が大きい被写体を撮影するときは、露出が安定しないように見えることがあります。その場合は撮影間隔を短くすることをおすすめします。 露出モードMで静止画撮影メニュー [ISO感度設定] (□50) の[感度自動制御]が[しない]の場合、露出の平滑化は行いません。
サイレント撮影	[する]を選ぶと、シャッター音を出さずに撮影できます。
撮影間隔優先	露光時間よりも撮影間隔を優先して撮影するかどうかを選ぶことができます。[する]を選ぶと、露出モードがPまたはAのときに撮影間隔を優先します。[しない]を選んだ場合は露光時間を優先します。 [する]のときにAFモードがAF-Sの場合はカスタムメニューa2 [AF-Sモード時の優先] (□105) を、AF-Cの場合はカスタムメニューa1 [AF-Cモード時の優先] (□104) を[リリース]に設定してください。また、静止画撮影メニュー [ISO感度設定] (□50) で[感度自動制御]の[低速限界設定]を、撮影間隔よりも短くなるように設定してください。

撮影開始時の 記録フォルダー

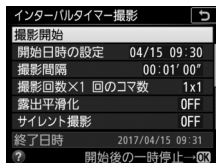
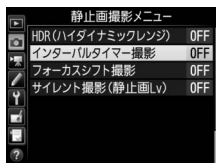
項目を選んでマルチセクターの🔍を押すと、項目の左側のチェックボックスがオン☑になります。もう一度🔍を押すと、チェックボックスがオフ☐になります。

- **新規フォルダー作成**：インターバルタイマー撮影を開始するたびに新しいフォルダーを自動的に作成して画像を保存します。
- **ファイル番号リセット**：新規フォルダーが作成されるたびにファイル番号が「0001」に戻ります。

■ インターバルタイマー撮影の開始

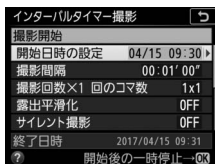
1 静止画撮影メニューの【インターバルタイマー撮影】を選ぶ

- マルチセクターの🔍を押すと、インターバルタイマー撮影の設定画面が表示されます。

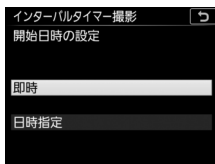


2 インターバルタイマー撮影の設定をする

• 開始方法を選ぶ



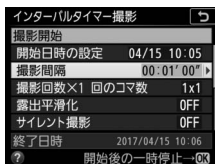
「開始日時の設定」を選んで
⏪を押す



開始方法を選んでⓧボタン
を押す

- インターバルタイマー撮影をすぐに開始する場合は、「即時」を選びます。
- インターバルタイマー撮影の開始日時を設定する場合は、「日時指定」を選びます。表示される画面で開始日時を設定してⓧボタンを押します。

• 撮影間隔（インターバル）を設定する

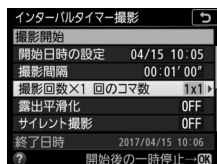


「撮影間隔」を選んで
⏪を押す



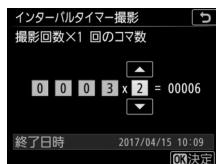
撮影間隔（時、分、秒）を
設定してⓧボタンを押す

• 撮影回数と1回のコマ数を設定する



[撮影回数×1回のコマ数]

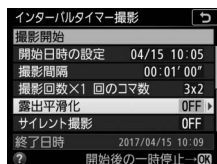
を選んで $\odot$ を押す



撮影回数と1回で撮影する
コマ数を設定して、 $\odot$ ボタ
ンを押す

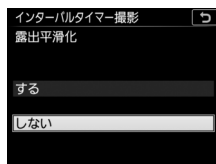
- リリースモードが**S**の場合、撮影コマ数を2コマ以上に設定すると、カスタムメニュー d1 [低速連続撮影速度] ($\square$ 119) で設定された速度で撮影します。

• 露出平滑化をするかどうかを選ぶ



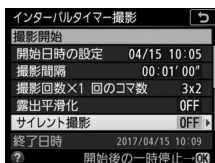
[露出平滑化] を選んで $\odot$

を押す



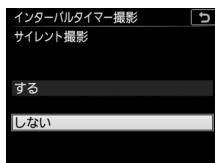
露出平滑化をするかどうか
を選んで $\odot$ ボタンを押す

• サイレント撮影を行うかどうかを選ぶ



[サイレント撮影] を選んで

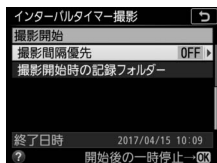
$\odot$ を押す



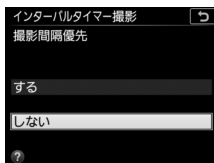
サイレント撮影をするかどう
かを選んで $\odot$ ボタンを押す

- [サイレント撮影] を [する] にした場合、撮影開始時と終了時にミラーアップ/ミラーダウンの音とシャッター音がします。また、オートフォーカス撮影はできません。

- 露光時間よりも撮影間隔を優先して撮影するかどうかを選ぶ



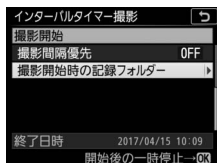
「撮影間隔優先」を選んで
⏻を押す



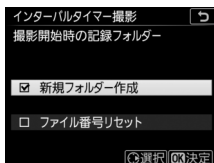
撮影間隔を優先して撮影するかどうかを選んでⓀボタンを押す

- 「撮影間隔優先」が「する」のときは、被写体にピントが合わないなど撮影できない状態になると、自動的にインターバルタイマー撮影を終了します。

- 撮影開始時の記録フォルダーの設定をする



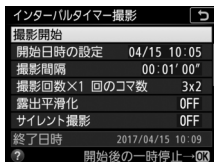
「撮影開始時の記録フォルダー」を選んで⏻を押す



各項目の設定をしてⓀボタンを押す

3 「撮影開始」を選んでⓀボタンを押す

- 手順2の「開始日時の設定」で「即時」を選んでいる場合は、約3秒後に撮影を開始します。
- 手順2の「開始日時の設定」で「日時指定」を選んでいる場合は、設定した日時に撮影を開始します。
- 設定した撮影間隔とコマ数で撮影を繰り返します。

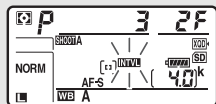


✓ インターバルタイマー撮影を開始する前に

- 試し撮りをするをおすすめします。
- あらかじめセットアップメニューの[地域と日時] (□158) で日時が正確に設定されていることを確認してください。
- インターバルタイマー撮影時は、カメラを三脚で固定し、レンズの VR (手ブレ補正) 機能を無効にすることをおすすめします。
- 撮影中のバッテリー切れを防ぐため、十分に充電されたバッテリー、または別売のパワーコネクターとACアダプターをお使いください。
- ファインダーから顔を離して撮影するときは、ファインダーからの光が適正露出や画像に影響を与えることを防ぐため、シャッターボタンを押す前にアイピースシャッターレバーを回してアイピースシャッターを閉じることをおすすめします (□272)。

📌 インターバルタイマー撮影の待機状態について

インターバルタイマー撮影の待機状態では、表示パネルに **INTVL** マークが点滅します。撮影直前になるとシャッタースピード表示部に残りの撮影回数を、絞り値表示部にその回の残りの撮影コマ数を、それぞれ表示します。



- 待機状態でシャッターボタンを半押しすると、残りの撮影回数と撮影コマ数を表示します。

■■ インターバルタイマー撮影を一時停止するには

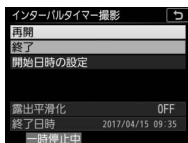
インターバルタイマー撮影を一時停止するには、次の操作を行います。

- 撮影待機中に **OK** ボタンを押す
- 撮影待機中に静止画撮影メニュー [インターバルタイマー撮影] で [一時停止] を選び、**OK** ボタンを押す

■■ インターバルタイマー撮影を再開するには

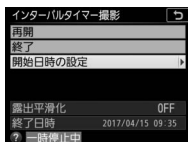
インターバルタイマー撮影を再開する手順は次の通りです。

すぐに再開する場合



[再開] を選んで **OK** ボタンを押す

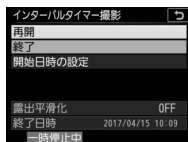
再開する日時を設定する場合



[開始日時の設定] 画面で [日時指定] を選び **OK** を押す



開始日時を設定して **OK** ボタンを押す



[再開] を選んで **OK** ボタンを押す

■■ インターバルタイマー撮影を途中で終了するには

インターバルタイマー撮影を途中で終了するには、撮影待機中に静止画撮影メニュー [インターバルタイマー撮影] で [終了] を選び、**OK** ボタンを押します。

✓ インターバルタイマー撮影についてのご注意

- 撮影間隔は、想定されるシャッタースピードに1回の撮影コマ数を掛けた値よりも長い時間を設定してください。実際のインターバルタイマー撮影には、インターバル時間の他、シャッタースピードやカメラが処理を行う時間などが含まれます。撮影間隔が十分な長さに設定されていない場合は、設定した撮影間隔で撮影できず、その回の撮影がキャンセルされることがあります。
- 撮影間隔が十分な長さに設定されていない場合は、設定した「**撮影回数×1回のコマ数**」で撮影できないことがあります。
- スピードライトを使用する場合は、適正な発光を行うために必要な充電時間よりも長い時間を設定してください。撮影間隔が十分な長さに設定されていない場合は、発光量が不足することがあります。
- 設定した開始日時が現在時刻後1分以内の場合や「**撮影間隔**」が「00:00'00"」の場合、シャッタースピードが**bulb**（バルブ）または**-**（タイム）の場合など、インターバルタイマー撮影を開始できないときには警告メッセージを表示します。
- メモリーカードのメモリー残量がない場合、撮影時刻ごとにカウントは進みますが、実際の撮影は行われません。メモリー残量のあるメモリーカードに交換し、インターバルタイマー撮影を再開してください（□77）。
- 次の場合はインターバルタイマー撮影が一時停止状態になります。
 - 電源をOFFにして、再度ONにしたとき（電源がOFFの間にバッテリーやメモリーカードを交換しても、一時停止状態が持続します）
 - レリーズモードを☺に切り換えたとき
- インターバルタイマー撮影中にカメラの設定を変更すると、インターバルタイマー撮影が終了する場合があります。
- AFモードが**AF-S**の場合は、撮影ごとにピント合わせを行います。
- オートフォーカスで被写体にピントが合わないときに撮影開始予定時刻を 8 秒過ぎると、「**撮影間隔優先**」が「**する**」の場合は撮影を終了します。「**しない**」の場合はその回の撮影をキャンセルして次の回の撮影時刻から撮影を再開します。

✓ 撮影コマ数について

レリーズモードに関係なく、1回の撮影ごとに設定された撮影コマ数が撮影されます。

✓ インターバルタイマー撮影待機中の各種設定について

インターバルタイマー撮影の待機中は、各種設定やメニュー画面の操作や、画像の再生を行うことができます。ただし、メニュー画面や再生画面を表示している場合、撮影時刻の約4秒前に画像モニターを消灯して、撮影に入ります。

オートブラケティングとインターバルタイマー撮影の組み合わせについて

- インターバルタイマー撮影とオートブラケティングを同時に行う場合は、オートブラケティングを先にセットしてからインターバルタイマーを設定してください。
- インターバルタイマー撮影時にAE・フラッシュブラケティング、AEブラケティング、フラッシュブラケティングまたはADLブラケティングを行う場合は、撮影時間ごとにオートブラケティングで設定したコマ数が撮影されます。
- インターバルタイマー撮影時にWBブラケティングを行う場合は、撮影時間ごとに1コマ撮影し、オートブラケティングで設定したコマ数が記録されます。
- [撮影間隔優先] で [する] を選んだ場合、インターバルタイマー撮影時にオートブラケティングは行えません。

インターバルタイマー撮影の制限について

次の場合など、インターバルタイマー撮影とは同時に使用できない機能や設定があります。

- ライブビュー撮影
- 動画撮影
- 長時間露出（バルブまたはタイム）撮影
- フォーカスシフト撮影（□□80）
- タイムラプス動画撮影（□□91）
- カスタムメニュー g1 [カスタムボタンの機能]（□□152）> [シャッターボタン] > [動画撮影]

[サイレント撮影] を [する] にした場合の制限について

次の場合など、[サイレント撮影] を [する] に設定すると使用できない機能や設定があります。

- オートフォーカス撮影
- ISO感度（□□50）の Hi 0.3～Hi 2
- フラッシュ撮影（□□42）
- 露出ディレーモード（□□120）
- フリッカー低減（□□60）
- オートブラケティング撮影（□□62）
- 多重露出撮影（□□63）

インターバルタイマー撮影の設定について

電源をOFFにしたり、レリーズモードを切り換えたりした場合も、設定した内容は記憶されています。

フォーカスシフト撮影

MENU ボタン →  静止画撮影メニュー

このカメラは、ピント位置を変えながら自動的に連続撮影を行うフォーカスシフト撮影が可能です。深度合成用の素材を撮影するときにご利用です。素材として撮影した画像をパソコンに取り込んで、他社製の画像編集ソフトで合成することができます。

撮影開始	撮影を開始します。撮影は、設定した撮影回数とフォーカスステップ幅で繰り返されます。
撮影回数	撮影回数を設定します。 最大300回まで設定できます。
フォーカスステップ幅	ピント位置の間隔を設定します。
待機時間	シャッターをきってから次にシャッターをきるまでの時間を秒単位で設定できます。 - 待機時間が[00]の場合、サイレント撮影の設定によって連続撮影速度が異なります。サイレント撮影が[しない]のときは最大5コマ/秒でシャッターがきれます。サイレント撮影が[する]のときは約1コマ/秒でシャッターがきれます。 - 連続撮影速度は、撮影環境やカメラの設定、装着しているレンズなどによって変わる場合があります。 - フラッシュを使用して撮影する場合は光量不足にならないように充電時間を考慮して設定してください。
露出平滑化	[する]を選ぶと、1コマ前に撮影した静止画と大きく明るさが変化しないようにカメラが自動で露出を調整します。ただし、輝度の変化が大きい被写体を撮影するときは、露出が安定しないように見えることがあります。その場合は待機時間を短くすることをおすすめします。 露出モードMで静止画撮影メニュー [ISO感度設定] (□50) の [感度自動制御] が[しない]の場合、露出の平滑化は行いません。
サイレント撮影	[する]を選ぶと、シャッター音を出さずに撮影できます。
撮影開始時の記録フォルダー	項目を選んでマルチセクターの  を押すと、項目の左側のチェックボックスがオン ☒ になります。もう一度  を押すと、チェックボックスがオフ ☐ になります。 - 新規フォルダー作成：フォーカスシフト撮影を開始するたびに新しいフォルダーを自動的に作成して画像を保存します。 - ファイル番号リセット：新規フォルダーが作成されるたびにファイル番号が「0001」に戻ります。

サイレント撮影（静止画Lv）

MENUボタン →  静止画撮影メニュー

シャッター音を出さずに撮影できます。

する (モード1)	シャッターをきるときの振動をなくして撮影できます。風景や静物など動きの少ない被写体を撮影する場合に適しています。撮影時は、三脚をお使いいただくことをおすすめします。 • リリースモードがCHの場合の連続撮影速度は約6コマ/秒になります。 • ISO感度（ 50）はLo 1～25600の間で設定できます。
する (モード2)	[する（モード1）] よりも高速で連続撮影できます。 • リリースモードがS、Q、、およびMUPの場合は、シャッターボタンを全押するたびに1コマずつ撮影します。CLおよびQCの場合は約15コマ/秒、CHの場合は約30コマ/秒の高速連続撮影を最大3秒間行えます。 • 撮像範囲は[DX (24×16)]、画像サイズは3600×2400、画質モードは[NORMAL★]に固定されます。
しない	サイレント撮影を行いません。

● 動画撮影メニュー： 動画撮影で使える便利な機能

MENU ボタンを押して、タブの●アイコンを選ぶと、動画撮影メニューが表示されます。



MENU ボタン

動画撮影メニューの項目は次の通りです。

メニュー項目	📖	メニュー項目	📖
動画撮影メニューのリセット	83	カスタムピクチャーコントロール	87
ファイル名設定	83	アクティブD-ライティング	87
動画記録先	83	高感度ノイズ低減	88
撮像範囲	83	フリッカー低減	88
画像サイズ/フレームレート	84	マイク感度	89
動画の画質	85	アッテネーター	89
動画記録ファイル形式	85	録音帯域	90
ISO感度設定	86	風切り音低減	90
ホワイトバランス	87	電子手ブレ補正	90
ピクチャーコントロール	87	タイムラプス動画	91

📌 関連ページ

「動画撮影メニューの初期設定」(📖13)

動画撮影メニューのリセット

MENUボタン → 動画撮影メニュー

[する]を選んでⓂボタンを押すと、動画撮影メニューをリセットして初期設定に戻します (㊦13)。

ファイル名設定

MENUボタン → 動画撮影メニュー

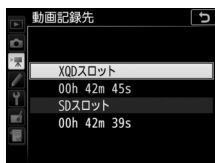
このカメラで撮影した動画のファイル名DSC_nnnn.movの「DSC」の3文字を任意に変更できます (㊦39)。

動画記録先

MENUボタン → 動画撮影メニュー

メモリーカードを2枚使用している場合に動画を記録するスロットを設定します。

- それぞれのカードで動画を記録できる残り時間が表示されます。
- 選んだファイル記録先のメモリーカードの残量がなくなると、撮影は自動的に終了します。



撮像範囲

MENUボタン → 動画撮影メニュー

動画撮影時の撮像範囲を変更できます。

■■ DX自動切り換え

DXレンズを装着したときに、自動的に撮像範囲を[DX]に切り換えるかどうかを設定できます。

画像サイズ/フレームレート

MENU ボタン → 動画撮影メニュー

動画を記録するときの画像サイズ（ピクセル）とフレームレートを設定します。

	【画像サイズ/フレームレート】 ※1	最大ビットレート （〔動画の画質〕 ※2 : ★高画質/標準）	最長記録時間 および 最長再生時間
	3840×2160 (4K UHD) 30p	144Mbps	29分59秒※3
	3840×2160 (4K UHD) 25p		
	3840×2160 (4K UHD) 24p		
	1920×1080 60p	48Mbps/24Mbps	
	1920×1080 50p		
	1920×1080 30p	24Mbps/12Mbps	
	1920×1080 25p		
	1920×1080 24p		
	1280×720 60p		
	1280×720 50p		
	1920×1080 30p 4倍スロー ※4	36Mbps	記録：3分 再生：12分
	1920×1080 25p 4倍スロー ※4		
	1920×1080 24p 5倍スロー ※4	29Mbps	記録：3分 再生：15分

※1 60p：59.94コマ/秒（fps）、50p：50コマ/秒、30p：29.97コマ/秒、
25p：25コマ/秒、24p：23.976コマ/秒

※2 【動画の画質】が高画質の場合は、アイコンに★が表示されます。画像サイズを3840×2160に設定した場合は、常に高画質で記録されます。

※3 動画は最大8個のファイルに分割されて記録されます。各ファイルのファイルサイズは最大で4GBです。1回の撮影で作成されるファイルの数と1ファイルあたりの記録時間は【画像サイズ/フレームレート】および【動画の画質】の設定によって異なります。

※4 スローモーション動画を撮影できます。例えば【1920×1080 30p 4倍スロー】の場合、120fpsのフレームレートで読み出した画像を30fpsの動画として記録します。スローモーション動画の場合、撮像範囲は【DX】に固定され、画質は標準に固定されます。

動画の画質

MENUボタン →  動画撮影メニュー

動画の画質を高画質と標準から選べます。

動画記録ファイル形式

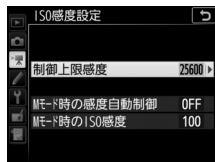
MENUボタン →  動画撮影メニュー

動画のファイル形式をMOVとMP4から選べます。

ISO感度設定

MENU ボタン → 動画撮影メニュー

動画撮影時のISO感度に関する設定ができます。



制御上限感度	- 感度自動制御するときに ISO 感度が高くなりすぎないように、上限感度（200～Hi 2）を設定できます。 - 露出モードがP、S、またはAの場合、露出モードMで「Mモード時の感度自動制御」が「する」の場合は、ここで設定した感度が自動制御の上限になります。
Mモード時の感度自動制御	「する」を選ぶと、露出モードがMのときもカメラが自動的に動画撮影時のISO感度を変更します。「しない」を選ぶと、露出モードがMのときに、「Mモード時のISO感度」で設定したISO感度に固定されます。 露出モードがM以外の場合は常に感度自動制御が動作します。
Mモード時のISO感度	露出モードMでの動画撮影時のISO感度（64～Hi 2）を設定できます。

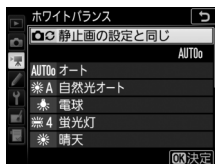
感度自動制御についてのご注意

- ISO感度が上がると、被写体によっては、ノイズ（ざらつき、むら、すじ）が発生することがあります。
- ISO感度が上がると、ピントが合いにくくなることがあります。
- 上記の現象が発生する場合は、「ISO 感度設定」の「制御上限感度」を下げて撮影してください。

ホワイトバランス

MENUボタン → 動画撮影メニュー

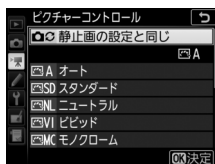
動画撮影時のホワイトバランスを設定できます。[静止画の設定と同じ] を選ぶと、静止画撮影時と同じ設定になります (□51)。



ピクチャーコントロール

MENUボタン → 動画撮影メニュー

動画撮影時のピクチャーコントロールを設定できます。[静止画の設定と同じ] を選ぶと、静止画撮影時と同じ設定になります (□52)。



カスタムピクチャーコントロール

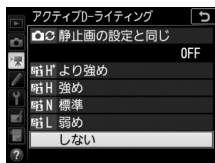
MENUボタン → 動画撮影メニュー

「ピクチャーコントロール」を好みに合わせて調整して、「カスタムピクチャーコントロール」として登録できます (□53)。

アクティブD-ライティング

MENUボタン → 動画撮影メニュー

動画撮影時のアクティブD-ライティングを設定できます。[静止画の設定と同じ] を選ぶと、静止画撮影時と同じ設定になります (□56)。



高感度ノイズ低減

MENU ボタン → 動画撮影メニュー

動画の撮影時に、ISO感度が高くなるほど発生しやすいノイズ（ざらつき）を低減します（□57）。

フリッカー低減

MENU ボタン → 動画撮影メニュー

ライブビュー表示中や動画記録中に、蛍光灯や水銀灯などの光源下で画面に生じるちらつきや横縞（フリッカー現象）を低減できます。通常はカメラが自動的に電源周波数を選ぶ【オート】をお使いください。【オート】にしている場合、フリッカー低減効果が得られない場合は、お使いの地域の電源周波数に応じて、【50 Hz】と【60 Hz】から選びます。東日本など電源周波数が50 Hzの地域では【50 Hz】を選び、西日本など電源周波数が60 Hzの地域では【60 Hz】を選んでください。

✓ 動画撮影メニュー【フリッカー低減】についてのご注意

- 【オート】に設定してもフリッカー低減効果が得られない場合や電源周波数がわからない場合は、設定を切り換えて試し撮りをするをおすすめします。
- 被写体が非常に明るい場合、フリッカー低減効果が得られない場合があります。絞りを絞り込んで（より大きい数値にして）ください。
- 露出モードがM以外の場合、設定したシャッタースピードが必ずしも反映されないため、フリッカー低減できるシャッタースピードに設定しても、フリッカー低減効果が得られないことがあります。そのような場合は、露出モードをMに設定し、シャッタースピードを次の値にすることで、フリッカー現象を低減できます。
 - 電源周波数が50Hzの場合：1/100秒、1/50秒、1/25秒
 - 電源周波数が60Hzの場合：1/125秒、1/60秒、1/30秒

マイク感度

MENUボタン → 動画撮影メニュー

内蔵マイクまたは外部マイク (□270) の感度の程度を設定します。

マイク感度 オート (A)	カメラが自動的にマイク感度を調整します。
マイク感度 マニュアル	マイク感度を手動調整します。[1] ~ [20] の調整ができます。数字が大きいくほど感度が高く、小さいほど低くなります。
録音しない	音声は記録しません。



✓ 音声記録されていない動画の表示について

「マイク感度」を「録音しない」にして撮影した動画の場合、1コマ表示モード時と再生中に (音なしマーク) が表示されます。



アッテネーター

MENUボタン → 動画撮影メニュー

「有効」を選ぶと、大音量の環境下で動画記録をするときに、マイク感度を減衰させて音割れを抑えます。

録音帯域

MENU ボタン → 映画撮影メニュー

内蔵マイクまたは外部マイク（□270）の周波数特性を設定します。

 WIDE 広帯域	低音域から高音域まで録音します。楽器演奏や街のざわめきの録音など、幅広いシーンに適しています。
 VOICE 音声帯域	主に人の声を録音したいときに適しています。

風切り音低減

MENU ボタン → 映画撮影メニュー

〔する〕を選ぶと、ローカットフィルター機能により、内蔵マイクに吹き付ける風の音を抑えて記録できます。ただし、風切り音以外の音も聞こえにくくなることがあります。

- 別売のステレオマイクロホン（□270）をお使いの場合は、カメラ側で〔風切り音低減〕を〔する〕に設定しても風切り音は低減されません。風切り音低減機能のあるステレオマイクロホンをお使いの場合は、ステレオマイクロホン側で設定してください。

電子手ブレ補正

MENU ボタン → 映画撮影メニュー

動画記録時に電子手ブレ補正を行うかどうかを設定できます。

タイムラプス動画

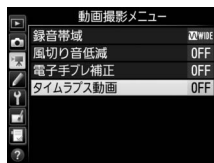
MENU ボタン → 動画撮影メニュー

設定した撮影間隔で自動的に撮影を行い、撮影した静止画をつないで動画として記録できます。

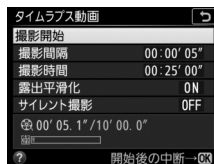
撮影開始	タイムラプス動画撮影を開始します。約3秒後に撮影を開始し、設定した [撮影時間] 内に設定した [撮影間隔] で撮影を繰り返します。
撮影間隔	撮影間隔（分、秒）を設定します。
撮影時間	撮影時間（時、分）を設定します。
露出平滑化	[する] を選ぶと、明るさの変化がなめらかになり、より自然な動画を記録します。ただし、輝度の変化が大きい被写体を撮影するときは、露出が安定しないように見えることがあります。その場合は撮影間隔を短くすることをおすすめします。 露出モード M で静止画撮影メニュー [ISO感度設定] (□50) の [感度自動制御] が [しない] の場合、露出の平滑化は行いません。
サイレント撮影	[する] を選ぶと、シャッター音を出さずに撮影できます。
撮像範囲	タイムラプス動画撮影時の撮像範囲を設定できます。設定できる項目は動画撮影メニュー [撮像範囲] (□83) と同じです。
画像サイズ/ フレームレート	記録されるタイムラプス動画の画像サイズ(ピクセル)とフレームレートを設定できます。設定できる項目は動画撮影メニューの [画像サイズ/フレームレート] (□84) と同じです。
撮影間隔優先	露光時間よりも撮影間隔を優先して撮影するかどうかを選ぶことができます。[する] を選ぶと、露出モードが P または A のときに撮影間隔を優先します。[しない] を選んだ場合は露光時間を優先します。 [する] のときにAFモードが AF-S の場合はカスタムメニュー a2 [AF-Sモード時の優先] (□105) を、AF-C の場合はカスタムメニュー a1 [AF-Cモード時の優先] (□104) を [リリース] に設定してください。また、静止画撮影メニュー [ISO感度設定] (□50) で [感度自動制御] の [低速限界設定] を、撮影間隔よりも短くなるように設定してください。

■ タイムラプス動画撮影の開始

1 動画撮影メニューの「タイムラプス動画」を選ぶ



- マルチセクターの $\odot$ を押すと、「タイムラプス動画」画面が表示されます。

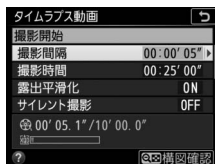


タイムラプス動画撮影を開始する前に

- タイムラプス動画撮影で撮影される静止画の画角は、動画撮影時と同じになります。構図を確認してから撮影することをおすすめします。構図を確認するには、「タイムラプス動画」画面で設定中に $\mathcal{Q}$ (⚡) ボタンを押します。もう一度 $\mathcal{Q}$ (⚡) ボタンを押すと元の画面に戻ります。
- 試し撮りをして、画像を再生して確認することをおすすめします。
- タイムラプス動画撮影時は、カメラを三脚で固定し、レンズの VR (手ブレ補正) 機能を無効にすることをおすすめします。
- 撮影中のバッテリー切れを防ぐため、別売のパワーコネクタと AC アダプター、または十分に充電されたバッテリーをお使いください。
- ファインダーから顔を離して撮影するときは、ファインダーからの光が適正露出や画像に影響を与えることを防ぐため、シャッターボタンを押す前にアイピースシャッターレバーを回してアイピースシャッターを閉じることをおすすめします (□272)。

2 タイムラプス動画の設定をする

- 撮影間隔（インターバル）を設定する



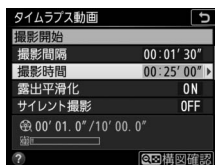
「撮影間隔」を選んで を押す



撮影間隔（分、秒）を設定して ボタンを押す

- 撮影間隔は、想定されるシャッタースピードよりも長い時間を設定してください。

- 撮影時間を設定する



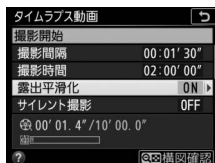
「撮影時間」を選んで を押す



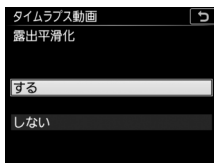
撮影時間（時、分）を設定して、 ボタンを押す

- 撮影時間は、最長で7時間59分まで設定できます。

- 露出平滑化をするかどうかを選ぶ

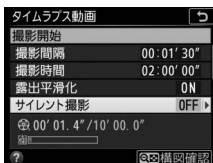


「露出平滑化」を選んで を押す

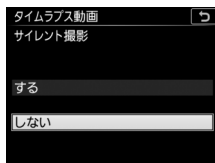


露出平滑化をするかどうかを選んで ボタンを押す

• サイレント撮影を行うかどうかを選ぶ



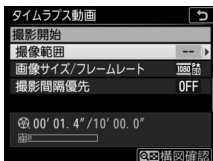
「サイレント撮影」を選んで
➡を押す



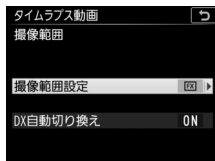
サイレント撮影をするか
どうかを選んでⓧボタンを
押す

- 「サイレント撮影」を「する」にした場合、撮影開始時と終了時にミラーアップ/ミラーダウンの音とシャッター音がします。

• 撮像範囲を設定する

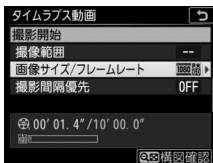


「撮像範囲」を選んで➡を
押す

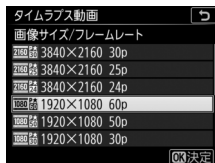


撮像範囲を選んでⓧボタン
を押す

• 画像サイズ/フレームレートを設定する

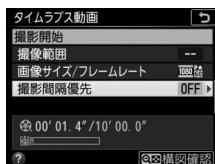


「画像サイズ/フレームレー
ト」を選んで➡を押す



動画の画像サイズ/フレー
ムレートを選んでⓧボタン
を押す

- 露光時間よりも撮影間隔を優先して撮影するかどうかを選ぶ



「撮影間隔優先」を選んで
⏻を押す

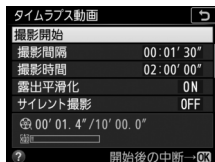


撮影間隔を優先して
撮影するかどうかを選んで
Ⓚボタンを押す

- 「撮影間隔優先」が「する」のときは、被写体にピン트가合わないなど撮影できない状態になると、自動的にタイムラプス動画撮影を終了します。

3 「撮影開始」を選んでⓀボタンを押す

- 約3秒後に撮影を開始します。
- 手順2で設定した「撮影時間」内に、設定した「撮影間隔」で撮影を繰り返します。



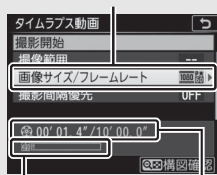
■ タイムラプス動画撮影を途中で終了するには

- タイムラプス動画撮影を途中で終了するには、次の操作を行います。
 - 撮影待機中に動画撮影メニュー [タイムラプス動画] で [終了] を選び、**OK** ボタンを押す
 - 次の撮影までの間に **OK** ボタンを押す
- タイムラプス動画撮影を終了すると、終了時点までの動画がメモリーカードに記録され、通常の撮影待機状態に戻ります。

📌 タイムラプス動画の記録コマ数（撮影回数）と動画の長さについて

- 手順 2 で設定する撮影時間を撮影間隔で割った数（小数点以下切り上げ）が、記録コマ数（撮影回数）になります。
- タイムラプス動画で記録される動画の長さは、上記の記録コマ数 ÷ [画像サイズ/フレームレート] で選んだフレームレートで計算できます（例えば、[画像サイズ/フレームレート] が [1920×1080 24p] のときに記録コマ数が48コマの場合、記録される動画の長さは約2秒になります）。
- 最長20分の動画を記録できます。

動画の画像サイズ/フレームレート



メモリーカード
使用状況

記録時間/
最長記録時間

✓ タイムラプス動画撮影についてのご注意

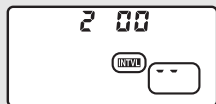
- タイムラプス動画には音声は記録されません。
- 実際のタイムラプス動画撮影には、インターバル時間の他、シャッタースピードやカメラが処理を行う時間が含まれます。そのため、設定した撮影間隔で撮影できないことがあります。
- 次のような場合には、タイムラプス動画撮影を開始できません。
 - 設定した【撮影時間】が【撮影間隔】より短い場合
 - 【撮影時間】または【撮影間隔】が【00:00:00"] の場合
 - メモリーカードのメモリー残量がない場合
- オートフォーカスで被写体にピントが合わないとき、【撮影間隔優先】が【する】の場合は撮影を終了します。【しない】の場合はその回の撮影をキャンセルし、次の回から撮影を再開します（撮影ごとにピントを合わせます）。
- タイムラプス動画撮影中は、▶ボタンを押しても画像の再生はできません。
MENUボタンを押すと【タイムラプス動画】画面が表示され、その他のメニューは選択できません。
- タイムラプス動画を撮影する場合、ホワイトバランスを **AUTO**（オート）または **☀A**（自然光オート）以外に設定すると色みを固定することができます（□51）。
- タイムラプス動画撮影中は、カスタムメニューc2【半押しタイマー】（□117）の設定にかかわらず、半押しタイマーはオフになりません。
- シャッターボタンを全押しすると、タイムラプス動画撮影を終了して静止画を撮影します。
- タイムラプス動画撮影中にカメラの設定を変更したり、カメラの操作を行ったり、HDMIケーブルを接続すると、撮影が終了することがあります。その場合はその時点までの動画を記録してタイムラプス動画撮影を終了します。
- 次の場合は動画を記録せずに、タイムラプス動画撮影が終了します（タイムラプス動画撮影終了時の電子音は鳴りません）。
 - バッテリーやACアダプターを取り外したとき
 - メモリーカードを取り出したとき

✓ 撮影直後の画像確認について

タイムラプス動画撮影中は、▶ボタンで画像を表示することはできません。ただし、再生メニューの【撮影直後の画像確認】（□28）を【する】にすると、撮影のたびに自動的に画像が数秒間画像モニターに表示されます（表示だけを行い、通常の再生時の操作は無効になります）。

タイムラプス動画撮影の待機状態について

- タイムラプス動画撮影の待機状態では、表示パネルに **INTVL** マークが点滅し、タイムラプス動画撮影中マークが点灯します。撮影直前になるとシャッタースピード表示部にその回の残りの撮影時間を表示します（時間、分）。
- 待機状態でシャッターボタンを半押しすると、残りの撮影時間を表示します。



タイムラプス動画撮影待機中の各種設定について

タイムラプス動画撮影の待機中は、各種設定やメニュー画面の操作を行うことができます。

ただし、撮影時刻の約2秒前に画像モニターを消灯して、撮影に入ります。

タイムラプス動画の記録先について

タイムラプス動画は、動画撮影メニューの **〔動画記録先〕** (□83) で選んだスロットに記録されます。

タイムラプス動画の制限について

次の場合など、タイムラプス動画とは同時に使用できない機能や設定があります。

- ライブビュー撮影
- 動画撮影
- 長時間露出（バルブまたはタイム）撮影
- セルフタイマー撮影 (□118)
- オートブラケティング撮影 (□62)
- HDR（ハイダイナミックレンジ）(□70)
- 多重露出撮影 (□63)
- インターバルタイマー撮影 (□71)
- フォーカスシフト撮影 (□80)

✓ 【サイレント撮影】を【する】にした場合の制限について

次の場合など、【サイレント撮影】を【する】に設定すると使用できない機能や設定があります。

- ISO感度 (□□50) の Hi 0.3～Hi 2
- フラッシュ撮影 (□□42)
- 露出デレームード (□□120)
- 長秒時ノイズ低減 (□□57)
- フリッカー低減 (□□60)

📄 関連ページ

タイムラプス動画撮影終了時に電子音が鳴るようにする → 🗑️【電子音】(□□175)

カスタムメニュー： 撮影に関するさらに詳細な設定

MENU ボタンを押して、タブの  アイコンを選ぶと、カスタムメニューが表示されます。



MENU ボタン



カメラの各種設定を撮影者の好みに合わせて変更できます。カスタムメニュー画面は、2つの階層で構成されています。

<第1階層>



<第2階層>



カスタムメニューの項目は次の通りです。※1

メニュー項目	📖
カスタムメニューの管理	103
a オートフォーカス	
a1 AF-Cモード時の優先	104
a2 AF-Sモード時の優先	105
a3 AFロックオン	106
a4 3D-トラッキングの顔認識	107
a5 3D-トラッキングの捕捉領域	107
a6 AF点数切り換え	107
a7 縦/横位置フォーカス切換	108
a8 半押しAFレンズ駆動	109
a9 AFエリアモードの限定	110
a10 AFモードの制限	110
a11 フォーカスポイント循環選択	111
a12 フォーカスポイント表示の設定	111
a13 AF設定時のフォーカスリング操作※2	112
b 露出・測光	
b1 ISO感度設定ステップ幅	113
b2 露出設定ステップ幅	113
b3 露出・調光補正ステップ幅	113
b4 露出補正簡易設定	114
b5 マルチパターン測光	115
b6 中央部重点測光範囲	115
b7 基準露出レベルの調節	116

メニュー項目	📖
c AEロック・タイマー	
c1 シャッターボタンAEロック	117
c2 半押しタイマー	117
c3 セルフタイマー	118
c4 モニターのパワーオフ時間	118
d 撮影・記録・表示	
d1 低速連続撮影速度	119
d2 連続撮影コマ数	119
d3 ISO感度表示	119
d4 連動レリーズモード設定	120
d5 露出ディレーモード	120
d6 電子先幕シャッター	120
d7 連番モード	121
d8 ピーキング表示色	122
d9 ファインダー内格子線表示	122
d10 イルミネーター点灯	122
d11 連続撮影中の表示 (Lv)	123
d12 光学手ブレ補正※3	123
e フラッシュ・BKT撮影	
e1 フラッシュ撮影同調速度	124
e2 フラッシュ時シャッタースピード制限	125
e3 フラッシュ使用時の露出補正	125
e4 ⚡使用時の感度自動制御	126
e5 モデリング発光	126
e6 BKT変化要素 (Mモード)	127
e7 BKTの順序	128

メニュー項目		
f 操作		
f1	カスタムボタンの機能	129
f2	中央ボタンの機能	141
f3	シャッタースピードと 絞り値のロック	143
f4	コマンドダイヤルの設定	143
f5	マルチセレクトターの 半押し起動	147
f6	ボタンのホールド設定	147

メニュー項目		
f7	インジケーターの+/-方向	147
f8	ライブビューボタンの設定	148
f9	⚡スイッチの機能	148
f10	MB-D18のボタンの機能	149
g 動画		
g1	カスタムボタンの機能	152
g2	ハイライト表示の 明るさ設定	155

※1 設定内容が初期設定と異なる場合、変更されたメニュー項目の左上にアスタリスク（*）を表示します。

※2 このメニューに対応した一部のレンズを装着したときのみ表示されます。

※3 手ブレ補正スイッチのない一部のAF-Pレンズを装着したときのみ表示されます。

関連ページ

「カスタムメニューの初期設定」(□□14)

カスタムメニューの管理

MENUボタン → カスタムメニュー

カメラは、カスタムメニューの設定内容を、「A」、「B」、「C」、「D」の4通り記憶できます。それぞれのカスタムメニューで設定した内容は、他のカスタムメニューには反映されません。

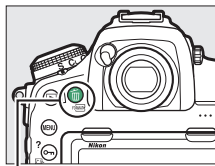
「**カスタムメニューの管理**」で「A」、「B」、「C」、「D」のいずれかを選んでからカスタムメニューの設定を変更すると、カメラが設定内容を記憶します。記憶した設定内容は、設定時のカスタムメニューを選び直すことで呼び出せます。

■ 名前編集

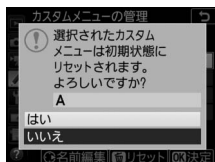
カスタムメニュー「A」～「D」の名前を編集するには、名前を変更したいカスタムメニューを選んでマルチセクターの $\blacktriangleright$ を押します。名前は20文字まで入力できます。入力画面での文字の入力方法については、「入力画面の操作方法について」(□40)をご覧ください。

■ カスタムメニューのリセット

カスタムメニュー「A」～「D」を個別にリセットできます。リセットしたいカスタムメニューを選んで FORMAT ボタンを押すと、確認画面が表示されます。「はい」を選んで OK ボタンを押すと、選んだカスタムメニューの設定をリセットして初期設定に戻します(□14)。



FORMAT ボタン



a : オートフォーカス

a1 : AF-Cモード時の優先

MENU ボタン →  カスタムメニュー

ファインダー撮影時のAFモードが**AF-C**のときにシャッターボタンを押した場合の動作を設定できます。

 リリース	ピント状態に関係なく撮影優先でシャッターをきることができます。
 フォーカス/ リリース	撮影優先でシャッターをきることができますが、低コントラスト・低輝度の被写体を連続撮影するとき、1コマ目は撮影タイミングよりピント合わせを優先します。2コマ目以降はピント状態に関係なく撮影優先でシャッターをきることができます。連続撮影時に1コマ目のピント状態を優先したいときにお使いください。
 リリース/ フォーカス	ピント状態に関係なく撮影優先でシャッターをきることができますが、低コントラスト・低輝度の被写体を連続撮影するときは、連続撮影速度を落としてピント合わせを行います。連続撮影速度よりもピント合わせを優先したいときにお使いください。
 フォーカス	ピントが合うまで、シャッターボタンを全押ししてもシャッターをきることができません。

- AFモードが**AF-C**のときは、**[AF-Cモード時の優先]** の設定にかかわらず、ピント表示 (●) が点灯してもフォーカスロックは行われず、シャッターをきるまでピント合わせの動作を続けます。

a2 : AF-Sモード時の優先

MENUボタン →  カスタムメニュー

ファインダー撮影時のAFモードが**AF-S**のときにシャッターボタンを押した場合の動作を設定できます。

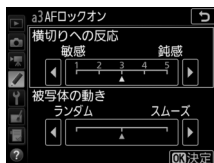
 レリーズ	ピント状態に関係なく撮影優先でシャッターをきることができます。
 フォーカス	ピントが合うまで、シャッターボタンを全押ししてもシャッターをきるできません。

- AFモードが**AF-S**のときは、**[AF-Sモード時の優先]** の設定にかかわらず、ピント表示 (●) が点灯した状態でシャッターボタンの半押しを続けると、シャッターをきるまでフォーカスロックが行われます。

a3 : AFロックオン

MENUボタン → カスタムメニュー

ファインダー撮影時のAFモードが**AF-C**のときのピント合わせの動作について設定できます。



■■ 横切りへの反応

5 (鈍感) /
4/3/2/
1 (敏感)

カメラと被写体の間に障害物や別の被写体が横切った場合のピント動作を設定できます。

- [5 (鈍感)] に設定すると、元の被写体からピントが外れにくくなります。
- [1 (敏感)] に設定すると、横切った被写体にピントが合いやすくなります。

- AFエリアモードが3D-トラッキングまたはオートエリアAFの場合は、[2]、[1 (敏感)] に設定していても、[3] を選んだときと同じ動作になります。

■■ 被写体の動き

[スムーズ] に設定すると、一定のスピードの被写体を撮影する場合にピントが不安定になることを防ぎます。[ランダム] に設定すると、動作の速度が急激に変わるような被写体を撮影する場合にピント合わせの追従性が向上します。

a4 : 3D-トラッキングの顔認識

MENUボタン →  カスタムメニュー

AFエリアモードが3D-トラッキングの場合、カメラが人物の顔を認識したときに顔にピントを合わせるかどうかを選べます。

a5 : 3D-トラッキングの捕捉領域

MENUボタン →  カスタムメニュー

AFエリアモードが3D-トラッキングの場合に、半押ししたときに記憶する被写体情報の捕捉領域を設定できます。

広い	選択したフォーカスポイントから被写体が少し外れても、周辺の情報を使用して被写体を捉えます。被写体の動きが速い場合に便利です。
標準	選択したフォーカスポイント付近の情報を使用して被写体を捉えます。

a6 : AF点数切り換え

MENUボタン →  カスタムメニュー

手動で選べるフォーカスポイントの数を設定できます。

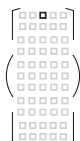
AF55 55点	55点全てのフォーカスポイントを選べます。	
AF15 15点	15点のフォーカスポイントから選べます。フォーカスポイントの位置をすばやく動かしたいときに便利です。	

a7：縦/横位置フォーカス切換

MENUボタン → カスタムメニュー

カメラを正位置（横位置）にしたときと、時計回りの縦位置と反時計回りの縦位置にしたときで個別にフォーカスポイントとAFエリアモードを設定できます。

- **[しない]** に設定した場合、横位置と縦位置で同じフォーカスポイントを使います。



縦位置反時計回りに
90°回転

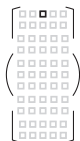


横位置



縦位置時計回りに
90°回転

- **[フォーカスポイント]** に設定すると、横位置と縦位置で個別にフォーカスポイントを設定できます。**[フォーカスポイントとAFエリアモード]** に設定した場合、フォーカスポイントに加えてAFエリアモードも個別に設定できます。



縦位置反時計回りに
90°回転



横位置



縦位置時計回りに
90°回転

a8：半押しAFレンズ駆動

MENUボタン →  カスタムメニュー

シャッターボタンを半押ししたときに、ピント合わせをするかどうかを設定できます。

する	シャッターボタンを半押しするとピント合わせを行います。
しない	シャッターボタンを半押ししてもピント合わせを行いません。

- [しない] を選んでマルチセクターの  を押すと、[非合焦時のリリース] を設定できます。

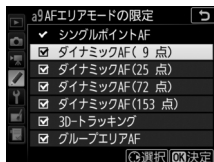
許可	ピント状態に関係なく撮影優先でシャッターをきることができます。
禁止	• 次の場合、ピントが合うまで、シャッターボタンを全押ししてもシャッターをきるできません。 - a1 [AF-Cモード時の優先] を [フォーカス] に設定してAFエリアモードをオートエリアAF以外に設定したとき - a2 [AF-Sモード時の優先] を [フォーカス] に設定してAFエリアモードをオートエリアAF以外に設定したとき • AF-ON ボタンなどを使用してピントを合わせてからシャッターボタンを全押ししてください。

a9 : AFエリアモードの限定

MENUボタン → カスタムメニュー

AFモードボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回した場合に選べるAFエリアモードを設定できます。

- 項目を選んでマルチセクターの  を押すと、項目の左側のチェックボックスがオン ☒ になります。もう一度  を押すと、チェックボックスがオフ ☐ になります。チェックボックスをオン ☒ にした項目のみ、サブコマンドダイヤルで選べるようになります。



-  ボタンを押すと、設定を完了します。
- [AFエリアモードの限定] ではファインダー撮影時のAFエリアモードを限定できます。ライブビュー時のAFエリアモードは限定しません。

a10 : AFモードの制限

MENUボタン → カスタムメニュー

ファインダー撮影時のAFモードを固定できます。[AF-S] または [AF-C] を選ぶと、AFモードボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回してもAFモードは変わりません。



a11：フォーカスポイント循環選択

MENUボタン → カスタムメニュー

フォーカスポイントをマルチセクターで選ぶときに、上下左右端で循環するように設定できます。

[する] を選んだ場合、一番端のフォーカスポイント (①) を選んでいるときに、さらにマ (②) ルチセクターの (①) を押すと、反対側の端のフォーカスポイント (②) に移動します。



a12：フォーカスポイント表示の設定

MENUボタン → カスタムメニュー

ファインダー内のフォーカスポイントの表示に関する設定ができます。

■ フォーカスポイント照明

ファインダー内のフォーカスポイントの照明方法を設定できます。

オート	被写体または背景が暗いときは、自動的にフォーカスポイントを赤色に照明します。
する	被写体または背景の明るさにかかわらず常にフォーカスポイントが赤色に照明します。背景が明るいときは、照明が見えづらい場合があります。
しない	フォーカスポイントを照明しません。

■ マニュアルフォーカス時の表示

[する] に設定すると、マニュアルフォーカスでの撮影時にフォーカスポイントが常に点灯します。[しない] に設定すると、フォーカスポイントを移動したときのみ一瞬点灯します。

■ ダイナミックAFモード時のアシスト表示

[する] に設定すると、ダイナミックAFモード時に自分で選んだフォーカスポイントと周辺のフォーカスポイントを同時に表示します。

a13 : AF設定時のフォーカスリング操作

MENUボタン →  カスタムメニュー

このメニューに対応した一部のレンズを装着したときのみ表示されます。[有効]の場合は、オートフォーカス時にレンズのフォーカスリングを回すとマニュアルフォーカスに切り替わります（M/A（マニュアル優先オートフォーカスモード））。[無効]の場合はフォーカスリングを回しても、オートフォーカスからマニュアルフォーカスに切り替わりません。

- [有効] を選び、オートフォーカス時にシャッターボタンを半押ししたままフォーカスリングを手で回転させると、マニュアルフォーカスでピントを調整できます。いったんシャッターボタンから指を放し、再度半押しすると、オートフォーカスでピントを合わせます。

b : 露出・測光

b1 : ISO感度設定ステップ幅

MENUボタン →  カスタムメニュー

ISO感度のステップ幅を設定できます。ISO感度のステップ幅を変更したとき、設定されているISO感度が変更後のステップ幅に存在しない場合は、最も近い値に変更されます。

b2 : 露出設定ステップ幅

MENUボタン →  カスタムメニュー

シャッタースピード、絞り値、およびオートブラケティング補正量のステップ幅を設定できます。

b3 : 露出・調光補正ステップ幅

MENUボタン →  カスタムメニュー

露出補正時と調光補正時の補正量のステップ幅を設定できます。

b4：露出補正簡易設定

MENUボタン →  カスタムメニュー

 ボタンを使用せずに、コマンドダイヤルだけで露出補正できるように設定を変更できます。

露出補正簡易設定を「**する（自動リセット）**」または「**する**」に設定すると、露出インジケータの「0」が点滅します。

する （自動リセット）	コマンドダイヤルだけで露出補正値を設定できます。 コマンドダイヤルだけを使って設定した露出補正値は、電源をOFFにするか、半押しタイマーがオフになると、リセットされます。
する	コマンドダイヤルだけで露出補正値を設定できます。 電源をOFFにしても、半押しタイマーがオフになっても、設定した露出補正値はリセットされません。
しない	 ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルを回して露出補正を設定します。

露出補正を行うコマンドダイヤルについて

露出補正簡易設定を「**する（自動リセット）**」または「**する**」に設定しているときに露出補正値を設定できるコマンドダイヤルは、カスタムメニュー f4「**コマンドダイヤルの設定**」(□□143) → 「**メインとサブの入れ換え**」 → 「**露出設定**」で変更できます。設定ごとの使用できるコマンドダイヤルは次の通りです。

		カスタムメニュー f4「コマンドダイヤルの設定」 → 「メインとサブの入れ換え」 → 「露出設定」		
		「 する 」のとき	「 する（Aモード） 」のとき	「 しない 」のとき
露出モード	P	サブコマンドダイヤル	サブコマンドダイヤル	サブコマンドダイヤル
	S	メインコマンドダイヤル	サブコマンドダイヤル	サブコマンドダイヤル
	A	サブコマンドダイヤル	サブコマンドダイヤル	メインコマンドダイヤル
	M	露出補正簡易設定は機能しません		

b5 : マルチパターン測光

MENUボタン →  カスタムメニュー

測光モードがマルチパターン測光の場合、カメラが人物の顔を認識したときに顔の明るさに合わせて露出を決定するかどうかを選べます。この設定は、ファインダー撮影時のみ有効です。

 ON 顔認識する	カメラが認識した顔を優先して測光を行います。
 OFF 顔認識しない	カメラが顔を認識した場合も顔を優先した測光を行いません。

b6 : 中央部重点測光範囲

MENUボタン →  カスタムメニュー

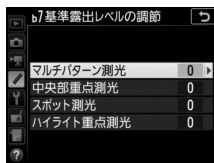
中央部重点測光は、ファインダー中央部を重点的に測光して、露出値を決定します。中央部重点測光の範囲を変更できます。

- 非CPUレンズおよびAF-S Fisheye NIKKOR 8–15mm f/3.5–4.5E EDを装着しているときの測光範囲は、 ϕ 12mm相当になります。

b7：基準露出レベルの調節

MENUボタン →  カスタムメニュー

適正露出の基準を撮影者の好みに合わせ、測光モードごとに明るめ（+側）または暗め（-側）に調節できます。1/6段ステップ幅で±1段の範囲で設定できます。初期設定は0です。



✓ 基準露出レベルの調節について

- カスタムメニューb7〔基準露出レベルの調節〕は、カスタムメニュー「A」～「D」ごとに設定します。カスタムメニューを切り換えるときは、カスタムメニューb7の設定の違いにご注意ください。
- カスタムメニューb7〔基準露出レベルの調節〕を0以外に設定しても、マークは表示されませんのでご注意ください。設定した基準露出レベルは、カスタムメニューb7の画面でのみ確認できます。
- 基準露出レベルの調節の設定は、ツールボタンリセットでは解除できません。

c : AEロック・タイマー

c1 : シャッターボタンAEロック

MENUボタン →  カスタムメニュー

シャッターボタンを押してAEロックを行うかどうかを設定できます。

 ON する (半押し)	シャッターボタンを半押ししたときにAEロックを行います。
 ON する (連続撮影時)	シャッターボタンを半押ししたときにはAEロックを行わず、全押ししたときにAEロックを行います。
しない	シャッターボタンを押してもAEロックを行いません。

c2 : 半押しタイマー

MENUボタン →  カスタムメニュー

シャッターボタンを半押ししてから何も操作しないで一定時間が過ぎると、待機状態に入ります。この待機状態になるまでの時間を変更できます。

- 待機状態になると、表示パネルのシャッタースピードと絞り値の表示とファインダー内の表示が消灯します。
- 半押しタイマーを延長すると、バッテリーの消耗が早くなります。

c3 : セルフタイマー

MENUボタン →  カスタムメニュー

セルフタイマー撮影時にシャッターボタンを全押ししてからシャッターがきれるまでの時間と、撮影するコマ数、連続撮影するときの撮影間隔を設定できます。

時間	シャッターがきれるまでの時間を選べます。
撮影コマ数	マルチセレクトターの  または  を押して、1コマ～9コマの間で設定できます。
連続撮影間隔	[撮影コマ数] を2コマ以上に設定した場合に連続撮影するときの撮影間隔を選べます。

c4 : モニターのパワーオフ時間

MENUボタン →  カスタムメニュー

画像モニターが自動的に消灯するまでの時間を変更できます。

- [画像の再生]、[メニュー表示]、[インフォ画面表示]、[撮影直後の画像確認]、[ライブビュー表示] で画像モニターが自動的に消灯するまでの時間を個別に設定できます。
- 初期設定は、[画像の再生] と [インフォ画面表示] の場合は 10 秒、[メニュー表示] は1分、[撮影直後の画像確認] は4秒、[ライブビュー表示] は10分です。
- 画像モニターの表示時間を延長すると、バッテリーの消耗が早くなります。

d : 撮影・記録・表示

d1 : 低速連続撮影速度

MENUボタン →  カスタムメニュー

CL時の連続撮影速度を、[6コマ/秒]～[1コマ/秒]の間で設定できます。

d2 : 連続撮影コマ数

MENUボタン →  カスタムメニュー

連続撮影を最大何コマまで継続できるかを設定できます。マルチセレクトターの $\odot$ または $\odot$ を押して、1コマ～200コマの間で設定します。

- 露出モードが**S**または**M**のときにシャッタースピードが4秒または4秒よりも遅い場合は、連続撮影のコマ数は制限されません。

連続撮影コマ数について

カスタムメニュー d2 [連続撮影コマ数] で設定するコマ数は、連続撮影を継続できる最大のコマ数です。ただし、連続撮影速度を維持したまま連続撮影できるコマ数には、画質モードなどによって上限があります。このコマ数を超えると「**r00**」と表示され、連続撮影速度は低下します。

d3 : ISO感度表示

MENUボタン →  カスタムメニュー

表示パネルの記録可能コマ数表示部に、ISO感度を表示するかどうかを設定できます。

d4：連動リリースモード設定

MENUボタン →  カスタムメニュー

別売のワイヤレスリモートコントローラーを接続して連動リリースモードに設定した場合に、マスターカメラのリリースに連動してリモートカメラをリリースさせるかどうかを設定できます。

d5：露出ディレーモード

MENUボタン →  カスタムメニュー

顕微鏡撮影時などのカメラブレを最小限に抑えるため、シャッターボタンを押すと最初にミラーが作動し、約0.2～3秒後にシャッターがきれるように変更できます。

d6：電子先幕シャッター

MENUボタン →  カスタムメニュー

電子先幕シャッターを有効にするかどうかを設定できます。電子先幕シャッターで撮影することにより、カメラブレを低減できます。電子先幕シャッターで撮影するには、リリースモードを**Q**、**Qc**、または**MUP**に設定してください。

有効	電子先幕シャッターで撮影します。
無効	メカニカルシャッターで撮影します。

電子先幕シャッターについて

- Gタイプ、Eタイプ、Dタイプ以外のレンズを装着していると、むら、すじなどが発生する場合があります。その場合は、**[無効]**に設定して撮影してください。
- **Q**、**Qc**、および**MUP**以外のリリースモードの場合は、常にメカニカルシャッターで撮影します。
- 電子先幕シャッター使用時は、シャッタースピードの上限が1/2000秒、ISO感度の上限が25600に制限されます。

d7 : 連番モード

MENUボタン →  カスタムメニュー

ファイル名に使われるファイル番号の連番について設定できます。

する	メモリーカードを交換したり、画像を記録するフォルダーを変更しても、連番でファイル番号を付けます。複数のカードを使って撮影してもファイル番号が重複しないため、撮影後の画像ファイルを管理しやすくなります。
しない	メモリーカードや画像を記録するフォルダーを変更するたびに、ファイル番号が「0001」に戻ります。画像を記録するフォルダー内にすでに画像ファイルがある場合は、次の番号からファイル番号が付きま す。 • 連番モードを[する]から[しない]に変更しても、カメラはファイル番号を記憶しています。次に[する]に切り換えたときは、以前記憶した番号からの連番でファイル名が付きま す。
リセット	[する]に設定したときのファイル番号をリセットします。リセットした後に撮影を行うと、現在選択中のフォルダーに画像ファイルがない場合は0001から連番で画像が記録されます。すでにファイルがある場合には、そのファイル番号の次の番号からファイル番号が付きま す。

ファイル番号について

- ファイル番号が9999に達したときに撮影を行うと、自動的に新規フォルダーが作成され、ファイル番号が0001番に戻ります。
 - フォルダー番号が 999 になるとカメラが自動的にフォルダーを作成できないため、次のときに撮影ができなくなります。
 - フォルダー内のファイル数が 5000 個に達したとき（動画撮影時、最長記録時間を記録するのに必要なファイルによってフォルダー内のファイル数が 5000 個を超えるとカメラが判断した場合、動画の撮影はできなくなります）
 - ファイル番号が 9999 に達したとき（動画撮影時、最長記録時間を記録するのに必要なファイルによってフォルダー内のファイル番号が 9999 を超えるとカメラが判断した場合、動画の撮影はできなくなります）
- この場合は、カスタムメニュー d7 [連番モード] を [リセット] した後、メモリーカードを初期化するか、交換してください。

✓ フォルダーの自動作成について

- 撮影中に記録フォルダー内に5000個のファイルが記録された場合、メモリーカード内に存在する最大フォルダー番号+1という番号のフォルダーを自動的に作成して、記録フォルダーとしてそのフォルダーを選びます。
- 撮影中にファイル番号が9999となった場合、メモリーカード内に存在する最大フォルダー番号+1の番号のフォルダーを自動的に作成して、記録フォルダーとしてそのフォルダーを選びます。

d8 : ピーキング表示色

MENUボタン →  カスタムメニュー

ピーキング表示で強調する部分の色を変更できます。

- ピーキングの表示/非表示およびピーキング検出の感度は、ライブビュー撮影時に **i** ボタンを押して表示される「**ピーキングの検出**」で設定できます。

d9 : ファインダー内格子線表示

MENUボタン →  カスタムメニュー

ファインダー内に構図用格子線を表示するかしないかを設定できます。

d10 : イルミネーター点灯

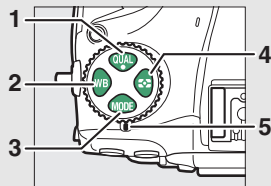
MENUボタン →  カスタムメニュー

表示パネルやボタンのイルミネーター（照明）点灯の設定を変更できます。

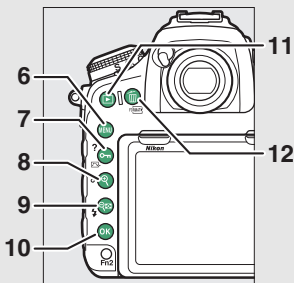
- **【しない】** に設定すると、電源スイッチを  に合わせたときだけイルミネーターを点灯します。イルミネーター点灯中にシャッターボタンを半押しまたは全押しすると、イルミネーターは消灯します。
- **【する】** に設定すると、半押しタイマーの作動中にイルミネーターが点灯します。ただし、バッテリーの消耗は早くなります。イルミネーター点灯中にシャッターボタンを半押しまたは全押しすると、イルミネーターは消灯しますが、シャッターボタンを放すと再度点灯します。

📌 ボタンの照明について

リリースモードダイヤル指標および次のボタンが点灯します。



- | | |
|---|---------------|
| 1 | QUAL ボタン |
| 2 | WB ボタン |
| 3 | MODE ボタン |
| 4 | 📷 ボタン |
| 5 | リリースモードダイヤル指標 |



- | | |
|----|----------------|
| 6 | MENU ボタン |
| 7 | 🔑 (📷/?) ボタン |
| 8 | 🔍 ボタン |
| 9 | 🔍 ⚡ ボタン |
| 10 | OK ボタン |
| 11 | ▶ ボタン |
| 12 | 🗑 (FORMAT) ボタン |

d11：連続撮影中の表示 (Lv)

MENU ボタン → 📌 カスタムメニュー

ライブビュー撮影でリリースモードをCL、CH、またはQCに設定しているとき、連続撮影中に撮影した画像を1コマずつ再生します。

• [しない] を選ぶと露光中の画像モニターのバックライトも消灯します。

d12：光学手ブレ補正

MENU ボタン → 📌 カスタムメニュー

手ブレ補正スイッチのない一部のAF-Pレンズを装着したときのみ表示されます。[する] を選ぶと、手ブレ補正機能がONになり、シャッターボタンを半押ししたときに手ブレを補正します。[しない] を選ぶと手ブレ補正機能がOFFになります。

e : フラッシュ・BKT撮影

e1 : フラッシュ撮影同調速度

MENUボタン →  カスタムメニュー

フラッシュ撮影時の同調速度を設定できます。

1/250秒 (オートFP)	フラッシュ撮影時の同調速度を1/250秒に設定します。別売のオートFPハイスピードシンクロ対応スピードライト使用時は1/250秒より速いシャッタースピードでは自動的にFP発光に切り替わります。 露出モードがPまたはAで、表示パネルまたはファインダー内表示のシャッタースピードが1/250秒を示す場合、実際に制御されるシャッタースピードが1/250秒よりわずかも高速側であれば、FP発光に切り替わります。オートFPハイスピードシンクロ対応スピードライトを装着した場合は、高速側のシャッタースピードが1/8000秒まで制御されます。露出モードがSまたはMでオートFPハイスピードシンクロ対応スピードライトを装着した場合は、高速側のシャッタースピードを1/8000秒まで設定できます。
1/250秒	フラッシュ撮影時の同調速度を、1/250～1/60秒の範囲で設定できます。
1/200秒	
1/160秒	
1/125秒	
1/100秒	
1/80秒	
1/60秒	

シャッタースピードの同調速度を固定するには

露出モードが**S**または**M**のときに、シャッタースピードの同調速度をカスタムメニュー e1 [フラッシュ撮影同調速度] で設定した値に固定するには、最も低速側（30秒または- -）の次の位置を選んでください。表示パネルとファインダー内表示に**X**（フラッシュシンクロマーク）と設定した同調速度が表示されます。

FP発光について

フラッシュ撮影時のシャッタースピードをカメラの最高速度まで設定できます。[1/250秒（オートFP）]に設定すると、シャッタースピードがフラッシュ撮影同調速度よりも高速側になった場合、自動的にFP発光に切り替わります。日中でも、レンズの絞りを開いて背景をぼかした撮影ができます。

- FP発光に切り替わると、インフォ画面のフラッシュモードに「FP」が表示されます。

e2：フラッシュ時シャッタースピード制限

MENUボタン →  カスタムメニュー

露出モードが**P**または**A**の場合のフラッシュ撮影時のシャッタースピードの低速側の制限を設定できます。

- スローシンクロモード、後幕シンクロモード、赤目軽減スローシンクロモード時や露出モードが**S**、**M**の場合には、カスタムメニューe2[フラッシュ時シャッタースピード制限]の設定にかかわらず、シャッタースピードの低速側の制限は30秒になります。

e3：フラッシュ使用時の露出補正

MENUボタン →  カスタムメニュー

フラッシュ撮影時に露出補正を設定した場合のフラッシュの調光を設定できます。

  全体を補正	露出と調光量を同時に補正します。全体の露出が変化します。
 背景のみ補正	背景の露出だけを補正します。

e4 : 使用時の感度自動制御

MENUボタン → カスタムメニュー

フラッシュ撮影時に感度自動制御を行う場合の、露出を合わせる対象を設定できます。

 被写体と背景	主な被写体以外の背景も適切な露出となるように、感度自動制御を行います。
 被写体のみ	主な被写体が適切な露出となるように、感度自動制御を行います。

e5 : モデリング発光

MENUボタン → カスタムメニュー

別売のニコンクリエイティブライティングシステム対応スピードライト使用時に、カメラの**Pv**ボタンを押したときに、陰影の状況を把握するためのモデリング発光を行わないように設定できます。

e6 : BKT変化要素 (Mモード)

MENUボタン → カスタムメニュー

露出モードMでオートブラケティングを行うときに変化する内容は、静止画撮影メニュー [オートブラケティングのセット] とe6 [BKT変化要素 (Mモード)] との組み合わせによって次のようになります。

カスタムメニュー e6 [BKT変化要素 (Mモード)]	静止画撮影メニュー [オートブラケティングのセット]	
	AE・フラッシュ ブラケティング※	AEブラケティング※
 フラッシュ・シャッタースピード	シャッタースピードとフラッシュの調光レベル	シャッタースピード
 フラッシュ・シャッタースピード・絞り値	シャッタースピード、絞り値、フラッシュの調光レベル	シャッタースピードと絞り値
 フラッシュ・絞り値	絞り値とフラッシュの調光レベル	絞り値
 フラッシュ	フラッシュの調光レベル	—

※ カスタムメニュー e6 が [フラッシュ・シャッタースピード]、[フラッシュ・シャッタースピード・絞り値]、[フラッシュ・絞り値] のいずれかのときに、[感度自動制御] が [する] に設定され、フラッシュを使用していない場合、ブラケティング1コマ目のISO感度で固定されます。

フラッシュ調光レベルについて

フラッシュブラケティング中は、フラッシュ調光レベルは、i-TTL調光時または絞り連動外部自動調光時 (⊗A) のみ変化します。

e7 : BKTの順序

MENUボタン →  カスタムメニュー

オートブラケットの補正順序を変更できます。

N [0] → [-] → [+]	「補正なし」 → 「-側に補正」 → 「+側に補正」の順になります。
->+ [-] → [0] → [+]	「-側に補正」 → 「補正なし」 → 「+側に補正」の順になります。

- 静止画撮影メニュー [オートブラケットのセット] が [ADLブラケット] の場合、e7の設定を変更しても補正順序は変わりません。

f : 操作

f1 : カスタムボタンの機能

MENUボタン → カスタムメニュー

カメラの各ボタンを押したときの機能と、コマンドダイヤルを併用したときの機能を設定できます。

■ ボタンを押したときの機能

- 機能を割り当てられるボタンは次の通りです。割り当てを設定したいボタンの項目を選んで、マルチセクターの中央を押してください。



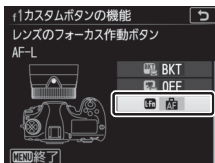
Pv プレビューボタン

Fn1 Fn1ボタン

Fn2 Fn2ボタン

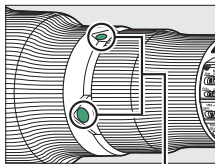
AF-ON AF-ONボタン

⊙ サブセクター中央ボタン



LFn レンズのフォーカス作動ボタン※

- ※ フォーカス作動設定スイッチがあるレンズを装着し、スイッチが**AF-L**に設定されている場合に、レンズのフォーカス作動ボタンを押したときの機能を設定できます。



フォーカス作動ボタン

- 各ボタンに割り当てられる機能は次の通りです。

		Pv	Fn1	Fn2	AF-ON	⊗	L-Fn
PRE ^[a]	プリセットフォーカスポイント	●	●	—	—	●	●
[i]	AFエリアモード	●	●	—	●	●	●
[i] AF-ON	AFエリアモード+AF-ON	●	●	—	●	●	●
	プレビュー	●	●	—	—	●	—
	FV-L	●	●	—	—	●	—
	AE-L/AF-L	●	●	—	●	●	●
	AE-L	●	●	—	●	●	●
	AE-L (リリースでリセット)	●	●	—	●	●	—
	AE-L (ホールド)	●	●	—	●	●	—
	AF-L	●	●	—	●	●	●
AF-ON	AF-ON	●	●	—	●	●	●
	⚡発光禁止/許可切換	●	●	—	—	●	●
BKT ^[a]	BKT自動連写	●	●	—	—	●	—
+RAW	プラスRAW記録	●	●	—	—	●	—
	マルチパターン測光簡易設定	●	●	—	—	●	—
	中央部重点測光簡易設定	●	●	—	—	●	—
	スポット測光簡易設定	●	●	—	—	●	—
	ハイライト重点測光簡易設定	●	●	—	—	●	—
	ファインダー内格子線表示	●	●	—	—	●	—
	ファインダー内水準器	●	●	—	—	●	—
	連動リリース切り換え	●	●	—	—	●	●
	マイメニュー	●	●	●	—	●	—
	マイメニューのトップ項目へジャンプ	●	●	●	—	●	—
	再生	●	●	—	—	●	—
★	レーティング	—	—	●	—	—	—
RESET	フォーカスポイント中央リセット	—	—	—	—	●	—
	選択フォーカスポイント表示	—	—	—	—	●	—
	設定しない	●	●	●	●	●	—

- ボタンを押したときの機能は次の通りです。

PRE^[a] プリセットフォーカスポイント	ボタンを押すと、あらかじめ設定した位置のフォーカスポイント（プリセットフォーカスポイント）が選ばれます。 • プリセットフォーカスポイントを設定するには、設定したい位置にフォーカスポイントを移動して、フォーカスポイントが点滅するまでAFモードボタンを押しながら割り当てたボタンを長押しします。 • a7 [縦/横位置フォーカス切換] を [しない] 以外に設定した場合、カメラの横位置と時計回りの方向の縦位置、反時計回りの方向の縦位置で個別にプリセットフォーカスポイントを設定できます。 • レンズのフォーカス作動ボタンに割り当てた場合、フォーカス作動ボタンを押している間のみ、あらかじめ設定した位置のフォーカスポイント（プリセットフォーカスポイント）が選ばれます。フォーカス作動ボタンを放すと、元のフォーカスポイント位置に戻ります。
[^[v]] AFエリアモード	ボタンを押している間、設定したAFエリアモードに変更します。ボタンを放すと、元のAFエリアモードに戻ります。 • [AF エリアモード] を選んでマルチセクターの  を押すと、AFエリアモードを選べます。ただし、[3D-トラッキング] は選べません。
[^[a]] AF^[AF-ON] AFエリアモード+AF-ON	ボタンを押している間、設定したAFエリアモードに変更され、ピント合わせも行います。ボタンを放すと、元のAFエリアモードに戻ります。 • [AF エリアモード] を選んでマルチセクターの  を押すと、AFエリアモードを選べます。ただし、[3D-トラッキング] は選べません。

 プレビュー	ファインダー撮影時にボタンを押し続けると、レンズの絞り羽根が絞り込まれ、ボタンを押している間、被写界深度が確認できます。ライブビュー時にボタンを1回押すと開放絞りになり、ピントがどこに合っているかを確認しやすくなります。もう一度ボタンを押すと、設定した絞り値に絞り込まれます。
 FV-L	別売のスピードライト使用時は、FVロックを行い、もう一度ボタンを押すと解除します。
 AE-L/AF-L	ボタンを押している間、AEロックとフォーカスロックを同時に行います。
 AE-L	ボタンを押している間、AEロックを行います。
 AE-L (リリースでリセット)	ボタンを1回押すとAEロックを行い、AEロック状態が維持されます。もう一度ボタンを押すか、シャッターをきるか、半押しタイマーがオフになると、AEロックを解除します。
 AE-L (ホールド)	ボタンを1回押すとAEロックを行い、AEロック状態が維持されます。シャッターをきってもAEロックは解除されません。ただし、もう一度ボタンを押すか、半押しタイマーがオフになると、AEロックを解除します。
 AF-L	ボタンを押している間、フォーカスロックを行います。
 AF-ON	ボタンを押している間、 AF-ON ボタンを押し続けたときと同様にカメラが自動的に被写体にピントを合わせます。
 発光禁止/許可切換	フラッシュモードが発光禁止以外の場合、ボタンを押している間、フラッシュは発光禁止になります。フラッシュモードが発光禁止の場合は、ボタンを押している間、先幕シンクロモードで撮影できます。

BKT  BKT自動連写	静止画撮影メニューの「オートブラケティングのセット」が「WBブラケティング」以外の場合でリリースモードがCh、CL、またはQcのときは、ボタンを押しながらシャッターボタンを全押ししている間、1回分のブラケティング設定コマ数を撮影し終えた後も、引き続きオートブラケティング撮影をします。また、リリースモードがSまたはQのときは、ボタンを押しながらシャッターボタンを全押しし続けると、1回分のブラケティング設定コマ数を連続撮影します。 「オートブラケティングのセット」が「WBブラケティング」の場合は、ボタンを押しながらシャッターボタンを全押ししている間連続撮影して、各コマに対してWBブラケティングを行います。
+RAW  プラスRAW記録	画質モードがJPEG形式に設定されている場合、ボタンを押すと表示パネルの画質モードに「RAW」が表示され、押してから1回の撮影のみRAW画像がJPEG画像と同時に記録されます。撮影後シャッターボタンから指を放すか、もう一度ボタンを押すと「プラスRAW記録」を解除します。 RAW画像は静止画撮影メニュー「画像サイズ」の「RAW」で設定した画像サイズ、「RAW記録」(49)の設定で記録されます。
 マルチパターン測光簡易設定	ボタンを押している間、測光モードがマルチパターン測光になります。
 中央部重点測光簡易設定	ボタンを押している間、測光モードが中央部重点測光になります。
 スポット測光簡易設定	ボタンを押している間、測光モードがスポット測光になります。
 * ハイライト重点測光簡易設定	ボタンを押している間、測光モードがハイライト重点測光になります。

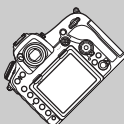
 ファインダー内 格子線表示	ボタンを1回押すと、ファインダーに構図用格子線を表示します。もう一度ボタンを押すと、格子線の表示を終了します。				
 ファインダー内 水準器	ボタンを1回押すと、ファインダーに水準器インジケータを表示します (□136)。もう一度ボタンを押すと、水準器表示を終了します。				
 連動リリース 切り換え	別売のワイヤレスリモートコントローラーを接続して連動リリースモードで撮影する場合の、連動リリースの機能を切り換えます。カスタムメニュー d4 [連動リリースモード設定] (□120) の設定により、選択できる内容が異なります。				
	• [連動リリースモード設定] が [連動する] の場合				
	<table><tr><td> マスターカメラのみリリース</td><td>ボタンを押している間、マスターカメラのみ撮影を行い、リモートカメラでは撮影を行いません。</td></tr><tr><td> リモートカメラのみリリース</td><td>ボタンを押している間、リモートカメラでのみ撮影を行います。</td></tr></table>	 マスターカメラのみリリース	ボタンを押している間、マスターカメラのみ撮影を行い、リモートカメラでは撮影を行いません。	 リモートカメラのみリリース	ボタンを押している間、リモートカメラでのみ撮影を行います。
	 マスターカメラのみリリース	ボタンを押している間、マスターカメラのみ撮影を行い、リモートカメラでは撮影を行いません。			
	 リモートカメラのみリリース	ボタンを押している間、リモートカメラでのみ撮影を行います。			
• [連動リリースモード設定] が [連動しない] の場合					
<table><tr><td> マスターとリモートが連動</td><td>ボタンを押している間、マスターカメラとリモートカメラが連動して撮影を行います。</td></tr><tr><td> リモートカメラのみリリース</td><td>ボタンを押している間、リモートカメラでのみ撮影を行います。</td></tr></table>	 マスターとリモートが連動	ボタンを押している間、マスターカメラとリモートカメラが連動して撮影を行います。	 リモートカメラのみリリース	ボタンを押している間、リモートカメラでのみ撮影を行います。	
 マスターとリモートが連動	ボタンを押している間、マスターカメラとリモートカメラが連動して撮影を行います。				
 リモートカメラのみリリース	ボタンを押している間、リモートカメラでのみ撮影を行います。				

	マイメニュー	ボタンを押すと、マイメニュー (□214) を表示します。
	マイメニューの トップ項目へ ジャンプ	マイメニューの最上位に登録してある項目へジャンプします。よく使うメニュー項目をマイメニューの最上位に登録して、この機能を使うと便利です。
	再生	ボタンに  ボタンと同じ機能を割り当てます。望遠レンズなどを使用していて、  ボタンを左手で操作できないときに便利です。
★	レーティング	画像再生時にボタンを押しながらマルチセクターの   を押して、レーティング(重要度)を設定できます。
RESET	フォーカス ポイント 中央リセット	ボタンを押すと、中央のフォーカスポイントが選ばれます。
	選択フォーカス ポイント表示	ボタンを押すと、選択中のフォーカスポイントが点灯します。
	設定しない	ボタンは機能しません。

水準器インジケータについて

「ファインダー内水準器」を割り当てたボタンを押すと、カメラに内蔵している傾斜センサーを使って、ファインダーに水準器インジケータを表示します。この「水準器インジケータ」の見方は次の通りです。

ローリング方向

カメラが時計回りに傾いている場合	カメラが正位置の場合 (傾いていない場合)	カメラが反時計回りに傾いている場合
		
		

ピッチング方向

カメラが前に傾いている場合	カメラが正位置の場合 (傾いていない場合)	カメラが後ろに傾いている場合
		
		

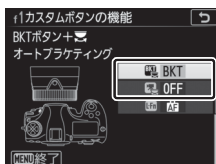
- カメラを前または後ろに大きく傾けると、水準器の誤差が大きくなりますのでご注意ください。測定できない状態までカメラを傾けると、水準器の目盛が消灯します。
- カメラを縦位置に構えて撮影するときは、ローリング方向とピッチング方向の水準器の表示位置が入れ替わります。

■ ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回したときの機能

- 機能を割り当てられるボタンは次の通りです。割り当てを設定したいボタンの項目を選んで、マルチセクターの中央を押してください。



	プレビューボタン+
	Fn1 ボタン+
	サブセクター中央+



	BKT ボタン+
	動画撮影ボタン+

※ ライブビューセクターがの場合に、動画撮影ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回したときの機能を設定できます。

- 各ボタンに割り当てられる機能は次の通りです。

撮像範囲選択	●	●	●	—	●
シャッタースピードと絞り値のロック	●	●	●	—	●
シャッター・絞り値1段選択	●	●	—	—	—
手動設定済みレンズの選択	●	●	●	—	—
アクティブD-ライティング設定	●	●	—	—	—
露出ディレーモード	●	●	—	—	—
静止画撮影メニュー切り換え	●	●	●	—	●
露出モード	—	—	—	—	●
ホワイトバランス	—	—	—	—	●
オートブラケティング	—	—	—	●	—
多重露出	—	—	—	●	—
HDR (ハイダイナミックレンジ)	—	—	—	●	—
設定しない	●	●	●	●	●

- ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回したときの機能は次の通りです。

 撮像範囲選択	ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、「撮像範囲」 (□46) の設定を切り換えられます。 • 項目を選んで、マルチセクターの  を押すと、項目の左側のチェックボックスがオン ☒ になります。もう一度  を押すと、チェックボックスがオフ ☐ になります。チェックボックスをオン ☒ にした項目のみ、ボタンとコマンドダイヤルで選べるようになります。ⓧ ボタンを押すと、設定が完了します。 
 シャッター スピードと 絞り値のロック	露出モードがSまたはMのとき、ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、シャッタースピードを固定します。露出モードがAまたはMのとき、ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、絞り値を固定します。
 シャッター・ 絞り値1段選択	カスタムメニューb2 「露出設定ステップ幅」 (□113) の設定にかかわらず、シャッタースピードまたは絞り値を1段ステップで設定できます。 • 露出モードがSまたはMのとき、ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、シャッタースピードを1段ステップで設定します。 • 露出モードがAまたはMのとき、ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、絞り値を1段ステップで設定します。
 手動設定済み レンズの選択	ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、現在使用中のレンズの情報を、セットアップメニューの「レンズ情報手動設定」 (□167) で設定したレンズNo.のものに切り換えます。
 アクティブD-ラ イティング設定	ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、アクティブD-ライティング (□56) の設定を切り換えられます。
 露出ディー ラーモード	ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、露出ディーラーモードを切り換えられます (□120)。

SHOOT	静止画撮影 メニュー切り換え	ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、静止画撮影メニューを切り換えられます (□34)。
MODE	露出モード	ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、露出モードを切り換えられます。
WB	ホワイトバランス	ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、ホワイトバランスを設定できます。ホワイトバランスが AUTO (オート) および  (蛍光灯) のときに、ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、 AUTO (オート) または  (蛍光灯) の種類を変更できます (□51)。
BKT	オート ブラケットング	ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルまたはサブコマンドダイヤルを回すと、オートブラケットング撮影時の撮影コマ数、補正ステップ、アクティブD-ライティングの度合いを設定できます (□62)。
	多重露出	ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、多重露出モードを設定できます。ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、多重露出のコマ数を設定できます (□63)。
HDR	HDR (ハイ ダイナミック レンジ)	ボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、HDRモードを設定できます。ボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、HDRの露出差を設定できます (□70)。
	設定しない	ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回しても機能しません。

BKTボタンについて

- HDR (ハイダイナミックレンジ) の設定が有効なときに [**BKTボタン**+] に [**オートブラケットング**] または [**多重露出**] を割り当てると、**BKTボタン**を押しても設定の変更は行えません。
- 多重露出 (□63) の設定が有効なときに [**オートブラケットング**] または [**HDR (ハイダイナミックレンジ)**] を割り当てると、**BKTボタン**を押しても設定の変更は行えません。

押し時の動作とコマンドダイヤル併用時の動作が併用できない場合

[**プレビューボタン**] と [**プレビューボタン**+] のように、同じボタンに押し時の動作とコマンドダイヤル併用時の動作を設定できるボタンでは、両方の機能を同時に設定できない場合があります。その場合は後に設定された機能が有効になり、先に設定していた内容が [**設定しない**] に変更されます。

■ サブセクターを倒したときの機能

サブセクターを上下左右に倒したときの機能を変更できます。⦿サブセクターを選んで、マルチセクターの**中央**を押してください。



⦿ サブセクター

= ⦿ マルチセクターと同じ	マルチセクターの⦿⦿⦿⦿と同じ機能になります。 ⦿ ボタンを押して「拡大再生中の動作」を設定できます。画像を拡大表示したときのサブセクターの動作を「拡大位置移動」または「コマ送り」に設定できます。
[r] フォーカスポイント選択	フォーカスポイントを選べます。

f2：中央ボタンの機能

MENUボタン → カスタムメニュー

ファインダー撮影時とライブビュー時または再生時にマルチセクターの**中央**ボタンを押したときの機能を設定できます(1コマ表示中の画像が動画の場合、[再生モード]の設定にかかわらず、**中央**ボタンを押すと動画を再生します)。



■■ 撮影モード

RESET	フォーカスポイント 中央リセット	中央ボタンを押すと、中央のフォーカスポイントが選ばれます。
PRE ^[a]	プリセットフォーカスポイント	中央ボタンを押すと、あらかじめ設定した位置のフォーカスポイント（プリセットフォーカスポイント）が選ばれます。 - プリセットフォーカスポイントを設定するには、設定したい位置にフォーカスポイントを移動して、フォーカスポイントが点滅するまでAFモードボタンを押しながら中央ボタンを長押しします。 - a7 [縦/横位置フォーカス切換] を [しない] 以外に設定した場合、カメラの横位置と時計回りの方向の縦位置、反時計回りの方向の縦位置で個別にプリセットフォーカスポイントを設定できます。
選択	選択フォーカスポイント表示	中央ボタンを押すと、選択中のフォーカスポイントが点灯します。
	設定しない	中央ボタンは機能しません。

再生モード

 1コマとサムネイルの切り換え	中央ボタンを押すごとに、1コマ表示とサムネイル表示（4コマ、9コマ、72コマ）を切り換えます。
 ヒストグラム表示	中央ボタンを押している間、ヒストグラムを表示します。サムネイル表示時もヒストグラム表示できます。
 拡大画面との切り換え	中央ボタンを押すと、撮影時のフォーカスポイントを中心にして、設定した拡大率で拡大表示します。もう一度中央ボタンを押すと、元の表示に戻ります。 • [拡大画面との切り換え]を選んでマルチセクターの$\odot$を押すと、拡大率を[低倍率（50%）]、[等倍（100%）]、[高倍率（200%）]から選べます。 • サムネイル表示時も拡大表示できます。
 スロット/フォルダー指定	中央ボタンを押すと、[スロット/フォルダー指定]画面が表示され、画像を再生するスロットとフォルダーを指定できます。

ライブビュー

RESET フォーカスポイント 中央リセット	ライブビュー表示中に中央ボタンを押すと、フォーカスポイントが画面中央に移動します。
 拡大画面との切り換え	ライブビュー表示中に中央ボタンを押すと、フォーカスポイントを中心にして、設定した拡大率で拡大表示します。もう一度中央ボタンを押すと、元の表示に戻ります。 • [拡大画面との切り換え]を選んで$\odot$を押すと、拡大率を[低倍率（50%）]、[等倍（100%）]、[高倍率（200%）]から選べます。
設定しない	中央ボタンは機能しません。

f3：シャッタースピードと絞り値のロック

MENUボタン → カスタムメニュー

〔シャッタースピードのロック〕を〔する〕にすると、露出モード**S**または**M**ではシャッタースピードを現在の設定でロックします。〔絞り値のロック〕を〔する〕にすると、露出モード**A**または**M**では絞り値を現在の設定でロックします。

- 露出モードが**P**の場合はシャッタースピードと絞り値のロックは使えません。

f4：コマンドダイヤルの設定

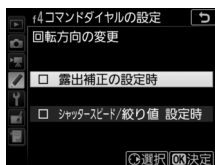
MENUボタン → カスタムメニュー

メインコマンドダイヤルとサブコマンドダイヤルに関する設定ができます。

■■ 回転方向の変更

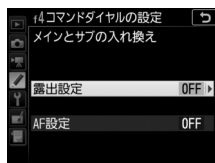
露出補正の設定時またはシャッタースピード/絞り値の設定時に、メインコマンドダイヤルとサブコマンドダイヤルを操作するときの回転方向を逆方向に変更できます。

- 〔露出補正の設定時〕または〔シャッタースピード/絞り値 設定時〕を選んでマルチセレクターの $\odot$ を押すと、項目の左側のチェックボックスがオン ☒ になります。もう一度 $\odot$ を押すと、チェックボックスがオフ ☐ になります。
- $\odot$ ボタンを押すと、設定が完了します。
- 別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D18のコマンドダイヤルの回転方向も変更されます。



■ メインとサブの入れ換え

メインコマンドダイヤルとサブコマンドダイヤルの機能を入れ換えられます。



露出設定	[する] を選ぶと、メインコマンドダイヤルで絞り値を、サブコマンドダイヤルでシャッタースピードを設定します。[する (Aモード)] を選ぶと、露出モードAのときのみ、メインコマンドダイヤルで絞り値を設定します。
AF設定	[する] を選ぶと、AFモードボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを回してAFエリアモードを、サブコマンドダイヤルを回してAFモードを設定します。

- 別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D18のコマンドダイヤルの機能も入れ替わります。

■ 絞り値の設定方法

CPUレンズの装着時に露出モードが**A**または**M**の場合、レンズの絞りリングで絞り値を設定できるように変更できます。

サブコマンドダイヤル	サブコマンドダイヤルで絞り値をセットします ([メインとサブの入れ換え] の [露出設定] を [する] に設定した場合は、メインコマンドダイヤルで絞り値をセットします)。
絞りリング	レンズの絞りリングで絞り値をセットします。絞りリングによる中間絞りの設定は可能ですが、絞り値の表示は1段ステップになります。

- 絞りリングのないレンズ (Gタイプ、Eタイプレンズ) 装着時は、[絞り値の設定方法] での設定にかかわらず、絞り値はサブコマンドダイヤルで設定します。
- 非CPUレンズ装着時は、[絞り値の設定方法] での設定にかかわらず、絞り値はレンズの絞りリングで設定します。

■■ 再生/メニュー画面で使用

画像のコマ送りやメニュー操作を、マルチセクターでの操作から、メインコマンドダイヤルとサブコマンドダイヤルの操作でも行えるように変更できます。

する	再生時： • 1コマ表示時には、メインコマンドダイヤルで撮影画像をコマ送りします。サブコマンドダイヤルを回すと、[サブコマンドダイヤルで画像送り]で設定した方法でコマ送りします。 • サムネイル表示時には、メインコマンドダイヤルを回すと、黄色の枠（カーソル）が左右に移動し、サブコマンドダイヤルを回すと、ページを切り換えます。 メニュー画面表示時※： メインコマンドダイヤルで選択項目を切り換えます。サブコマンドダイヤルを時計方向に回すと、サブメニューに移動します。反時計回りに回すと、前の画面に戻ります。
ON⑤ する（撮影後確認時を除く）	[する]と同じ内容ですが、撮影直後の画像確認時は操作できません。
しない	再生時の表示画像の切り換え、画像の選択、およびメニュー画面での項目の選択は、マルチセクターで行います。

※ サブコマンドダイヤルでは項目を決定することはできません。項目を決定するには、**ⓧ**ボタンか、マルチセクターの**➡**または**中央**ボタンを押してください。

■ サブコマンドダイヤルで画像送り

〔再生/メニュー画面で使用〕で〔する〕または〔する（撮影後確認時を除く）〕に設定した場合、1コマ表示時にサブコマンドダイヤルを回したときのコマ送りの方法を設定できます。

10コマ	10コマずつコマ送りします。
50コマ	50コマずつコマ送りします。
 プロテクト	プロテクト（保護）した撮影画像だけをコマ送りして表示します。
 静止画のみ	静止画だけをコマ送りして表示します。
 動画のみ	動画だけをコマ送りして表示します。
 フォルダー	再生フォルダーを切り換えます。

f5：マルチセレクトターの半押し起動

MENUボタン → カスタムメニュー

半押しタイマーがきれたときにマルチセレクトターを操作すると、半押しタイマーが起動するように設定できます。

f6：ボタンのホールド設定

MENUボタン → カスタムメニュー

[する] に設定すると、ボタンを押しながらコマンドダイヤルを操作するときに、指を放してもコマンドダイヤル単独で設定できる状態が維持できます。もう一度ボタンを押すか、シャッターボタンを半押しするか、半押しタイマーがオフになると、解除されます。

- [ボタンのホールド設定] の対象ボタンは、 ボタン、ISO () ボタン、MODEボタン、BKTボタン、 ボタン、 () ボタン、QUALボタン、WBボタン、AFモードボタンです。
- f1 [カスタムボタンの機能] (□137) で [アクティブD-ライティング設定]、[露出ディレーモード]、[ホワイトバランス]、または [露出モード] を割り当てたボタンや、f10 [MB-D18のボタンの機能] (□150) で [アクティブD-ライティング設定]、[露出ディレーモード]、[ISO感度]、[露出モード]、[露出補正]、または [測光モード] を割り当てたボタンも、[ボタンのホールド設定] の対象になります。

f7：インジケーターの+/-方向

MENUボタン → カスタムメニュー

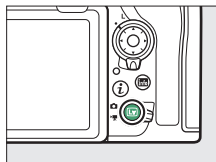
ファインダー内表示、表示パネル、およびインフォ画面 () でのインジケーターの+と-方向を入れ換えることができます。

+0-	インジケーターの+側を左に、-側を右に表示します。
-0+	インジケーターの-側を左に、+側を右に表示します。

f8：ライブビューボタンの設定

MENUボタン → 鉛筆アイコン カスタムメニュー

意図せずに **Lv** ボタンを押したときにライブビューが開始しないように、**Lv** ボタンを無効に設定できます。



有効	Lv ボタンを押すとライブビューが開始されます。
ON 半押しタイマー 作動中のみ有効	半押しタイマーがオンのときに Lv ボタンを押した場合のみ、ライブビューが開始されます。
無効	Lv ボタンを押してもライブビューは開始しません。

f9：※スイッチの機能

MENUボタン → 鉛筆アイコン カスタムメニュー

電源スイッチを **※** マークの方向に回したときに、表示パネルやボタンのイルミネーター（照明）のみ点灯するか、イルミネーターとインフォ画面を点灯するかを設定できます。

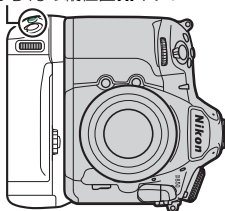
f10 : MB-D18のボタンの機能

MENUボタン → カスタムメニュー

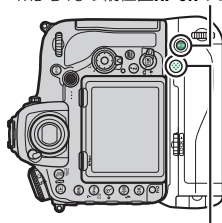
別売のマルチパワーバッテリーパック MB-D18を装着した場合に設定できます。MB-D18の各ボタンを押したときの機能と、コマンドダイヤルを併用したときの機能を設定します。



MB-D18の縦位置Fnボタン



MB-D18の縦位置AF-ONボタン



MB-D18の縦位置マルチセクター

Fnボタン

MB-D18の縦位置Fnボタンを押したときの機能を、以下の項目から設定できます。各項目についての詳しい説明は、「ボタンを押したときの機能」(□129)をご覧ください。

 プリセットフォーカス ポイント	 スポット測光簡易設定
 プレビュー	 ハイライト重点測光簡易設定
 FV-L	 ファインダー内格子線表示
 AE-L (リリースでリセット)	 ファインダー内水準器
 AE-L (ホールド)	 マイメニュー
 プラスRAW記録	 マイメニューの トップ項目へジャンプ
 マルチパターン測光簡易設定	 再生
 中央部重点測光簡易設定	設定しない

Fnボタン+

MB-D18の縦位置Fnボタンを押しながらコマンドダイヤルを回したときの機能を、以下の項目から設定できます。各項目についての詳しい説明は、「ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回したときの機能」(□137)をご覧ください。

 撮像範囲選択	 静止画撮影メニュー切り換え
 シャッタースピードと 絞り値のロック	 ISO感度※1
 シャッター・絞り値1段選択	 露出モード※2
 手動設定済みレンズの選択	 露出補正※3
 アクティブD-ライティング設定	 測光モード※4
 露出ディレーモード	設定しない

※1 カメラのISO () ボタンと同じ機能になります。

※2 カメラのMODEボタンと同じ機能になります。

※3 カメラの ボタンと同じ機能になります。

※4 カメラの ボタンと同じ機能になります。

■■ AF-ONボタン

MB-D18の縦位置**AF-ON**ボタンを押したときの機能を、以下の項目から設定できます。各項目についての詳しい説明は、「ボタンを押したときの機能」(□129)をご覧ください。

=  カメラのAF-ONボタンと同じ※	 AE-L
 AF-ON	 AE-L (リリースでリセット)
[] AFエリアモード	 AE-L (ホールド)
[]  AFエリアモード+AF-ON	 AF-L
 AE-L/AF-L	設定しない

※ カメラの**AF-ON**ボタンと同じ機能になります。

■■ マルチセレクトター

MB-D18の縦位置マルチセレクトターを操作したときの機能を設定できます。

=  カメラのマルチセレクトターと同じ	カメラのマルチセレクトターのと同じ機能になります。 • を押して[上下左右機能入れ換え]を設定できます。 [する]を選ぶと、上または下に倒して表示画像を、左または右に倒して画像情報のページを切り換えられるようになります。
[] フォーカスポイント選択	フォーカスポイントを選べます。 • 中央ボタンを押したときの機能は、[サブセレクトター 中央+] (□137) と同じです。

g1 : カスタムボタンの機能

MENU ボタン → カスタムメニュー

ライブビュー時のライブビューセクターが●の場合に、各ボタンを押したときの機能と、コマンドダイヤルを併用したときの機能を設定できます。

■ ボタンを押したときの機能

- 機能を割り当てられるボタンは次の通りです。割り当てを設定したいボタンの項目を選んで、マルチセクターの中央を押してください。



Pv	プレビューボタン
Fn1	Fn1ボタン
Fn2	Fn2ボタン
⊗	サブセクター中央ボタン
☺	シャッターボタン

- 各ボタンに割り当てられる機能は次の通りです。

	Pv	Fn1	Fn2	⊗	☺
⊗ パワー絞り（開放絞り側）	●	—	—	—	—
⊗ パワー絞り（最小絞り側）	—	●	—	—	—
⚡ 露出補正（+側）	●	—	—	—	—
⚡ 露出補正（-側）	—	●	—	—	—
📍 インデックスマーキング	●	●	●	●	—
📷 静止画撮影情報の表示	●	●	●	●	—
📷 AE-L/AF-L	—	—	—	●	—
📷 AE-L	—	—	—	●	—
📷 AE-L（ホールド）	—	—	—	●	—
📷 AF-L	—	—	—	●	—

	Pv	Fn1	Fn2	⊗	☉
 静止画撮影	—	—	—	—	●
 動画撮影	—	—	—	—	●
設定しない	●	●	●	●	—

- ボタンを押したときの機能は次の通りです。

 パワー絞り (開放絞り側)	Pv ボタンを押している間、開放絞り側に絞りが動きます。カスタムメニュー g1 [カスタムボタンの機能] の [Fn1 ボタン] が [パワー絞り (最小絞り側)] のときは、自動的にこの項目が選ばれます。
 パワー絞り (最小絞り側)	Fn1 ボタンを押している間、最小絞り側に絞りが動きます。カスタムメニュー g1 [カスタムボタンの機能] の [プレビューボタン] が [パワー絞り (開放絞り側)] のときは、自動的にこの項目が選ばれます。
 露出補正 (+側)	Pv ボタンを押している間、+側に露出補正を行います。カスタムメニュー g1 [カスタムボタンの機能] の [Fn1 ボタン] が [露出補正 (－側)] のときは、自動的にこの項目が選ばれます。
 露出補正 (－側)	Fn1 ボタンを押している間、－側に露出補正を行います。カスタムメニュー g1 [カスタムボタンの機能] の [プレビューボタン] が [露出補正 (+側)] のときは、自動的にこの項目が選ばれます。
 インデックス マーキング	動画記録中にボタンを押すと、撮影中の動画にインデックスマークを付けることができます。インデックスマークを付けると、動画の再生時や編集時に目的の場所へ素早く移動できます。
 静止画撮影 情報の表示	ボタンを押すと、動画撮影中（ライブビュー時および動画記録時）に静止画を撮影する場合の撮影情報が表示されます。もう一度ボタンを押すと元の画面に戻ります。
 AE-L/AF-L	ボタンを押している間、AEロックとフォーカスロックを同時に行います。
 AE-L	ボタンを押している間、AEロックを行います。

 AE-L (ホールド)	ボタンを1回押すとAEロックを行い、AEロック状態が維持されます。シャッターをきってもAEロックは解除されません。ただし、もう一度ボタンを押すか、半押しタイマーがオフになると、AEロックを解除します。
 AF-L	ボタンを押している間、フォーカスロックを行います。
 静止画撮影	シャッターボタンを全押しすると、アスペクト比16:9の静止画を撮影します（撮影中の動画は終了します）。
 動画撮影	シャッターボタンを半押しすると、ライブビューを開始します。フォーカスモードセクターがAFの場合、ライブビュー中にシャッターボタンを半押しするとピント合わせが行われます。また、全押しすると、動画記録を開始します。もう一度シャッターボタンを押すと、動画記録を終了します。 • 【動画撮影】 に設定すると、動画記録以外にシャッターボタンを使う操作は行えません。 • ライブビューを終了するには、[Lv] ボタンを押してください。 • 別売のワイヤレスリモートコントローラー（□□267）またはリモートコード（□□269）使用時には、ワイヤレスリモートコントローラーやリモートコードのシャッターボタンを半押ししてライブビューを開始したり、全押しして動画撮影の開始と終了を行えます。
設定しない	ボタンは機能しません。

パワー絞りについて

- 露出モード**A**または**M**のときのみ動作します。
- 静止画撮影情報の表示中は、パワー絞りは動作しません。
-  マークが画像モニターに表示されているときは、パワー絞りは動作しません。
- パワー絞りの動作中は画面にちらつきが発生します。

【シャッターボタン】を【動画撮影】に設定した場合のご注意

【シャッターボタン】が【動画撮影】の場合、インターバルタイマー撮影はできません。

■ ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回したときの機能

- 機能を割り当てられるボタンは次の通りです。割り当てを設定したいボタンの項目を選んで、マルチセクターの**中央**を押してください。



	プレビューボタン+☺
	Fn1ボタン+☺
	サブセクター中央+☺

- ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回したときの機能は次の通りです。全てのボタンで同様です。

撮像範囲選択	ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回すと、動画撮影時の撮像範囲（□83）の設定を切り換えられます。 動画記録中は、撮像範囲の切り換えはできません。
設定しない	ボタンを押しながらコマンドダイヤルを回しても機能しません。

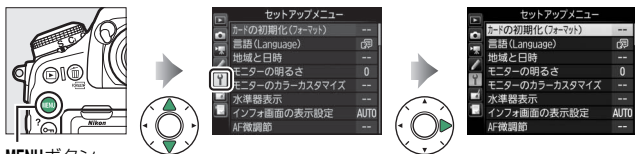
押し時の動作とコマンドダイヤル併用時の動作が併用できない場合
[プレビューボタン] と [プレビューボタン+☺] のように、同じボタンに押し時の動作とコマンドダイヤル併用時の動作を設定できるボタンでは、両方の機能を同時に設定できない場合があります。その場合は後に設定された機能が有効になり、先に設定していた内容が [設定しない] に変更されます。

g2：ハイライト表示の明るさ設定

MENUボタン → カスタムメニュー

動画のハイライト表示時に、どの程度の明るさをハイライトとして扱うかを設定できます。値が小さいほど暗い部分もハイライトとして表示します。[255] を選べると白とびする部分だけがハイライトされます。

MENU ボタンを押して、タブのYアイコンを選ぶと、セットアップメニューが表示されます。



MENU ボタン

セットアップメニューの項目は次の通りです。

メニュー項目		メニュー項目	
カードの初期化 (フォーマット)	157	位置情報	177
言語 (Language)	157	リモコン (WR) 設定	178
地域と日時	158	リモコン (WR) のFnボタンの機能	179
モニターの明るさ	159	機内モード	179
モニターのカラーカスタマイズ	160	スマートフォンと接続	180
水準器表示	161	スマートフォンへの自動送信	181
インフォ画面の表示設定	162	Wi-Fi	181
AF微調節	163	Bluetooth	182
レンズ情報手動設定	167	ネットワーク	182
イメージセンサークリーニング	167	Eye-Fi送信機能	183
クリーニングミラーアップ※	168	認証マークの表示	184
イメージダストオフデータ取得	171	MB-D18電池設定	185
画像コメント	173	電池の使用順序	186
著作権情報	174	電池チェック	187
電子音	175	カードなし時リリース	188
タッチ操作	176	カメラ設定の保存と読み込み	189
HDMI	176		

メニュー項目	📖	メニュー項目	📖
カメラの初期化	191	ファームウェアバージョン	191

※ バッテリー残量表示が🔋以下のときは選べません。

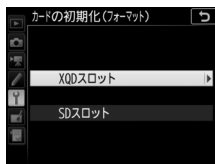
🔗 関連ページ

「セットアップメニューの初期設定」(📖18)

カードの初期化（フォーマット）

MENUボタン → 📌 セットアップメニュー

メモリーカードを初期化（フォーマット）します。初期化したいスロットを選んで「はい」を選ぶと、選んだスロットのメモリーカードを初期化します。**初期化すると、カード内のデータは全て削除されます。**カード内に必要なデータが残っている場合は、初期化の前にパソコンなどに保存してください。



✅ カードの初期化についてのご注意

「カードの初期化（フォーマット）中です。」のメッセージが画像モニターに表示されている間は、電源をOFFにしたり、メモリーカードを取り出さないでください。

🔗 ボタン操作による初期化

🗑️ (FORMAT) ボタンと ISO (FORMAT) ボタンを2秒以上同時に押して初期化することもできます。

言語（Language）

MENUボタン → 📌 セットアップメニュー

メニュー画面やメッセージの表示言語を、日本語または英語に設定します。

地域と日時

MENUボタン →  セットアップメニュー

現在地と日時、年月日の表示順、スマートフォンから日時の情報を取得するかどうかを設定します。定期的に日時設定を行うことをおすすめします。

現在地の設定	現在地のタイムゾーンを選びます。現在地のタイムゾーンを変更すると、 【日時の設定】 で設定された日時が、時差に合わせて自動的に更新されます。
日時の設定	【現在地の設定】 で選ばれているタイムゾーンの時刻を設定します。
スマートフォンと同期	スマートフォンからUTC（協定世界時）、夏時間（サマータイム制）、時差情報を取得して、カメラの日時情報を更新するかどうかを設定します。 • 【する】を選べば、スマートフォンから日時情報を取得して、カメラの日時情報を更新します。SnapBridgeアプリの日時同期機能を有効にしてください。 • インターバルタイマー撮影中、またはGPS機器と接続中に【位置情報】 → 【GPS機器設定】 → 【衛星による日時合わせ】（□177）を【する】に設定している場合、スマートフォンからの日時情報は取得しません。
日付の表示順	画像モニターに表示される、日付の年、月、日の表示順を、 【年/月/日】 、 【月/日/年】 、 【日/月/年】 から選びます。
夏時間の設定	現在地で夏時間が実施されている場合は 【する】 に、そうでない場合は 【しない】 に設定します。 【する】 にすると、時刻が1時間進みます。初期設定は 【しない】 です。

- カメラの内蔵時計の設定が初期化されている場合、表示パネルとインフォ画面に  マーク、 マークがそれぞれ点滅して警告します。

モニターの明るさ

MENUボタン →  セットアップメニュー

画像モニターの明るさをマルチセレクターの  または  を押して調整できます。+にすると明るく、-にすると暗くなります。

メニュー / 再生	メニュー表示時、インフォ画面表示時、画像の再生時の画像モニターの明るさを調整します。
ライブビュー	ライブビュー時の画像モニターの明るさを調整します。

モニターのカラーカスタマイズ

MENUボタン → Y セットアップメニュー

カメラの画像モニターの色調を好みに合わせて変更できます。

- マルチセクターで画像モニターの色みを調整できます。⬆️⬇️⬅️⬆️を押すたびに、画像モニターの色みが次のようになります。Ⓜ️ボタンを押すと決定します。

グリーンが強くなる



ブルーが
強くなる

アンバーが
強くなる

マゼンタが強くなる



- 画像モニターの色みを調整すると、メニュー表示や画像再生時、ライブビュー中の表示全てに反映されますが、撮影した画像または動画には反映されません。
- 最後に撮影した画像または最後に再生した画像がサンプルとして表示されます。撮影した画像がメモリーカード内にない場合、グレーで表示されます。
- 📷 (📡) ボタンを押すと、画像の選択画面が表示されます。画像を選んでⓂ️ボタンを押すと、選んだ画像がサンプルとして表示されます。
- 画像の選択画面で🔍ボタンを押すと、ボタンを押している間、選んだ画像を拡大表示します。

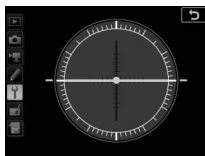


水準器表示

MENUボタン →  セットアップメニュー

カメラに内蔵している傾斜センサーを使って、画像モニターにローリング方向とピッチング方向の水準器を表示します。

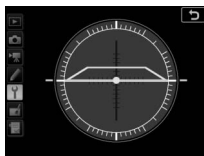
- カメラを正位置（傾きのない状態）にすると、ローリング方向の場合は水準器表示の基準線が緑色に変わります。ピッチング方向の場合は中央の●が緑色に変わります。
- 水準器の1目盛は、5°を表します。



カメラがローリング方向、ピッチング方向とも正位置の場合



カメラがローリング方向に傾いている場合



カメラがピッチング方向に傾いている場合

✓ 水準器の精度について

カメラを前または後ろに大きく傾けると、水準器の誤差が大きくなりますのでご注意ください。測定できない状態までカメラを傾けると、水準器の目盛が消灯します。

✓ 関連ページ

ファインダーに水準器インジケータを表示する →  f1 [カスタムボタンの機能] (□129、136)

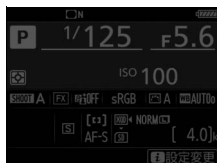
インフォ画面の表示設定

MENUボタン → Y セットアップメニュー

明るい場所や暗い場所で画像モニターが見づらいときにインフォ画面の見え方を設定できます。



黒文字表示



白文字表示

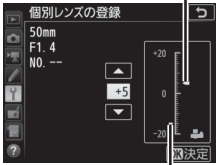
AUTO 自動	インフォ画面の表示を見やすくするように、カメラが自動的に白黒反転します。明るい場所では黒文字表示に、暗い場所では明るさを抑えた白文字表示に切り替わります。	
手動	B 黒文字	明るい場所で撮影するときにインフォ画面が見やすいように、画像モニターが点灯し、文字を黒く表示します。
	W 白文字	暗い場所で撮影するときにインフォ画面が見やすいように、画像モニターの明るさを抑え、文字を白く表示します。

AF微調節

MENU ボタン →  セットアップメニュー

装着したレンズごとに最適なピント合わせを行いたいときに、ピント位置を調節できます。

- 必要な場合のみAF微調節を行ってください。正常なレンズを調節すると、ピントが合わなくなる場合がありますのでご注意ください。
- AF微調節は、普段の撮影でよく使用する撮影距離で行うことをおすすめします。たとえば、近い距離でAF微調節を行った場合、遠い被写体に対してはAF微調節の効果が低下することがあります。
- ライブビュー時に自動でAF微調節を行うこともできます。

AF微調節 (する/しない)	• する：AF微調節の設定が有効になります。 • しない：AF微調節を行いません。
個別レンズの登録	装着しているCPUレンズの微調節値を登録できます。マルチセレクトターの  または  を押して、+20～-20の範囲で調節できます。 • ピントの合う位置は、微調節値が大きいほどカメラから遠ざかり、微調節値が小さいほどカメラに近づきます。 • 画面には今回の微調節値と、前回設定した微調節値が表示されます。 • 最大20種類のレンズを登録できます。 • 非CPUレンズは登録できません。 • すでに登録してあるレンズと同じ種類のレンズを登録すると微調節値が上書きされます。 今回の微調節値  前回設定した微調節値
その他レンズの登録	[個別レンズの登録] で登録していないCPUレンズを装着したときに、一律で微調節する値を設定します。  または  を押して、+20～-20の範囲で調節できます。

個別レンズ登録リスト

【個別レンズの登録】で登録したレンズを一覧表示します。登録リストからレンズを選んで $\odot$ を押すと、【識別番号入力】画面が表示されます。

- 【識別番号入力】画面では、レンズの識別番号を変更できます。 $\odot$ または $\odot$ を押して識別番号を選んで、 OK ボタンを押します。【個別レンズの登録】は同じ種類のレンズを複数登録できないため、たとえば、同じレンズを数本所有しているときに登録したレンズのシリアル番号の末尾2桁などを設定しておく、どのレンズで登録したかを識別できるので便利です。



✓ ライブビュー撮影時のAF微調節について

ライブビュー撮影時にオートフォーカスでピント合わせを行うときは、【AF微調節】で設定した微調節値は適用されません。

✓ 個別レンズの登録について

同じ種類のレンズは複数登録できませんが、テレコンバーターを装着した場合は違うレンズとして個別登録できます。

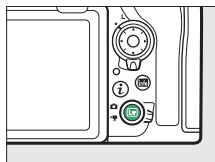
✓ 登録したレンズを削除するには

【個別レンズの登録】で登録したレンズを削除するには、【個別レンズ登録リスト】画面の一覧表示から削除したいレンズを選んで、 FORMAT ボタンを押します。

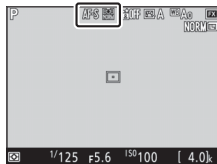
■ AF微調節の自動設定

AF微調節 (□ 163) を自動で行う方法は次の通りです。

1 ライブビューセクターを LIVE に合 わせて L ボタンを押す

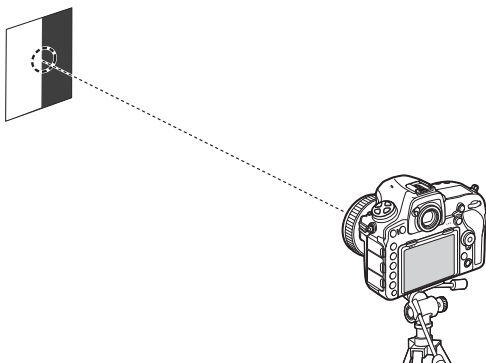
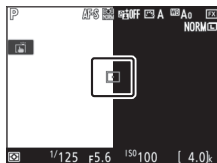


2 AFモードをAF-Sに設定し、AFエリアモードをワイドエリアAF、ノーマルエリアAF、またはピンポイントAFのいずれかに設定する



3 フォーカスポイントの位置を画面中央に設定する

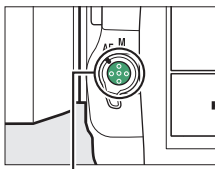
- マルチセレクトターの中央ボタンを押すと、フォーカスポイントが画面中央に移動します。



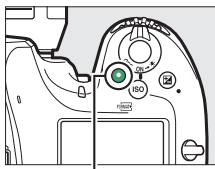
4 シャッターボタンを半押ししてピント合わせを行う

- ピント合わせをするときは、カメラを三脚に固定し、コントラストの高い平面を被写体として選んでください。
- 絞りを開放にすることをおすすめします。
- ピント合わせの後に拡大表示をしてピントが正確に合っているか確認してください。必要に応じてマニュアルフォーカスでお好みのピント位置に調節してください。
- 暗い環境では、ライブビューでのオートフォーカスや、AF微調節の自動設定ができない場合があります。

5 AFモードボタンと動画撮影ボタンを2秒以上同時に押す



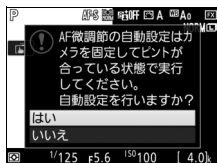
AFモードボタン



動画撮影ボタン

6 [はい] を選んで $\odot$ ボタンを押す

- AF微調節の自動設定が実行され、[個別レンズ登録リスト] に装着しているCPUレンズの微調節値が登録されます。
- 同一モデルのレンズは複数登録できません。

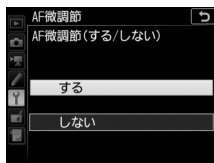


7 セットアップメニュー [AF微調節]

の [AF微調節 (する/しない)] で

[する] を選んで $\odot$ ボタンを押す

- AF微調節が有効になります。



レンズ情報手動設定

MENU ボタン →  セットアップメニュー

非CPUレンズの情報を登録します。非CPUレンズの焦点距離と開放絞り値をカメラに登録することにより、CPUレンズ装着時と同じ機能が一部使えるようになります。

レンズNo.	レンズ情報を登録するレンズNo.を選びます。
焦点距離 (mm)	レンズの焦点距離を選びます。
開放絞り値	レンズの開放絞り値を選びます。

イメージセンサークリーニング

MENU ボタン →  セットアップメニュー

レンズを取り付けるときなどに、撮像素子前面にゴミやほこりが付くと、画像に影が写り込むことがあります。イメージセンサークリーニングを作動させると、撮像素子前面のゴミをふるい落とすことができます。

実行	イメージセンサークリーニングを実行します。
電源スイッチに連動	● 電源ONで実行：電源ONと同時にイメージセンサークリーニングが作動します。 ● 電源 OFF で実行：電源 OFF と同時にイメージセンサークリーニングが作動します。 ● 電源ONとOFFで実行：電源ON、OFFと同時にイメージセンサークリーニングが作動します。 ● 実行しない：電源ON、OFFしてもイメージセンサークリーニングは作動しません。

クリーニングミラーアップ

MENUボタン → Y セットアップメニュー

イメージセンサークリーニングでゴミやほこりを取りきれないときは、**［クリーニングミラーアップ］**を選ぶと、ミラーが上った状態で固定され、撮像素子前面を市販のブロアーでクリーニングできます。ただし、カメラ内部の撮像素子は非常に傷つきやすいため、ニコンサービス機関にクリーニングをお申し付けくださることをおすすめします。

■ 撮像素子前面をブロアーで掃除する

撮像素子前面は次の手順でクリーニングできます。

- 作業中のバッテリー切れを防ぐため、十分に充電されたバッテリー、または別売のパワーコネクタとACアダプターを組み合わせでお使いください。
- Bluetooth を使ってスマートフォンと接続しているとき、USB ケーブルで外部機器と接続しているとき、またはバッテリー残量表示が  以下の場合、このメニュー項目は操作できません。

1 カメラの電源をOFFにしてからレンズを取り外す

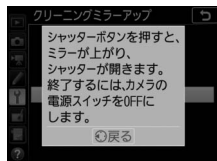
- レンズを取り外したら、カメラの電源をONにしてください。

2 セットアップメニューで**［クリーニングミラーアップ］**を選んでマルチセクターの を押す



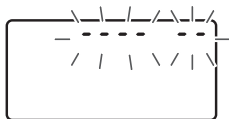
3 OK ボタンを押す

- クリーニングミラーアップの待機状態になります。
- 画像モニター、表示パネル、ファインダー内表示に図のように表示されます。
- 撮像素子のお手入れをやめるには、カメラの電源をOFFにしてください。



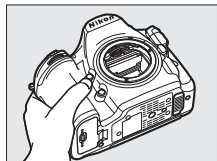
4 シャッターボタンを全押しする

- ミラーが上がり、シャッターが開いた状態になります。
- このとき、表示パネルは点滅表示になります。ファインダー内の表示は消灯します。



5 カメラの内部に光が当たるようにカメラを持ち、ゴミやほこりが付いていないかどうかを点検する

- ゴミやほこりが付いていない場合は、手順7にお進みください。



6 撮像素子前面に付いたゴミやほこりをブローで払う

- ブラシの付いていないブローアーをお使いください。ブラシで撮像素子の表面に傷が付くことがあります。
- ブローアーで取り除けない汚れがある場合は、ニコンサービス機関にクリーニングをお申し付けください。絶対に、手でこすったり、布で拭き取ったりしないでください。



7 カメラの電源をOFFにし、付属のボディーキャップを付ける

- ミラーがダウンしてシャッター幕が閉じます。

✓ 作業中のシャッター幕の破損を防ぐために

カメラのシャッター幕は非常に破損しやすい部品です。シャッター幕はカメラに電源の供給がなくなると、自動的に閉じる構造になっています。作業中に不意にシャッター幕が閉じて破損することを防ぐために、次の点にご注意ください。

- 作業中に電源をOFFにしないでください。
- 作業中にバッテリーやACアダプターを取り外さないでください。
- ミラーアップ中にバッテリー残量が少なくなった場合、電子音が鳴り、セルフタイマーランプが点滅してお知らせします。約2分経過するとシャッター幕が閉じてミラーがダウンするので、直ちに作業を終了してください。

イメージダストオフデータ取得

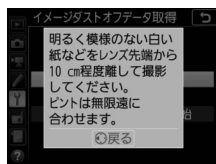
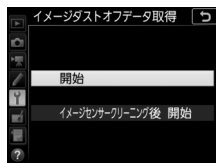
MENUボタン →  セットアップメニュー

NX Studioの「イメージダストオフ機能」を使うためのデータを取得します。イメージダストオフとは、カメラの撮像素子の前面に付いたゴミの写り込みをRAW画像から取り除く機能です。イメージダストオフ機能については、NX Studioのヘルプをご覧ください。

■ イメージダストオフデータ取得の手順

1 イメージダストオフデータの取得方法を選ぶ

- [開始] を選んで  ボタンを押すと、[イメージダストオフデータ取得] 画面が表示されます。
- [イメージセンサークリーニング後 開始] を選んで  ボタンを押すと、すぐにイメージセンサークリーニングを実行します。イメージセンサークリーニングの実行後に、[イメージダストオフデータ取得] 画面が表示されます。
- 表示パネルとファインダー内表示には、**rEF**が表示されます。
- データ取得を取り消したいときは、MENUボタンを押してください。

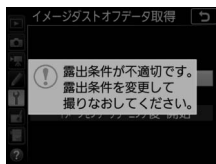


2 レンズ先端から10cm程度離れた、明るく白い無地の被写体を画面いっぱいにとらえ、シャッターボタンを半押しする

- オートフォーカスのときは、カメラが自動的に無限遠にピントを合わせます。
- マニュアルフォーカスのときは、手動で無限遠に合わせてください。

3 シャッターボタンを全押しして撮影する

- シャッターボタンを押すと、画像モニターが消灯します。
- 被写体が明るすぎ、または暗すぎたために、データが取得できなかった場合は、画像モニターにメッセージが表示されて手順1の状態に戻ります。被写体の明るさを変えて、もう一度撮影してください。



✓ イメージセンサークリーニングについてのご注意

イメージセンサークリーニングを実行する前に取得したイメージダストオフデータは、クリーニング実行後に撮影した画像とゴミの位置が一致しなくなるため、NX Studioのイメージダストオフ機能を使用できません。イメージセンサークリーニング機能とイメージダストオフ機能を併用する場合は、**「イメージセンサークリーニング後 開始」**を選択後に撮影することをおすすめします。

✓ イメージダストオフデータ取得についてのご注意

- 非CPUレンズをお使いの場合は、**「イメージダストオフデータ取得」**を選ばません。
- お使いになるCPUレンズは、焦点距離が50mm以上のレンズ（DXレンズを除く）をおすすめします。
- ズームレンズは望遠側にしてください。
- 取得したイメージダストオフデータは、データ取得後にレンズや絞り値を変更して撮影した画像にも適用できます。
- **「サイズM」**または**「サイズS」**で撮影したRAW画像は、NX Studioのイメージダストオフ機能を使用できません。
- イメージダストオフデータは画像処理ソフトウェアなどで開けません。
- イメージダストオフデータをカメラで再生すると、図のように表示されます。



画像コメント

MENUボタン → Y セットアップメニュー

あらかじめコメントを登録しておき、撮影する画像に添付できます。添付されたコメントは、NX Studioの【情報】タブで確認できます。

■ コメント入力

36文字までのコメントを登録できます。【コメント入力】を選んでマルチセクターのⓁを押すと、画像コメントの入力画面が表示されます。入力画面での文字の入力方法については、「入力画面の操作方法について」(P40)をご覧ください。

■ コメント添付

登録したコメントを画像に添付したいときは、【コメント添付】を選んでⓁを押し、チェックボックスをオン☑にします。OK ボタンを押すと、設定が有効になり、その後撮影した画像には全てコメントが添付されます。



画像情報に表示される画像コメントについて

入力・添付された画像コメントは、「撮影情報」の「画像コメント」に表示されます。

撮影した画像に著作権情報を添付することができます。添付された著作権情報は、NX Studioの【情報】タブで確認できます。

■ 撮影者名入力、著作権者名入力

36文字までの撮影者名と、54文字までの著作権者名を登録できます。[撮影者名入力] または [著作権者名入力] を選んでマルチセクターのⓁを押すと名前を入力画面が表示されます。入力画面での文字の入力方法については、「入力画面の操作方法について」(P40) をご覧ください。

■ 著作権情報添付

登録した著作権情報を画像に添付したいときは、[著作権情報添付] を選んでⓁを押し、チェックボックスをオン☑にします。OK ボタンを押すと、設定が有効になり、その後撮影した画像には全て著作権情報が添付されます。



✓ 著作権情報に関するご注意

- カメラを貸したり譲渡したりする場合は、撮影者名や著作権者名の違法な使用を防ぐため、[著作権情報添付] の設定を必ず解除してください。また、撮影者名と著作権者名は空欄にしてください。
- [著作権情報] の使用によって生じたトラブルや損害など、当社は一切責任を負いません。

📌 画像情報に表示される著作権情報について

入力・添付された著作権情報は、「撮影情報」に表示されます。

■ 電子音設定

電子音を鳴るようにしたり、鳴らないようにしたりできます。

- **〔電子音設定〕** を **〔有効〕** に設定すると、次の場合に電子音が鳴ります。
 - セルフタイマー作動中
 - ミラーアップ撮影で2回目にシャッターボタンを全押ししたとき
 - タイムラプス動画撮影終了時
 - オートフォーカスのピントが合ったとき（ただし、AFモードが**AF-C**のとき、およびカスタムメニューa2 **〔AF-Sモード時の優先〕** (□105) が **〔リリース〕** の場合は、電子音は鳴りません）
 - タッチパネルを使用して文字入力をしているとき (□40)
 - 「LOCK」したSDカードをカメラに入れてシャッターをきろうとしたとき
- **〔タッチ音無効〕** を選ぶと、タッチパネル操作時の電子音のみ鳴らないようにできます。
- ライブビュー撮影時に静止画撮影メニュー **〔サイレント撮影（静止画Lv）〕** (□81) が **〔する（モード1）〕** または **〔する（モード2）〕** のとき、動画撮影時、およびリリースモードが**Q**または**Qc**の場合は、**〔電子音〕** の設定にかかわらず、ピントが合ったときの電子音は鳴りません。

■ 音量

電子音の音量を設定できます。

■ 音の高さ

電子音の音の高さを **〔高音〕** と **〔低音〕** から選べます。

📌 電子音設定時の表示について

「電子音設定」が「無効」以外の場合はインフォ画面に♪（電子音あり）マークが表示されます。



タッチ操作

MENUボタン → ⚙️ セットアップメニュー

画像モニターのタッチ操作の機能を設定できます。

■ タッチ操作の設定

タッチ操作の有効または無効を切り換えられます。「再生時のみ有効」を選べると、再生画面でのみタッチ操作ができます。

■ 1コマ送り時のフリック操作

1コマ表示モードで、次の画像を表示するフリック操作を設定できます。

← 左→右	画像モニターの右側から左側にフリックすると、次の画像が表示されます。
→ 左→右	画像モニターの左側から右側にフリックすると、次の画像が表示されます。

HDMI

MENUボタン → ⚙️ セットアップメニュー

HDMI対応機器との接続時の設定を変更できます（📺261）。

位置情報

MENU ボタン →  セットアップメニュー

スマートフォンやGPS機器と接続して、位置情報を取得するときの設定を変更できます。

スマートフォンから取得	[する] を選ぶと、スマートフォンから取得した位置情報を撮影した画像に記録します。 • 位置情報を取得するには、SnapBridge アプリの位置情報機能を有効にしてください。 • カメラの電源がOFF、または半押しタイマーがオフのときは位置情報を取得しません。 • スマートフォンから取得した位置情報は、取得から2時間経過すると消去されます。 • カメラにスマートフォンとGPS機器を接続している場合は、GPS機器からの位置情報が反映されます。
情報表示	スマートフォンまたはGPS機器と接続したときに取得した情報を表示します。 • 表示される項目は、スマートフォンまたは対応する GPS 機器によって異なります。
GPS機器設定	GPS機器接続時の設定を変更できます。 • 半押しタイマー：[有効] を選ぶと、カメラを操作していないとき、カスタムメニュー c2 [半押しタイマー] (□117) で設定された時間で半押しタイマーがオフになります。 - カメラのバッテリーの消耗を少なくすることができます。 - GP-1/GP-1Aとの接続時には、電源をONにした直後または半押しタイマーがオンになった直後は、カメラが位置情報を取得できるまで半押しタイマーがさらに最大1分間延長されます。 - GP-1/GP-1A との接続時には、半押しタイマーがオフになっても、位置情報の測位を一定時間継続します。 • 衛星による日時合わせ：[する] を選ぶと、GPS 機器接続時に取得した日時の情報でカメラの内蔵時計を合わせます。

リモコン (WR) 設定

MENUボタン → Y セットアップメニュー

別売のワイヤレスリモートコントローラーWR-R10を装着している場合に、LEDランプの点灯とリンクモードを設定できます。また、電波制御アドバンストワイヤレスライティングに対応した別売スピードライトとワイヤレス接続する場合にも使用できます。

■ LEDランプの点灯

カメラに装着したワイヤレスリモートコントローラーWR-R10の動作状態を表すLEDランプを点灯させるかどうかを設定できます。LEDランプが表す動作状態については、ワイヤレスリモートコントローラーの使用説明書をご覧ください。

■ リンクモード

他のカメラに装着したワイヤレスリモートコントローラー WR-R10や、電波制御アドバンストワイヤレスライティングに対応したスピードライトと接続する方法を選べます。接続する機器も、必ず同じ設定を選んでください。

ペアリング	カメラに装着したワイヤレスリモートコントローラー WR-R10のペアリングボタンを押して、接続する機器とペアリングを行います。
PINコード	PINコードを入力できます。マルチセクターの④または⑤で桁を選んで、⑧または⑨で数値を変更します。ⓧ ボタンを押すと設定が変更され、画面に設定したPINコードが表示されます。



- ペアリング済みのワイヤレスリモートコントローラーからの電波は、[リンクモード] の設定にかかわらずWR-R10で受信できます。ワイヤレスリモートコントローラー WR-1 をご使用の場合、WR-1 のリンクモードをペアリングモードに設定してください。

ワイヤレスリモートコントローラー WR-R10を使用するには

- カメラに装着するには、WR用変換アダプター WR-A10が必要です。
- WR-R10 のファームウェアを最新版にバージョンアップしてお使いください。
ファームウェアのバージョンアップ方法については、当社のホームページでご確認ください。

リモコン（WR）のFnボタンの機能

MENUボタン →  セットアップメニュー

Fnボタンのある別売のワイヤレスリモートコントローラーで、Fnボタンを押したときの機能を以下の項目から設定できます。各項目についての詳しい説明は、カスタムメニュー f1 [カスタムボタンの機能] (□129) をご覧ください。

 プレビュー	 AF-ON AF-ON
 FV-L	  発光禁止/許可切換
 AE-L/AF-L	 +RAW プラスRAW記録
 AE-L	 (Lv) ライブビュー ※
 AE-L (リリースでリセット)	設定しない
 AF-L	

※ カメラの  ボタンと同じ機能になります。

機内モード

MENUボタン →  セットアップメニュー

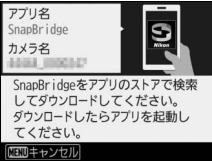
[有効] にすると、Bluetooth、Wi-Fi、およびEye-Fiを使った無線通信をOFFにすることができます。

- 内蔵無線機能、Eye-Fi 以外の無線通信機器との接続を無効にする場合は、カメラから無線通信機器を取り外してください。

スマートフォンと接続

MENUボタン → Y セットアップメニュー

カメラとスマートフォンを接続するときの設定を行います。

開始	カメラとスマートフォンを接続するためのガイドを表示します。	
パスワードによる保護	カメラとスマートフォンを接続するとき、任意のパスワードの設定およびパスワードによる保護の有効/無効の設定ができます。入力画面での文字の入力方法については、「入力画面の操作方法について」(□40)をご覧ください。	

セキュリティーについて

本製品は電波を利用して情報を交換するため、電波の届く範囲で自由に無線接続が可能であるという利点がありますが、セキュリティに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

- 情報の漏洩：悪意ある第三者が電波を故意に傍受し、IDやパスワードなどの個人情報漏洩する可能性があります。
- 不正アクセス：悪意ある第三者が無断でネットワークにアクセスして、なりすまし、情報の改ざんなどの行為を行う可能性があります。また、本製品にセキュリティを設定したにもかかわらず、無線LANの仕様上、特殊な方法によりセキュリティが破られることもありますので、ご理解の上ご使用ください。

スマートフォンへの自動送信

MENUボタン →  セットアップメニュー

[する] にすると、撮影するたびに画像をスマートフォンへ自動送信します。カメラとスマートフォンを無線接続していないときに撮影した画像は、送信予約され、接続したときに送信されます。送信指定した画像は、2Mサイズで送信されます。動画は自動送信されません。

画像の送信予約について

- 静止画撮影メニューの[副スロットの機能] (□41) が [バックアップ記録] の場合、副スロットに記録する画像は送信されません。
- 1000件の送信予約が可能です。
- 送信予約した画像があるときに [しない] に設定を変更すると、送信予約を解除する確認画面が表示されます。[はい] を選んで  ボタンを押すと、全ての送信予約を解除します。
- 送信予約した画像のレーティング設定を変更する場合は、[Bluetooth] の [通信機能] を [無効] にするか [機内モード] を [有効] にして無線通信機能をOFFにしてください。

Wi-Fi

MENUボタン →  セットアップメニュー

Wi-Fi（無線LAN）に関する設定を行います。

Wi-Fi接続を開始	Wi-Fi接続を開始します。
接続設定	Wi-Fi接続に関する設定を行います。
現在の設定	現在のWi-Fi接続の設定内容を表示します。
接続設定の初期化	Wi-Fiの接続設定を初期化します。

Bluetooth

MENUボタン →  セットアップメニュー

カメラとスマートフォンを接続するときの設定、およびペアリング済み機器の表示を行います。

- スマートフォンとのペアリングは最大5台まで可能です。ただし、接続できるのは1台のみです。

通信機能	無線通信機能の有効/無効を設定します。
ペアリング済み機器	ペアリングしたスマートフォンを一覧表示します。
電源OFF中の通信	カメラの電源がOFFのときや半押しタイマーがオフのときに、カメラとスマートフォンの無線通信を行うかどうかを設定します。

ネットワーク

MENUボタン →  セットアップメニュー

別売のワイヤレストランスミッター WT-7を接続して、無線LANまたは有線LANでパソコンやFTPサーバーと通信する場合の設定を行います (□253)。

Eye-Fi送信機能

MENUボタン →  セットアップメニュー

このメニューは、市販のEye-Fiカードをカメラに挿入したときのみ、表示されます。Eye-Fi送信機能を使用するときは、あらかじめ**Bluetooth**の**通信機能**、および**機内モード**（□179）を**無効**に設定してください。

有効	カメラで作成した画像を、あらかじめ設定した保存先へ送信します。
無効	Eye-Fi送信機能を使用しません。

- 電波の状態が悪い場合、**有効**に設定していても送信できないことがあります。
- 電波の出力が禁止されている場所では、設定を**無効**にしてください。

✓ Eye-Fi送信機能が無効のときのご注意

無効に設定しているときでも、電波が出力される場合があります。**無効**に設定していても  が表示されるときは、カメラがEye-Fiカードをコントロールできていません。カメラの電源をOFFにしてEye-Fiカードを取り出してください。

✓ 機内モード使用後にEye-Fi送信機能を使うときのご注意

機内モード（□179）を**有効**にすると、**Eye-Fi送信機能**は**無効**に切り替わります。無線通信を再開したときに、Eye-Fi送信機能を使うには、**Eye-Fi送信機能**を再度**有効**にしてください。

Eye-Fiカード使用時の表示について

カメラ内のEye-Fiカードの通信状態は、インフォ画面のEye-Fi通信マークで確認できます。

- ：[Eye-Fi 送信機能] が[無効] に設定されています。
- （点灯）：画像の送信を待っています。
- （点滅）：画像の送信中です。
- ：未送信の画像がありません。
- ：エラーが発生しました。Eye-Fiカードをコントロールできません。
 - 表示パネルの記録可能コマ数表示部で **[Red]** が点滅している場合、ファインダー内表示の記録可能コマ数表示部で **[d]** が点滅している場合は、Eye-Fiカードのファームウェアが最新版になっているか確認してください。ファームウェアが最新版でもエラーが発生する場合は、新しいEye-Fiカードに交換するか、必要な画像をパソコンなどに転送してバックアップした後、カメラでEye-Fiカードをフォーマットしてからご使用ください。
 - **[Red]** および **[d]** が点滅していない場合は、続けて撮影できます。ただし、Eye-Fi送信機能の設定を変更できないことがあります。



Eye-Fiカードを使用するときのご注意

- Eye-Fiカードの使用方法はEye-Fiカードの使用説明書をご覧ください。Eye-Fiカードに関する不具合は、カードメーカーにお問い合わせください。
- このカメラには Eye-Fi カードの通信機能を ON/OFF する機能がありますが、Eye-Fiカードの全ての機能を保障するものではありません。
- Eye-Fi カードは、ご購入された国でのみ使用が認められています。使用する国の法律に従ってお使いください。
- Eye-Fi カードを使う場合は、カスタムメニュー c2 [半押しタイマー] を長めに設定してください。
- Eye-Fiカードの販売の有無は地域によって異なりますので、カードメーカーにお問い合わせください。
- Eye-Fiカードのファームウェアを最新版にバージョンアップしてお使いください。

認証マークの表示

MENUボタン →  セットアップメニュー

このカメラが取得している認証マークの一部を表示します。

MB-D18電池設定

MENUボタン →  セットアップメニュー

別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D18に単3形電池を入れて使用するとき、カメラが電池残量をより正確に表示できるように、電池の種類を指定してください。

MB-D18で使える市販の単3形電池は、アルカリ電池、ニッケル水素充電電池、リチウム電池です。次の表に合わせて正しく設定してください。

- 電池設定を正しく設定していない場合、カメラが正常に作動しないおそれがあります。

	対応する電池
 LR6 アルカリ単3形電池	アルカリ単3形電池
 Ni-MH Ni-MH単3形充電電池	ニッケル水素単3形充電電池
 FR6 リチウム単3形電池	リチウム単3形電池

単3形電池の使用について

別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D18に単3形電池（アルカリ電池、ニッケル水素充電電池、リチウム電池）を電源として使用するときは、次のことにご注意ください。

- アルカリ電池を電源として使用した場合、他の電源を使用した場合と比較して撮影できるコマ数が極端に減少します。通常の撮影では他の電源を使用し、アルカリ電池は緊急用として使用してください。また、低温時は使用しないでください。
- 電池のメーカーや銘柄によっては、撮影できるコマ数が少なかったり、使用できない場合があります。
- 周囲の温度が20℃よりも低い環境では、撮影できるコマ数が極端に減少する場合があります。
- 電池の使用推奨期間内であっても、保管状態によっては撮影できるコマ数が減少したり、使用できない場合があります。
- 単3形電池を使っているときは、表示パネルとファインダー内の電池残量表示は次のようになります。

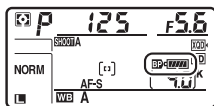
表示パネル	ファインダー	意味
	表示なし	バッテリーは充分に残っています。
		バッテリーが残り少なくなりました。バッテリー交換の準備をしてください。
 （点滅）	 （点滅）	撮影できません。バッテリーを交換してください。

電池の使用順序

MENUボタン →  セットアップメニュー

別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D18装着時に、MB-D18に入っている電池から使用するか、カメラに入っているバッテリーから使用するかを設定します。

- MB-D18側のバッテリーを使用しているときのみ、表示パネルにアイコンが表示されます。
- 別売のパワーコネクタとACアダプターをMB-D18に接続している場合は、セットアップメニュー「電池の使用順序」の設定にかかわらず、常にACアダプターを使用します。



電池チェック

MENUボタン →  セットアップメニュー

カメラに装着中のバッテリーの情報を表示します。



残容量	バッテリーの残量を1%単位で表示します。
撮影回数	充電後にシャッターをきった回数を表示します。
キャリブレーション	別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D18装着時に、Li-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL18cが入っている場合に、キャリブレーションの必要性の有無を表示します。キャリブレーションはバッテリー容量をより正確に測定するための機能で、充放電をある程度繰り返すと【●CAL】が表示されます。 ●【●CAL】が表示されているときは、キャリブレーションすることをおすすめします。 ●【-】が表示されているときは、キャリブレーションの必要はありません。
劣化度	バッテリーの劣化度合いが5段階のバーグラフで表示されます。 ●バーグラフが「0」(NEW)のときは、バッテリーは劣化していません。 ●バーグラフが「4」(🔋)のときは、バッテリーの寿命です。新しいバッテリーと交換してください。

撮影回数について

【撮影回数】に表示される回数は、シャッターをきった回数です。ホワイトバランスのプリセットマニュアルデータ取得など、実際に画像がメモリーカードに記録されない場合でも、シャッターをきるごとに1ずつ加算されます。

低温で充電した場合の劣化度表示について

一般的な電池特性として、周囲の温度が下がるにつれ、バッテリーに充電できる容量は少なくなります。新品のバッテリーでも、約5℃以下の低温で充電した場合、【電池チェック】で劣化度が「1」と表示されることがありますが、約20℃以上で再充電すると劣化度の表示は「0」に戻ります。

マルチパワーバッテリーパックMB-D18装着時の表示について

別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D18を装着している場合、MB-D18に入れたバッテリーがLi-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL15aのときは、カメラに装着したバッテリーと同様に表示されます。バッテリーがEN-EL18cの場合、キャリブレーション情報が追加され、キャリブレーションの必要性の有無を表示します。単3形電池を使用している場合は、残容量にバッテリー残量表示のアイコンが表示され、その他の項目は表示されません。



カードなし時リリース

MENUボタン →  セットアップメニュー

カメラにメモリーカードを入れていないときのリリース操作を設定できます。

LOCK リリース禁止	メモリーカードを入れていないときは、シャッターはきれません。
OK リリース許可	メモリーカードを入れていないときでも、シャッターがきれれます。再生時には「デモモード」と表示され、画像は記録できません。

カメラ設定の保存と読み込み

MENUボタン →  セットアップメニュー

カメラの各機能の設定データをメモリーカードに保存できます。また、メモリーカードに保存されている設定データをカメラで読み込むこともできるので、複数のD850を同じ設定で使う場合などに便利です。

- メモリーカードを2枚使用している場合、静止画撮影メニューの[主スロットの選択] (□41) で選んだ主スロットのカードが対象になります。

設定を保存、読み込みできる機能は次の通りです。

再生メニュー	再生画面設定
	撮影直後の画像確認
	削除後の次再生画像
	縦横位置情報の記録
	縦位置自動回転
静止画撮影メニュー (A～D全メニュー)	ファイル名設定
	フラッシュ発光
	撮像範囲
	画質モード
	画像サイズ
	RAW記録
	ISO感度設定
	ホワイトバランス (微調整値、プリセットマニュアルデータ)
	ピクチャーコントロール (登録されたカスタムピクチャーコントロールは[オート]で保存します)
	色空間
	アクティブD-ライティング
	長秒時ノイズ低減
	高感度ノイズ低減
	ヴェネットコントロール
	自動ゆがみ補正
	フリッカー低減
	オートブラケティングのセット

動画撮影メニュー	ファイル名設定
	撮像範囲
	画像サイズ/フレームレート
	動画の画質
	動画記録ファイル形式
	ISO感度設定
	ホワイトバランス（微調整値、プリセットマニュアルデータ）
	ピクチャーコントロール（登録されたカスタムピクチャーコントロールは【オート】で保存します）
	アクティブD-ライティング
	高感度ノイズ低減
	フリッカー低減
	マイク感度
	アッテネーター
	録音帯域
	風切り音低減
カスタムメニュー (A~D全メニュー)	電子手ブレ補正
	全メニュー
セットアップ メニュー	言語（Language）
	地域と日時（【日時の設定】、【スマートフォンと同期】を除く）
	インフォ画面の表示設定
	レンズ情報手動設定
	イメージセンサークリーニング
	画像コメント
	著作権情報
	電子音
	タッチ操作
	HDMI
	位置情報（【スマートフォンから取得】を除く）
	リモコン（WR）設定
	リモコン（WR）のFnボタンの機能
	Eye-Fi送信機能
	カードなし時リリース

マイメニュー / 最近設定した項目	マイメニューに登録したメニュー項目
	最近設定したメニュー項目
	このタブの機能変更

■■ 保存

カメラの設定データをメモリーカードに保存します。メモリーカードに空き容量がない場合は、エラーメッセージが表示され、設定データは保存されません。保存された設定データは他機種のカメラとの互換性はありません。

■■ 読み込み

メモリーカードからカメラの設定データを読み込みます。メモリーカードが装着されていないときや、メモリーカードに設定データが記録されていないときは、**[読み込み]**は選べません。

✓ 設定データについてのご注意

メモリーカードに保存したカメラの設定データのファイル名は「NCSETUP**」です。「**」に入る文字はカメラの機種によって異なります。ファイル名を変更すると、設定データを読み込めなくなるためご注意ください。

カメラの初期化

MENUボタン →  セットアップメニュー

セットアップメニュー **[言語 (Language)]** と **[地域と日時]** を除く、全ての設定をリセットして初期設定 (□10) に戻します。著作権情報などの撮影者が入力したデータも初期化されます。初期化した設定は元には戻せないのをご注意ください。

- あらかじめセットアップメニュー **[カメラ設定の保存と読み込み]** (□189) で設定データを保存しておくことをおすすめします。

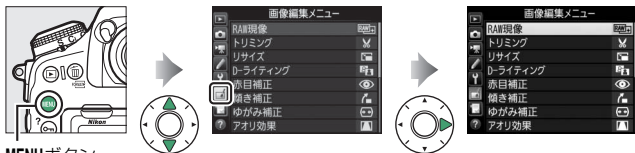
ファームウェアバージョン

MENUボタン →  セットアップメニュー

カメラを制御する「ファームウェア」のバージョンを表示します。

画像編集メニュー： 撮影した画像に行う編集機能

MENU ボタンを押して、タブの  アイコンを選ぶと、画像編集メニューが表示されます。



画像編集メニューでは、メモリーカード内の撮影済み画像を編集することができます。編集された画像は、元の画像とは別に、新しい画像としてメモリーカードに記録されます。画像編集メニューの項目は次の通りです。

- カメラにメモリーカードが入っていない場合やメモリーカードに画像が記録されていない場合は、画像編集メニューはグレーで表示されて選択できません。

メニュー項目		メニュー項目	
 RAW現像	195	 アオリ効果	206
 トリミング	199	 フィルター効果	206
 リサイズ	200	 モノトーン	207
 D-ライティング	203	 画像合成※1	208
 赤目補正	204	 動画編集（始点/終点設定）	212
 傾き補正	204	 編集前後の画像表示※2	212
 ゆがみ補正	205		

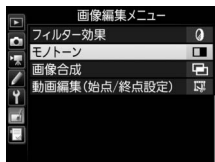
※1 MENU ボタンを押して、タブの  アイコンを選んだときのみ表示されます。

※2 編集前または編集後の画像を1コマ表示して、 ボタンを押しながら  を押すか、 ボタンを押して「画像編集」を選んだときのみ表示されます。

画像編集の操作方法

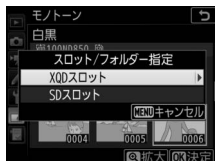
1 画像編集メニューでメニュー項目を選ぶ

- マルチセクターの $\odot$ または $\ominus$ でメニュー項目を選び、 $\rightarrow$ を押します。



2 画像を選ぶ

- マルチセクターで画像を選びます。
- $\odot$ ボタンを押している間、選んだ画像を拡大表示します。
- $\odot$ (⚡) ボタンを押すと、[スロット/フォルダー指定] 画面が表示され、スロットやフォルダーを切り換えられます。



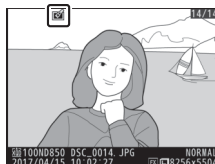
- 画像を選んで $\odot$ ボタンを押すと、編集画面が表示されます。

3 画像を編集する

- 画像の編集方法については、各項目の説明をご覧ください。
- 画像編集を途中でやめるには、**MENU** ボタンを押してください。画像編集メニューに戻ります。

4 編集した画像を記録する

- $\odot$ ボタンを押すと、編集した画像を記録します。
- 画像編集した画像には $\square$ が付きます。



選んだ画像を編集する

編集したい画像を再生し、 ボタンを押しながら  を押すか、 ボタンを押して [画像編集] を選べると、画像編集メニューが表示され、選んだ画像を編集できます。

画像編集についてのご注意

- このカメラ以外で撮影または編集した画像やパソコンで編集した画像は、このカメラでは再生または編集できないことがあります。
- 画像編集中に何も操作しないまましばらくすると、画像モニターが消灯し、編集中の画像は保存されません。カスタムメニュー c4 [モニターのパワーオフ時間] (□□118) の [メニュー表示] の時間を長く設定することをおすすめします。

繰り返し画像編集する場合のご注意

- 画像編集によって作成した画像に、さらに画像編集を行うこともできますが、画像が粗くなったり、褪色したりする場合があります。
- 同じ画像編集を繰り返し行うことはできません ([画像合成]、[動画編集 (始点/終点設定)] を除く)。
- 画像編集の組み合わせによっては繰り返し編集できないものもあります。
- 選択中の画像に使用できない画像編集項目は、画像編集メニューでグレーで表示されて選べません。

画質モードについて

- 元画像がTIFF (RGB) またはRAWを含む画質モードで撮影された画像の場合、[画質モード] (□□47) が [FINE★] のJPEG画像になります。
- 元画像がJPEGの場合は、元画像と同じ画質モードになります。
- RAW画像とJPEG画像を1枚のメモリーカードに同時に記録した場合は、RAW画像が画像編集の対象になります。

画像サイズについて

画像編集した画像は、元画像と同じ画像サイズで記録されます ([トリミング] と [リサイズ] を除く)。

RAW現像（パソコンを使わずにRAW画像をJPEG画像に変換する）

MENUボタン →  画像編集メニュー

RAWを含む画質モードで記録したRAW画像を、カメラでRAW現像してJPEG画像を作成できます。**MENU**ボタンを押して画像編集メニューを選んだ場合、複数の画像を一度にRAW現像できます。

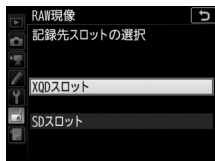
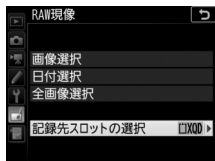
1 画像編集メニュー画面で〔RAW現像〕を選ぶ

- [RAW現像] を選んでマルチセクターの  を押します。



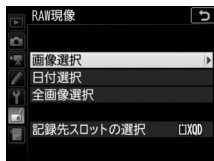
2 記録先のスロットを選ぶ

- メモリーカードを2枚使用している場合は、[記録先スロットの選択] を選んで  を押します。
- メモリーカードが1枚しか入っていない場合は、[記録先スロットの選択] を選べません。手順3に進んでください。
-  または  でスロットを選び、 ボタンを押します。



3 画像の選択方法を選ぶ

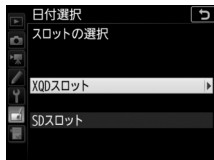
画像選択	選んだRAW画像をRAW現像します。複数のRAW画像を選んで一括でRAW現像することもできます。
日付選択	選択した日付に撮影したRAW画像を一括でRAW現像します。
全画像選択	メモリーカード内の全てのRAW画像を一括でRAW現像します。



- [画像選択] を選んだ場合は手順5にお進みください。

4 スロットを選択する

- RAW現像したい画像が記録されているスロットを選んで $\odot$ を押します。
- 手順3で [全画像選択] を選んだ場合は、スロット選択後に手順6へお進みください。
- メモリーカードが1枚しか入っていない場合はスロットを選べません。



5 RAW現像する画像を選ぶ

【画像選択】を選んだ場合：

- マルチセクターでRAW現像する画像を選びます。
-  ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。
- **中央**ボタンを押して設定します。設定すると✓が表示されます。もう一度**中央**ボタンを押すと、✓が消えます。選んだ全てのRAW画像を同じ設定でRAW現像します。
-  ボタンを押して決定します。



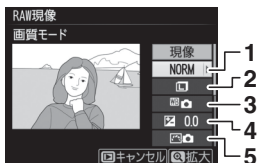
【日付選択】を選んだ場合：

- 日付を選んでを押すと、右側のチェックボックスがオン☒になります。もう一度を押すと、チェックボックスがオフ☐になります。
- チェックボックスがオン☒になった日付の全てのRAW画像を同じ設定でRAW現像します。
-  ボタンを押して決定します。



6 表示されている項目をそれぞれ設定する

- プレビュー画像の下には、撮影時の設定が表示されています。
- 各項目で「撮影時設定」を選ぶと、それぞれのRAW画像の撮影時の設定を反映してRAW現像します。



1	画質モード.....	47
2	画像サイズ.....	48
3	ホワイトバランス.....	51
4	露出補正.....	
5	ピクチャーコントロール.....	52

6	高感度ノイズ低減.....	57
7	色空間.....	56
8	ヴィネットコントロール.....	58
9	アクティブD-ライティング.....	56

7 RAW現像する

- 「現像」を選んでⓧボタンを押すと、JPEG画像を保存します。
- 複数の画像を一度に処理する場合、「現像」を選んでⓧボタンを押し、確認画面で「はい」を選んでⓧボタンを押すと、JPEG画像を保存します。
- キャンセルして画像編集メニューに戻るときは、MENUボタンを押してください。



✓ RAW現像についてのご注意

- RAW現像できる画像は、このカメラで撮影したRAW画像だけです。機種の異なるカメラで撮影したRAW画像やRAW以外の画質モードで撮影した画像は選べません。
- 多重露出撮影した画像や「画像合成」で編集した画像の場合、「ホワイトバランス」と「ヴィネットコントロール」は選べません。
- 「露出補正」で設定できる明るさ（-2～+2）は、通常の露出補正の段数とは異なります。

トリミング

MENUボタン →  画像編集メニュー

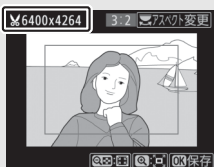
画像の必要な部分だけを切り抜きます。

編集画面では、トリミング範囲の黄色い枠が表示され、次の操作ができます。

切り抜く範囲を狭くする	 ボタンを押すごとにトリミングで切り抜かれる範囲が狭くなります。
切り抜く範囲を広くする	 ボタンを押すごとにトリミングで切り抜かれる範囲が広がります。
画像のアスペクト比 (縦横比)を変更する	メインコマンドダイヤルを回すと、アスペクト比を変更できます。
切り抜く範囲を移動する	マルチセクターを押してトリミングで切り抜く範囲を移動します。マルチセクターを押し続けると、高速で移動します。
画像のプレビューを見る	中央ボタンを押すと、トリミングした画像のイメージを見ることができます。
トリミングを実行して 画像を保存する	 ボタンを押すと、トリミングした画像が記録されます。

✓ トリミング画像についてのご注意

- トリミング画像は、拡大表示できないことがあります。
- トリミング画像の画質モード (□47) は、元画像の画質モードがRAWを含む画質モードやTIFFのときは【FINE★】になり、JPEGのときは元画像と同じ画質モードになります。
- トリミング画像の画像サイズは編集画面の左上に表示されます。画像サイズは、トリミングする範囲とアスペクト比 (横 : 縦) により変わります。



リサイズ

MENUボタン →  画像編集メニュー

サイズの小さい画像を作成します。メモリーカードを2枚使用している場合は、記録先のスロットも指定できます。

■ 複数の画像を選んでリサイズ画像を作成する

MENUボタンを押して画像編集メニューを選んだ場合、複数の画像のリサイズ画像を一度に作成できます。

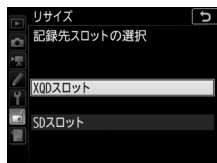
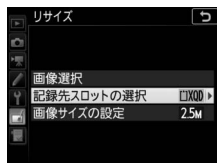
1 画像編集メニュー画面で「リサイズ」を選ぶ

- 「リサイズ」を選んでマルチセクターの  を押します。



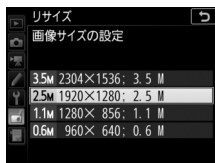
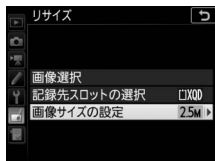
2 記録先のスロットを選ぶ

- メモリーカードを2枚使用している場合は、「記録先スロットの選択」を選んで  を押します。
- メモリーカードが1枚しか入っていない場合は、「記録先スロットの選択」を選ばません。手順3に進んでください。
-  または  でスロットを選び、 ボタンを押します。



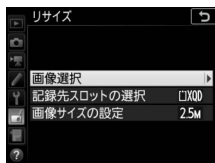
3 画像サイズを設定する

- [画像サイズの設定] を選んで  を押します。
-  または  で画像サイズを選び、 ボタンを押します。



4 [画像選択] を選ぶ

- [画像選択] を選んで  を押すと、画像の選択画面が表示されます。



5 リサイズしたい画像を選ぶ

- マルチセクターでリサイズしたい画像を選びます。
-  ボタンを押している間、選んだ画像を拡大表示します。
-  ボタンを押すと、[スロット/フォルダー指定] 画面が表示され、スロットやフォルダーを切り換えられます。



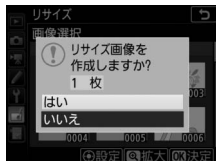
6 設定する

- マルチセクターの**中央**ボタンを押して設定します。設定するとが表示されます。もう一度**中央**ボタンを押すと、が消えます。
- リサイズする画像全てに設定したら、**OK**ボタンを押します。



7 リサイズ画像を作成する

- 確認画面で**【はい】**を選んで**OK**ボタンを押すと、リサイズ画像が保存されます。



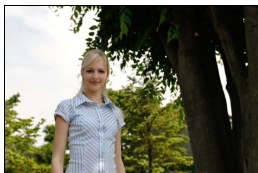
✓ リサイズ画像についてのご注意

- リサイズ画像は、拡大表示できないことがあります。
- リサイズ画像の画質モード（□47）は、元画像の画質モードがRAWを含む画質モードやTIFFのときは**【FINE★】**になり、JPEGのときは元画像と同じ画質モードになります。
- 静止画撮影メニュー**【撮像範囲】**の**【撮像範囲設定】**（□46）を**【5:4 (30×24)】**または**【1:1 (24×24)】**にして撮影した画像は、リサイズできません。

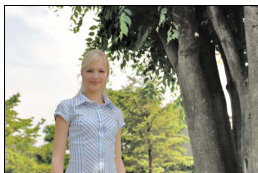
D-ライティング

MENUボタン →  画像編集メニュー

D-ライティングでは、画像の暗い部分を明るく補正できます。逆光で撮影したために顔の部分だけが暗くなった画像や、フラッシュの光量不足で暗くなった画像などに効果的です。



D-ライティング前



D-ライティング後

編集画面では、D-ライティング効果の適用前と適用後のプレビュー画像を表示します。

- マルチセレクトの  または  を押すと、効果の度合いを選べます。効果の度合いは、設定画面のプレビュー画像で確認できます。
- **OK** ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。



赤目補正

MENUボタン →  画像編集メニュー

フラッシュ撮影時の「赤目現象」によって人物の瞳の部分が赤くなってしまった画像を、補正できます。

- フラッシュを発光しないで撮影した画像は選べません。
- カメラが赤目現象を検出できない画像は補正されません。
- **OK** ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。

赤目補正についてのご注意

赤目補正を行う場合は、次のことにご注意ください。

- 画像によっては、望ましい結果が得られないことがあります。
- ごくまれに赤目以外の部分が補正されることがあります。

赤目補正を行う場合は、画像を保存する前に、プレビュー画像で効果をよく確認してください。

傾き補正

MENUボタン →  画像編集メニュー

画像の傾きを $\pm 5^\circ$ の範囲（約 0.25° ステップ）で補正できます。

- 編集画面では、プレビュー画像を表示します。
- 補正する傾きが大きくなるほど、画像周辺部は切り取られます。
- マルチセレクトの  または  を押すと、傾きを補正できます。
- **OK** ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。



ゆがみ補正

MENUボタン →  画像編集メニュー

広角レンズ使用時のたる型のゆがみや、望遠レンズ使用時の糸巻き型のゆがみを補正できます。[オート] を選ぶと画像のゆがみを自動的に判別して補正しますが、好みに応じて微調整することもできます。[マニュアル] を選ぶと自分でゆがみを補正できます。



- 編集画面では、プレビュー画像を表示します。
- [オート] は、Gタイプ、Eタイプ、Dタイプレンズで撮影した画像のみ機能します。ただし、PCレンズ、フィッシュアイレンズ、その他一部のレンズで撮影した画像には機能しません。また、対応レンズ以外で撮影した画像については、動作を保証しません。
- [自動ゆがみ補正] (□59) を行った画像の場合、[マニュアル] のみ選べます。
- マルチセクターの④を押すと糸巻き型のゆがみを、⑤を押すとたる型のゆがみを補正できます。
-  ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。

ゆがみ補正についてのご注意

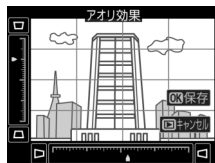
- 補正するゆがみが大きくなるほど、画像周辺部は切り取られます。
- DXレンズを装着し、撮像範囲を [DX (24×16)] 以外に設定して撮影した画像の場合、画像周辺部が大きく切り取られたり、DXフォーマットの外側の部分が特に強く補正されることがあります。

アオリ効果

MENUボタン →  画像編集メニュー

高層ビルを見上げて撮影したときなどに生じる、遠近感による被写体のゆがみを補正します。

- 編集画面では、プレビュー画像を表示します。
- アオリ効果が大きくなるほど、画像周辺部は切り取られます。
- マルチセクターの     でアオリの効果を調節できます。
-  ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。



アオリ効果処理前



アオリ効果処理後

フィルター効果

MENUボタン →  画像編集メニュー

画像全体の色調を演出できます。

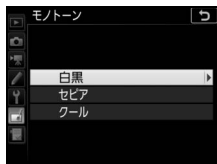
スカイライト	スカイライトフィルターのように、画像の青みを抑える効果があります。 • 編集画面では、プレビュー画像を表示します。 •  ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。
ウォームトーン	画像を暖色にする効果があります。 • 編集画面では、プレビュー画像を表示します。 •  ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。

モノトーン

MENUボタン →  画像編集メニュー

モノトーンの画像(1種類の色の明暗のみで構成される画像)を作成します。

[モノトーン] を選ぶと色調を選ぶことができます。



白黒	モノクロになります。
セピア	セピア色(褐色)のモノトーンになります。
クール	ブルー系のモノトーンになります。

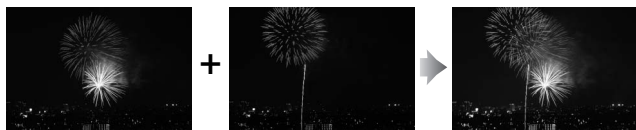
- 編集画面では、プレビュー画像を表示します。
- [セピア] または [クール] を選んだ場合は、マルチセクターで色の濃さを調整できます。 を押すと色が濃くなり、 を押すと色が薄くなります。調整した色の濃さはプレビュー画像に反映されます。
-  ボタンを押すと、編集した画像が記録されます。



画像合成

MENUボタン →  画像編集メニュー

メモリーカードに記録されているRAW画像2コマを重ね合わせて1コマの画像に合成できます。RAWデータを使用して合成するため、通常のアプリケーションソフトウェアなどで画像を合成する場合と比べ、階調特性に優れた画像になります。



1 画像編集メニュー画面で「画像合成」を選ぶ

- 「画像合成」を選んでマルチセクターの  を押すと、画像編集画面が表示され、「画像1」欄がハイライト表示されます。



2 合成する画像の1コマ目を選ぶ

-  ボタンを押すと表示されるRAW画像のサムネール一覧から、1コマ目の画像を選びます。
-  ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。
-  () ボタンを押すと、「スロット/フォルダー指定」画面が表示され、スロットやフォルダーを切り換えられます。



3 1コマ目の画像を決定する

- OKボタンを押すと、選んだ画像が1コマ目に設定され、[画像1] 欄にプレビューが表示されます。



4 2コマ目の画像を選ぶ

- を押して[画像2] を選び、手順2～3と同じ手順で2コマ目の画像を選びます。



5 ゲインを調節する

- プレビュー欄に[画像1] と[画像2] を合成した画像が表示されます。プレビュー欄で確認しながら、合成画像の明るさが適正になるように、[画像1] または[画像2] を選んでから●または●を押してゲイン（出力）を設定します。
- ゲインは0.1～2.0の範囲で、0.1ステップで設定できます。
- 各数値は初期設定の1.0（補正なし）を基準にした比率です。たとえば0.5にするとゲインは約半分になります。



6 プレビュー欄に移動する

-  または  を押して、プレビュー欄に移動します。
- 合成画像を確認せずに画像を保存したときは、[保存] を選んで  ボタンを押してください。



7 合成画像を確認する

- [合成] を選び、 ボタンを押すと、合成画像の確認画面が表示されます。
- 設定をやり直したいときは、 (⚡) ボタンを押してください。手順5の画面に戻ります。



8 合成画像を保存する

- もう一度  ボタンを押すと、合成画像が保存され、合成画像が表示されます。



✓ 画像合成についてのご注意

- プレビュー画像と実際の合成画像では、色や明るさなどの見え方が異なることがあります。
- 合成できる画像は、このカメラで撮影した静止画撮影メニュー **〔画像サイズ〕** の **〔RAW〕** が **〔サイズL〕** のRAW画像だけです。機種種の異なるカメラやRAW以外の画質モードで撮影した画像は選べません。
- 合成画像の画質モード (□47) と画像サイズ (□48) は、合成時のカメラの設定と同じになります (ただし **〔画像サイズ〕** の **〔RAW〕** が **〔サイズM〕** または **〔サイズS〕** の場合は、**〔サイズL〕** として合成されます)。画像合成をする前に、これらの設定を確認してください。合成した画像をさらに別のRAW画像と合成したいときは、画質モードをRAW、画像サイズを **〔サイズL〕** に設定してください。
- 次の項目の設定が同じRAW画像のみ合成できます。
 - **〔撮像範囲〕** の **〔撮像範囲設定〕**
 - **〔画像サイズ〕**
 - **〔RAW記録〕** の **〔記録ビットモード〕**
- 合成時にRAWを含む画質モードが選ばれている場合、元画像と同じ記録ビットモードになります。また、RAW圧縮は合成時のカメラの設定になります。
- 合成画像のホワイトバランス、ピクチャーコントロール、撮影データ (撮影日時、測光モード、シャッタースピード、絞り値、露出モード、露出補正值、焦点距離、縦横位置情報など) は、**〔画像1〕** で選んだ画像の内容を引き継ぎます。ただし、著作権情報は引き継ぎません。また、合成された画像には、画像合成時にカメラに設定されている画像コメントが添付されます。

動画編集（始点/終点設定）

MENUボタン →  画像編集メニュー

撮影した動画の前半、後半、または前後両端を切り取って、選択した範囲だけを残すことができます。

編集前後の画像表示

画像編集を行った画像を、元画像と並べて表示して、画像編集の効果を確認できます。このメニュー項目は、編集元または編集後の画像を1コマ表示して $\odot$ ボタンを押しながら $\triangleright$ を押すか、 i ボタンを押して「画像編集」を選んだときのみ表示されます。

■ 編集前後の画像表示方法

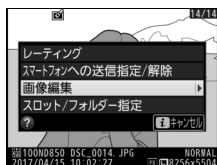
1 1コマ表示モードで画像を選ぶ

- 画像編集で作成した画像（が表示されている画像）または画像編集の元画像を選びます。



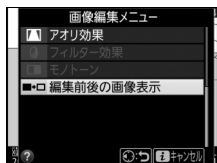
2 「画像編集」を選ぶ

- $\odot$ ボタンを押しながら $\triangleright$ を押すか、 i ボタンを押し、「画像編集」を選んで $\odot$ ボタンを押します。



3 「編集前後の画像表示」を選ぶ

- 「編集前後の画像表示」を選んで $\odot$ ボタンを押すと、「編集前後の画像表示」画面を表示します。



4 編集前と編集後の画像を比較する

画像編集の内容

- 編集前の画像を左側、編集後の画像を右側に表示します。
- 画像編集の内容は、2つの画像の上に表示されます。
- マルチセレクトの $\odot$ または $\odot$ で、編集前/編集後の画像を切り換えられます。
- 画像合成の元画像の場合、 $\odot$ または $\odot$ で2枚の元画像を切り換えられます。
- 1枚の元画像から複数の画像編集を行った場合、 $\odot$ または $\odot$ で編集後の画像を切り換えられます。
- $\times$ ボタンを押している間、選択中の画像を拡大表示します。
- $\odot$ ボタンを押すと、黄色の枠で選択中の画像を表示します。
- $\square$ ボタンを押すと、再生画面に戻ります。



編集前
の画像

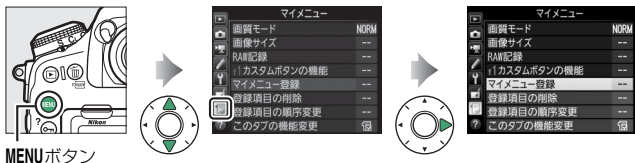
編集後
の画像

✓ 編集前後の画像表示についてのご注意

- プロテクトされている画像を編集した場合は、編集前の画像は表示されません。
- 編集元の画像を削除した場合や非表示設定（□22）にした場合、編集前の画像は表示されません。

📄 マイメニュー / 📄 最近設定した項目

MENUボタンを押して、タブの📄アイコンを選ぶと、[マイメニュー] 画面が表示されます。



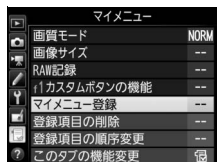
📄 マイメニュー：よく使うメニューを登録する

再生、静止画撮影、動画撮影、カスタム、セットアップ、画像編集の各メニューから、よく使う項目だけを選んで、20項目までマイメニューに登録できます。登録した項目は、削除したり、表示順序を変えたりできます。

■ マイメニューに登録する

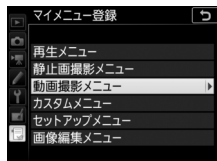
1 [📄 マイメニュー] 画面で [マイメニュー登録] を選ぶ

- [マイメニュー登録] を選んで、マルチセクターの⌂を押します。



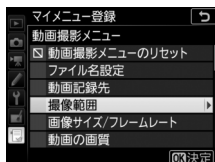
2 登録したいメニューを選ぶ

- 登録したいメニューを選んで⌂を押すと、選んだメニューが一覧表示されます。



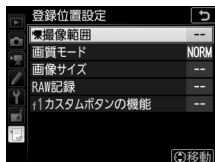
3 マイメニューに登録する項目を選ぶ

- マイメニューに登録する項目を選んで
OKボタンを押します。



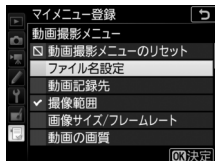
4 登録する項目の表示位置を選ぶ

- 上または下で登録する項目の表示位置を選んで、OKボタンを押します。



5 マイメニューに表示したい全ての項目を登録する

- ✓が表示されている項目は、すでにマイメニューに登録済みです。
- 左横に□が表示されている項目は、マイメニューに登録できません。
- 手順1～4を繰り返して、マイメニューに表示したい項目を登録します。



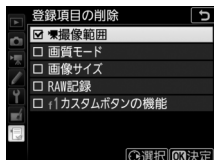
■ 登録した項目を削除する

1 [マイメニュー] 画面で [登録項目の削除] を選ぶ

- [登録項目の削除] を選び、マルチセクターの  を押します。

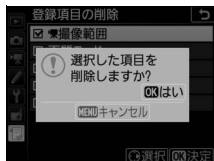
2 削除したいメニュー項目を選ぶ

-  を押すと、項目の左側のチェックボックスが ☒ になります。
- 削除したい全ての項目に ☒ を入れます。



3 選んだ項目を削除する

-  ボタンを押すと、確認画面が表示されます。もう一度  ボタンを押すと、選んだ項目が削除されます。



ボタン操作で登録した項目を削除するには

[マイメニュー] 画面で削除したい項目を選んで  ボタンを押すと、確認画面が表示されます。もう一度  ボタンを押すと、選んだ項目を削除します。

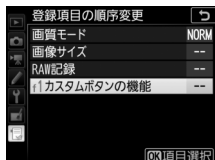
■ 登録した項目の表示順序を変える

1 [マイメニュー] 画面で [登録項目の順序変更] を選ぶ

- [登録項目の順序変更] を選び、マルチセクターの  を押します。

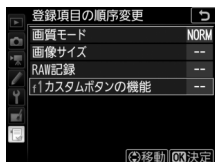
2 順番を変えたい項目を選ぶ

- 順番を変えたい項目を選んで、 ボタンを押します。



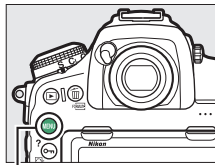
3 選んだ項目を移動したい位置を選ぶ

-  または  で移動したい位置を選んで、 ボタンを押すと、マイメニューの中で位置が変わります。
- 必要に応じて手順2～3を繰り返します。



4 [マイメニュー] 画面に戻る

MENU ボタンを押すと、[マイメニュー] 画面に戻ります。



MENU ボタン



■ マイメニューの機能を「最近設定した項目」に変更する

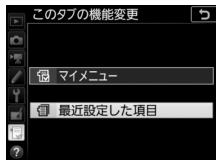
1 [マイメニュー] 画面で [このタブの機能変更] を選ぶ

- [このタブの機能変更] を選び、マルチセレクトターの  を押します。



2 [最近設定した項目] を選ぶ

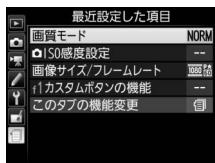
- [このタブの機能変更] 画面で [最近設定した項目] を選んで、 ボタンを押します。
- [マイメニュー] が [最近設定した項目] に切り替わります。



最近設定した項目：最近設定したメニューをたどる

■「最近設定した項目」の設定方法

メニューを設定するたびに「最近設定した項目」に追加されます。最大20項目まで登録されます。



最近設定した項目を削除するには

「最近設定した項目」画面で削除したい項目を選んで (trash) ボタンを押すと、確認画面が表示されます。もう一度 (trash) ボタンを押すと、選んだ項目を削除します。

「最近設定した項目」からマイメニューに戻すには

「最近設定した項目」の「このタブの機能変更」を選ぶと、「マイメニューの機能を「最近設定した項目」に変更する」(□218)の手順2と同じ画面が表示されます。「 マイメニュー」を選んで ボタンを押すと、マイメニューに切り替わります。

スピードライトを使った撮影

このカメラでは、別売のスピードライトを使用したフラッシュ撮影が可能です。

この章では、カメラおよびカメラに装着している機器での操作を📷、リモートフラッシュとして使用するスピードライトでの操作を🔦で表しています。🔦の手順での詳しい設定方法などは、スピードライトの使用説明書をご覧ください。

フラッシュ撮影のシステム構成

フラッシュ撮影には、次のような方法があります。

一灯撮影

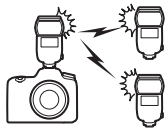
カメラに装着した別売スピードライトを発光させて撮影します。詳しくはカメラおよび各スピードライトの使用説明書をご覧ください。



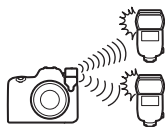
増灯撮影

カメラから離れた位置にあるスピードライト（リモートフラッシュ）をワイヤレスで制御して、増灯撮影ができます（アドバンスドワイヤレスライティング（AWL））。増灯撮影には次の方法があります。

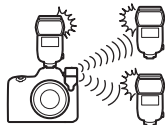
- カメラに装着したスピードライトの光でリモートフラッシュを制御する (📷222)



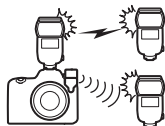
- 電波でリモートフラッシュを制御する※ (☐231)



- 電波制御したリモートフラッシュとカメラに装着したスピードライトを同時に発光させる※ (☐241)



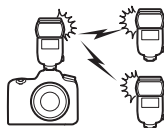
- 電波制御のリモートフラッシュと、光制御のリモートフラッシュを同時に使用する※ (☐244)



※ 電波でリモートフラッシュを制御するには、カメラにWR用変換アダプターWR-A10およびWR-R10を装着する必要があります。

光でリモートフラッシュを制御する

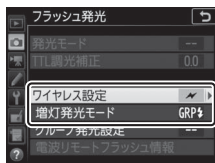
カメラに装着したスピードライトをマスターフラッシュとして使用し、リモートフラッシュを光で制御します（光制御アドバンストワイヤレスライティング）。



- SB-5000 または SB-500 をマスターフラッシュとして使用する場合は、スピードライトの設定をカメラ側で行います。詳しくは「SB-5000またはSB-500を使用して撮影する」(□223)をご覧ください。リモートフラッシュの配置などについては、スピードライトの使用説明書をご覧ください。
- SB-5000/SB-500 以外のスピードライトを使用する場合は、スピードライト側で設定を行う必要があります。詳しくは、スピードライトの使用説明書をご覧ください。

SB-5000またはSB-500を使用して撮影する

SB-5000またはSB-500をカメラのアクセサリシューに装着します。静止画撮影メニュー「フラッシュ発光」の「ワイヤレス設定」で「光制御AWL」を選び、増灯発光モード（SB-500は「グループ発光」のみ）を設定します。各増灯発光モードの設定および撮影方法は次の通りです。



■「グループ発光」で撮影する

リモートフラッシュのグループごとに発光モードを設定できます。

- 1 : 「フラッシュ発光」画面の「増灯発光モード」で「グループ発光」を選ぶ



- 2 : 「フラッシュ発光」画面で「グループ発光設定」を選んでマルチセクターの を押す



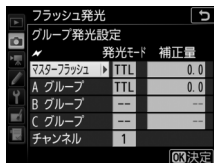
SB-5000装着時の設定について

SB-5000を装着している場合は、「フラッシュ発光」の設定をスピードライト側でも変更できます。

3 : 発光モードと調光補正量（または発光量）、チャンネルを設定する

- マスターフラッシュおよびリモートフラッシュグループそれぞれの発光モードと補正量（または発光量）を設定します。
- 設定できる発光モードは次の通りです。

TTL	i-TTL調光を行います。
 A	絞り連動外部自動調光を行います。ただし、絞り連動外部自動調光に対応していないスピードライトは発光しません。
M	マニュアル発光を行います。
-- (非発光)	リモートフラッシュは発光しません。[補正量] は設定できません。



- [チャンネル] で光制御のリモートフラッシュと通信を行うためのマスターフラッシュのチャンネル（1～4）を選びます。
- SB-500をリモートフラッシュとして使用する場合は、チャンネルを [3] に設定してください。



4 : リモートフラッシュのチャンネルを設定する

- 手順3の [チャンネル] で設定したチャンネルと同じものに設定してください。

5 : リモートフラッシュにグループの設定をする

- A～Cのグループを設定できます。
- SB-500をマスターフラッシュにしている場合、設定できるグループはAとBのみになります。
- 同時に使用できるリモートフラッシュの台数に制限はありません。ただし、センサーに他のリモートフラッシュの強い光が入ると正常に動作しない場合があるため、実用上は各グループ3台程度が目安です。

6 : 構図を決め、カメラとリモートフラッシュを配置する

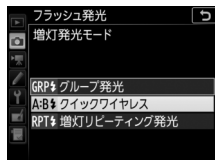
- リモートフラッシュの配置などについては、スピードライトの使用説明書をご覧ください。
- テスト発光を行って、使用する全てのスピードライトが正常に発光するか確認してください。テスト発光をするには、マスターフラッシュのテスト発光ボタンを押すか、フラッシュインフォ画面で  ボタンを押して [ **テスト発光**] を選びます (□245)。

7 : 使用する全てのスピードライトのレディーライトが点灯していることを確認してから撮影する

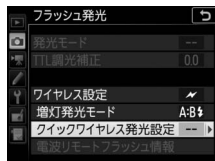
■【クイックワイヤレス】で撮影する（SB-5000のみ）

リモートフラッシュのAグループとBグループの光量比、およびCグループの発光量を設定して撮影します。Cグループはマニュアル発光のみ使用できます。

- 1 ：[フラッシュ発光] 画面の [増灯発光モード] で [クイックワイヤレス] を選ぶ

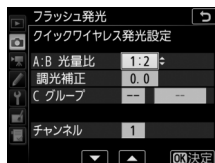


- 2 ：[フラッシュ発光] 画面で [クイックワイヤレス発光設定] を選んでマルチセクターの  を押す

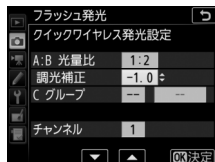


- 3 ：クイックワイヤレスモードの設定をする

- AグループとBグループの光量比を設定する

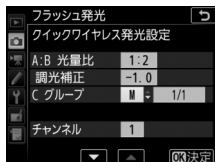


- AグループとBグループの調光補正量を設定する



● Cグループの設定をする

- [M] に設定すると発光し、[---] に設定すると発光しません。
- [M] にした場合は設定した発光量でCグループが発光します。



● チャンネルを設定する

- [チャンネル] で光制御のリモートフラッシュと通信を行うためのマスターフラッシュのチャンネル (1~4) を選びます。
- SB-500をリモートフラッシュとして使用する場合は、チャンネルを [3] に設定してください。



4 ㊦：リモートフラッシュのチャンネルを設定する

- 手順3の [チャンネル] で設定したチャンネルと同じものに設定してください。

5 ㊦：リモートフラッシュにグループの設定をする

- A~Cのグループを設定できます。
- 同時に使用できるリモートフラッシュの台数に制限はありません。ただし、センサーに他のリモートフラッシュの強い光が入ると正常に動作しない場合があるため、実用上は各グループ3台程度が目安です。

6 ㊦/㊦：構図を決め、カメラとリモートフラッシュを配置する

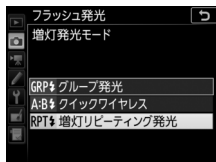
- リモートフラッシュの配置などについては、スピードライトの使用説明書をご覧ください。
- テスト発光を行って、使用する全てのスピードライトが正常に発光するか確認してください。テスト発光をするには、マスターフラッシュのテスト発光ボタンを押すか、フラッシュインフォ画面で **i** ボタンを押して [**テスト発光**] を選びます (㊦245)。

7 ㊦/㊦：使用する全てのスピードライトのレディーライトが点灯していることを確認してから撮影する

■ [増灯リピーティング発光] で撮影する (SB-5000のみ)

1回の露光中に、増灯したリモートフラッシュを連続発光させて、被写体の連続的な動きを多重露出のように写し込みます。

- 1  : [フラッシュ発光] 画面の [増灯発光モード] で [増灯リピーティング発光] を選ぶ

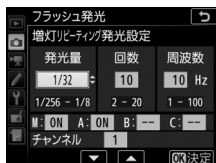


- 2  : [フラッシュ発光] 画面で [増灯リピーティング発光設定] を選んでマルチセクターの  を押す

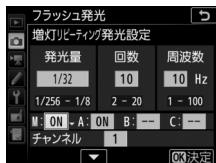


- 3  : 増灯リピーティング発光モードの設定をする

- 発光量、発光回数、周波数を設定する

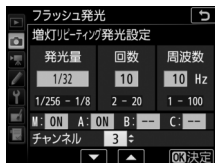


- 発光するかどうかをグループごとに設定する
 - [ON] に設定すると発光し、[---] に設定すると発光しません。



●チャンネルを設定する

- [チャンネル] で光制御のリモートフラッシュと通信を行うためのマスターフラッシュのチャンネル (1~4) を選びます。
- SB-500をリモートフラッシュとして使用する場合は、チャンネルを [3] に設定してください。



4 : リモートフラッシュのチャンネルを設定する

- 手順3の [チャンネル] で設定したチャンネルと同じものに設定してください。

5 : リモートフラッシュにグループの設定をする

- A~Cのグループを設定できます。
- 同時に使用できるリモートフラッシュの台数に制限はありません。ただし、センサーに他のリモートフラッシュの強い光が入ると正常に動作しない場合があるため、実用上は各グループ3台程度が目安です。

6 : 構図を決め、カメラとリモートフラッシュを配置する

- リモートフラッシュの配置などについては、スピードライトの使用説明書をご覧ください。
- テスト発光を行って、使用する全てのスピードライトが正常に発光するか確認してください。テスト発光をするには、マスターフラッシュのテスト発光ボタンを押すか、フラッシュインフォ画面で  ボタンを押して [ テスト発光] を選びます (□245)。

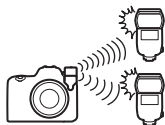
7 : 使用する全てのスピードライトのレディーライトが点灯していることを確認してから撮影する

光制御で増灯撮影する場合のご注意

- リモートフラッシュは、マスターフラッシュの光がセンサー窓に入る位置に置きます。特に、手持ちで撮影するときは、マスターフラッシュの光が確実にセンサー窓に入るようにしてください。
- リモートフラッシュの直接光または強い反射光が、カメラの撮影レンズ（[TTL] 設定時）や他のリモートフラッシュの外部自動調光用受光窓（[Ⓐ] 設定時）に入らないようにしてください。光が入ると、適正露出が得られません。
- [マスターフラッシュ] の [発光モード] を [---] にした場合でも、リモートフラッシュの発光タイミングを合わせるため、撮影中にマスターフラッシュが微小発光を行います。近距離撮影を行う場合、この少量発光が画像に写り込む場合があります。画像への影響を防ぐには、低いISO感度、または小さい絞り（大きい絞り値）で撮影してください。
- 撮影準備と配置が終わったら、必ずテスト撮影を行って、画像を確認してください。

電波でリモートフラッシュを制御する

カメラに装着したWR-R10からの電波によって電波制御に対応したリモートフラッシュを制御します（電波制御アドバンストワイヤレスライティング）。



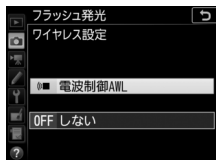
電波制御の準備をする

電波制御するには、カメラに装着したWR-R10とリモートフラッシュを無線接続する必要があります。

1 📷：WR-R10をカメラに装着する

- 装着方法については、WR-R10の使用説明書をご覧ください。

2 📷：静止画撮影メニュー【フラッシュ発光】の【ワイヤレス設定】で【電波制御AWL】を選ぶ

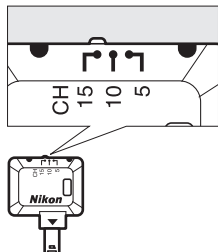


📌 ワイヤレスリモートコントローラー WR-R10について

- カメラに装着するには、WR用変換アダプター WR-A10が必要です。
- 電波制御アドバンストワイヤレスライティングを行うためには、別売のワイヤレスリモートコントローラー WR-R10のファームウェアをVer.3.0以降の最新版にバージョンアップしてお使いください。ファームウェアのバージョンアップ方法については、当社のホームページでご確認ください。

3 : WR-R10のチャンネルを設定する

- WR-R10のチャンネル切り換えスイッチを任意のチャンネルに設定します。



4 : WR-R10のリンクモードを設定する

- カメラのセットアップメニュー [リモコン (WR) 設定] の [リンクモード] で次のどちらかを設定します (□163)。



ペアリング	ペアリングを実行した機器のみと通信を行うモードです。 • ペアリングを行っていない機材とは通信しないため、近くで他の機材を使用した撮影が行われていても混信しません。 • ペアリングの実行は1台ずつ行うため、使用する機材が多い場合はPINコードの使用をおすすめします。
PINコード	同一の4桁の数字 (PINコード) が設定された機器同士で通信を行うモードです。 • 使用する機材が多い場合などにおすすめします。 • 同じPINコードに設定したカメラが複数台ある場合、最初にスピードライトと接続したカメラだけがそのスピードライトを制御できます (その他のカメラは未接続状態となり、WR-R10のLEDランプが点滅します)。

5 : リモートフラッシュとWR-R10を接続する

- スピードライトを電波制御リモートモードにします。
- リモートフラッシュのチャンネルは必ず手順3で設定したWR-R10のチャンネルと同じものを設定してください。
- リモートフラッシュのリンクモードは手順4で設定したWR-R10のリンクモードと同じものを設定してください。
 - **【ペアリング】** を選んだ場合、リモートフラッシュでペアリングを開始すると同時にWR-R10のペアリングボタンを押します。ペアリングが完了すると、WR-R10とリモートフラッシュのLINKライトが緑とオレンジの点滅を行います。接続が完了すると、リモートフラッシュのLINKライトが緑色に点灯します。
 - **【PINコード】** を選んだ場合、カメラで入力したものと同一PINコードをリモートフラッシュで入力します。PINコードの入力が完了すると、自動で接続を開始します。接続が完了すると、リモートフラッシュのLINKライトが緑色に点灯します。

6 : 使用する全てのリモートフラッシュで手順5を繰り返す

7 : 使用する全てのスピードライトのレディーライトが点灯していることを確認する

- 電波制御の場合は、全てのスピードライトがフラッシュ撮影可能な状態になると、ファインダー内表示やフラッシュインフォ画面にレディーライトが点灯します。

電波制御で接続しているスピードライトをカメラで一覧表示する

カメラの静止画撮影メニュー **【フラッシュ発光】** 接続している
の **【電波リモートフラッシュ情報】** では、接続中 スピードライト
のスピードライトを一覧表示できます。

- 一覧表示するときの識別用の名前は、スピードライト側で設定できます（リモートフラッシュネーム設定）。



グループ レディーライト

一度接続したスピードライトと再度接続する場合

チャンネルやリンクモードの設定を変更していない場合、手順3～6を行わずにスピードライトをリモートモードにするだけでWR-R10と接続できます。接続が完了すると、スピードライトのLINKライトが緑色に点灯します。

増灯発光モードを設定して撮影する

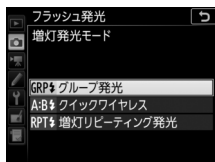
静止画撮影メニュー [フラッシュ発光] の [増灯発光モード] を設定します。各増灯発光モードの設定および撮影方法は次の通りです。



■ [グループ発光] で撮影する

リモートフラッシュのグループごとに発光モードを設定できます。

- 1 : [フラッシュ発光] 画面の [増灯発光モード] で [グループ発光] を選ぶ

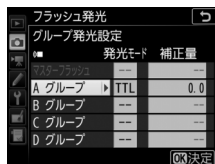


- 2 : [フラッシュ発光] 画面で [グループ発光設定] を選んでマルチセクターの を押す



3 ：発光モードと調光補正量（または発光量）を設定する

- リモートフラッシュグループの発光モードと補正量（または発光量）を設定します。
- 設定できる発光モードは次の通りです。



TTL	i-TTL調光を行います。
 A	絞り連動外部自動調光を行います。ただし、絞り連動外部自動調光に対応していないスピードライトは発光しません。
M	マニュアル発光を行います。
— (非発光)	リモートフラッシュは発光しません。[補正量] は設定できません。

4 ：リモートフラッシュにグループの設定をする

- A～Fのグループを設定できます。
- リモートフラッシュの各グループに設定できる台数に制限はありませんが、制御できるのは全グループ合計で18台までです。

5 /：構図を決め、カメラとリモートフラッシュを配置する

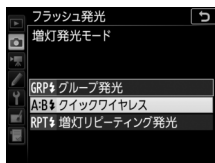
- リモートフラッシュの配置などについては、スピードライトの使用説明書をご覧ください。
- テスト発光を行って、使用する全てのスピードライトが正常に発光するか確認してください。テスト発光をするには、フラッシュインフォ画面で  ボタンを押し、[テスト発光] を選んで  ボタンを押します (□245)。

6 ：撮影する

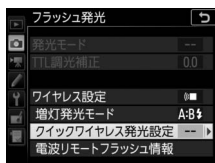
■ [クイックワイヤレス] で撮影する

リモートフラッシュのAグループとBグループの光量比、およびCグループの発光量を設定します。Cグループはマニュアル発光のみ使用できます。

- 1  : [フラッシュ発光] 画面の [増灯発光モード] で [クイックワイヤレス] を選ぶ



- 2  : [フラッシュ発光] 画面で [クイックワイヤレス発光設定] を選んでマルチセレクターの  を押す

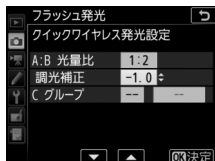


- 3  : クイックワイヤレスモードの設定をする

- AグループとBグループの光量比を設定する

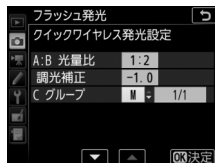


- AグループとBグループの調光補正量を設定する



• Cグループの設定をする

- [M] に設定すると発光し、[---] に設定すると発光しません。
- [M] にした場合は設定した発光量でCグループが発光します。



4 : リモートフラッシュにグループの設定をする

- A～Cのグループを設定できます。
- リモートフラッシュの各グループに設定できる台数に制限はありませんが、制御できるのは全グループ合計で18台までです。

5 /: 構図を決め、カメラとリモートフラッシュを配置する

- リモートフラッシュの配置などについては、スピードライトの使用説明書をご覧ください。
- テスト発光を行って、使用する全てのスピードライトが正常に発光するか確認してください。テスト発光をするには、フラッシュインフォ画面で  ボタンを押し、[⚡テスト発光] を選んで  ボタンを押します (□245)。

6 : 撮影する

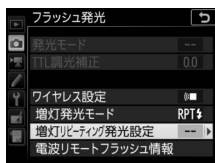
■ [増灯リピーティング発光] で撮影する

1回の露光中に、増灯したリモートフラッシュを連続発光させて、被写体の連続的な動きを多重露出のように写し込みます。

- 1  : [フラッシュ発光] 画面の [増灯発光モード] で [増灯リピーティング発光] を選ぶ

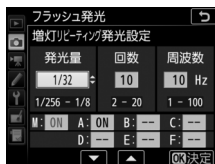


- 2  : [フラッシュ発光] 画面で [増灯リピーティング発光設定] を選んでマルチセレクターの  を押す

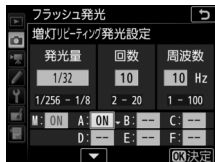


- 3  : 増灯リピーティング発光モードの設定をする

- 発光量、発光回数、周波数を設定する



- 発光するかどうかをグループごとに設定する
 - [ON] に設定すると発光し、[--] に設定すると発光しません。



4 : リモートフラッシュにグループの設定をする

- A～Fのグループを設定できます。
- リモートフラッシュの各グループに設定できる台数に制限はありませんが、制御できるのは全グループ合計で18台までです。

5 /: 構図を決め、カメラとリモートフラッシュを配置する

- リモートフラッシュの配置などについては、スピードライトの使用説明書をご覧ください。
- テスト発光を行って、使用する全てのスピードライトが正常に発光するか確認してください。テスト発光をするには、フラッシュインフォ画面で  ボタンを押し、[テスト発光] を選んで  ボタンを押します (□245)。

6 : 撮影する

電波制御したリモートフラッシュとカメラに装着したスピードライトを同時に発光させる

電波制御でワイヤレス増灯をした場合 (□231) に、電波制御で接続したリモートフラッシュに加えてアクセサリシューに装着したスピードライトも発光させることができます。



- SB-5000の場合、スピードライトで電波制御マスターモード（画面左上に  が表示されている状態）に設定し、グループ発光または増灯リピーティング発光を選んで装着してください。装着したSB-5000の設定は、スピードライト本体またはカメラで行えます。カメラで行う場合、グループ発光は **［グループ発光設定］** の **［マスターフラッシュ］**、増灯リピーティング発光は **［増灯リピーティング発光設定］** の **［M］**（マスターフラッシュ）で設定してください。
- SB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-600の場合、1灯で使用する設定にして装着してください。発光モードや補正量はスピードライト側で設定してください。
- SB-500、SB-400、SB-300の場合、そのまま装着してください。発光モードや補正量はカメラの **［グループ発光設定］** の **［マスターフラッシュ］** で設定してください。

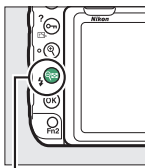
増灯撮影時に調光補正する

増灯撮影時に調光補正を行うと、マスターフラッシュとリモートフラッシュのそれぞれの「補正量」が変更されます。調光補正の設定方法は次の通りです。

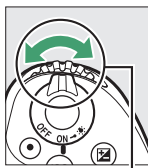
■■ 調光補正の設定方法

Q_⚡ ボタンを押しながら、サブコマンドダイヤルを回す

- 調光補正值は、表示パネルに表示されます。
- 調光補正は、1/3段ステップで－3段～＋1段の範囲で設定できます。

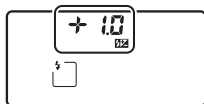
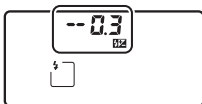
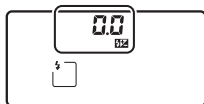


Q_⚡ ボタン



サブコマンド
ダイヤル

- Q_⚡ ボタンを押すと、表示パネルとファインダー内表示で設定した補正量を確認できます。



補正なし (Q_⚡ ボタンを押したとき)



－0.3段補正



＋1段補正

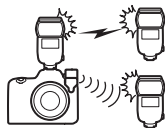
- マスターフラッシュとリモートフラッシュのいずれかを「TTL」または「A」にして補正値を0以外に設定すると、表示パネルとファインダー内表示にが点灯します。
- Q_⚡ ボタンを押すと、表示パネルで設定した補正量を確認できます。
- 被写体を明るくしたいときは＋側に、暗くしたいときは－側に補正してください。
- 調光補正を解除するには、補正量を0.0にしてください。カメラの電源をOFFにしても、補正量の設定は解除されません。

関連ページ

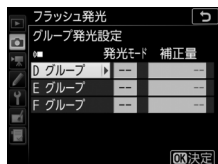
- 調光補正のステップ幅を変更する →  b3 [露出・調光補正ステップ幅] (□113)
- フラッシュ撮影時に露出補正した場合に調光量も補正するかどうかを設定する →  e3 [フラッシュ使用時の露出補正] (□125)

電波制御のリモートフラッシュと、 光制御のリモートフラッシュを同時に 使用する

WR-R10 (WR-A10が必要) と、光制御でマスターフラッシュとして使うスピードライト (SB-910、SB-900、SB-800、SB-700、SB-500) またはSU-800をカメラに装着すると、光制御と電波制御のリモートフラッシュを併用できます。

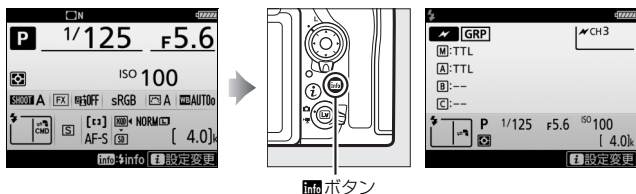


- 電波で制御するリモートフラッシュは、すべてWR-R10と接続してください (□231)。
- SB-500を装着した場合は、[ワイヤレス設定] で[光制御/電波制御AWL]を選んでください。SB-500以外のスピードライトまたはSU-800を装着した場合、[ワイヤレス設定] は[光制御/電波制御AWL] に設定されます。
- [増灯発光モード] (□45) は[グループ発光] のみ使用できます。
- リモートフラッシュのグループは、A～Fの最大6グループまで構成できます。光で制御するリモートフラッシュにはA～C、電波で制御するリモートフラッシュにはD～Fが設定できます。D～Fグループの設定画面を表示するには、[グループ発光設定] 画面でマルチセクターの☀☿を押します。



フラッシュインフォ画面で増灯撮影時のスピードライトの設定を確認する

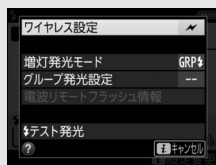
カメラのアクセサリシューにSB-5000またはSB-500を取り付けて光制御でマスターフラッシュとして使う場合、またはWR-R10を使用して電波でリモートフラッシュを制御している場合、スピードライトの設定内容をカメラのフラッシュインフォ画面で確認できます。フラッシュインフォ画面は、ファインダー撮影時に **info** ボタンを押してインフォ画面を表示し、再度 **info** ボタンを押すと表示されます。



info ボタン

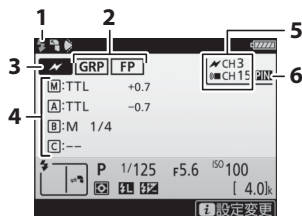
フラッシュインフォ画面表示中に **i** ボタンで設定を変更する

フラッシュインフォ画面表示中に **i** ボタンを押すと、フラッシュの設定を変更できます。表示される項目は、接続しているスピードライトや設定によって異なります。テスト発光することもできます。



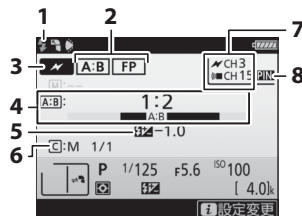
各発光モードの表示について

■ グループ発光



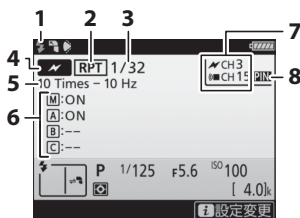
1	レディーライト※1	
2	増灯発光モード	45
	FP発光表示	125
3	リモートフラッシュの 制御方法※2	44
4	各グループの制御方法※3 各グループの発光モード	223、235
	調光補正量（または発光量）	223、235
5	チャンネル※2	223、231
6	リンクモード	178

■ クイックワイヤレス



1	レディーライト※1	
2	増灯発光モード	45
	FP発光表示	125
3	リモートフラッシュの 制御方法※2	44
4	AグループとBグループの 光量比	226、237
5	調光補正量	226、237
6	Cグループの発光の有無と 発光量	226、237
7	チャンネル※2	226、231
8	リンクモード	178

■増灯リピーティング発光



1	レディーライト※1	
2	増灯発光モード	45
3	発光量	228、239
4	リモートフラッシュの 制御方法※2	44
5	回数	228、239
	周波数	228、239
6	各グループの発光の有無	228、239
7	チャンネル※2	228、231
8	リンクモード	178

※1 電波制御時、レディーライトは全てのスピードライトがフラッシュ撮影可能な状態になると表示されます。

※2 光制御時は 、電波制御時は 、併用時は両方のアイコンが表示されます。併用時に光制御のチャンネルが表示されるのは、SB-500をマスターフラッシュとして使用している場合のみです。

※3 光制御と電波制御を併用している場合のみ、各グループの制御方法がアイコンで表示されます。

フラッシュインフォ画面での撮影に関する情報について

フラッシュインフォ画面で、露出モードやシャッタースピード、絞り値、ISO感度など、撮影に関する情報や設定の確認することもできます。



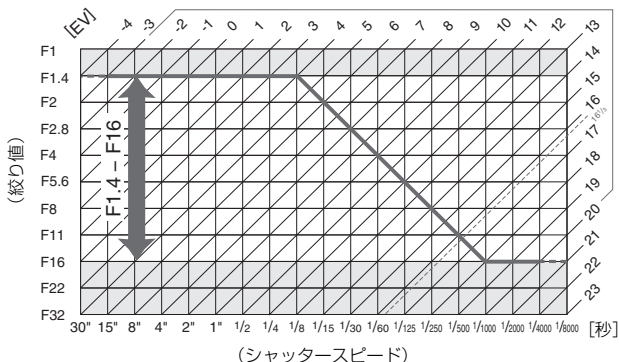
資料

露出モードP（プログラムオート）のプログラム線図

次のグラフは、露出モードがPのときの露出制御プログラム（ISO 100の場合）を表しています。

ISO 100、開放絞りF1.4・最小絞りF16のレンズ
(例：AF-S NIKKOR 50mm f/1.4G) の場合

測光範囲：EV -3～20



- 測光範囲により、EV値の両端に制限があります。
- マルチパターン測光では、ISO 100の場合16 $\frac{1}{3}$ を超えるEV値では、全て16 $\frac{1}{3}$ として制御されます。

パソコンに画像を取り込む方法

NX Studioをインストールする

NX Studioのインストールにはインターネットに接続できる環境が必要です。ソフトウェアの最新情報、動作環境は、当社ホームページのサポート情報でご確認ください。

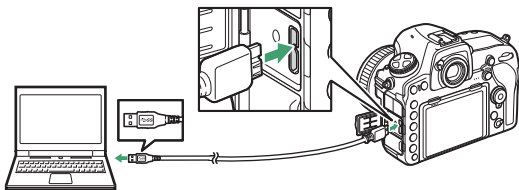
- 下記のホームページからNX Studioの最新のインストーラーをダウンロードし、画面の指示に従ってインストールしてください。
<https://downloadcenter.nikonimglib.com/>
- 最新のバージョンではない場合、カメラの画像が転送できないことがあります。

NX Studioを使ってパソコンに画像を取り込む

NX Studioの詳しい使い方はヘルプをご覧ください。

1 パソコンに接続する

メモリーカードを入れたカメラの電源をOFFにしてから、付属のUSBケーブルでカメラとパソコンを接続します。



カードリーダーを使用する場合

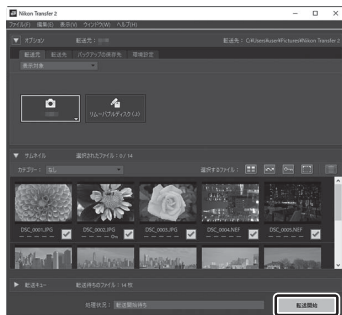
市販のカードリーダーを使用して画像を転送することもできます。その場合、カードリーダーがお使いのメモリーカードに対応しているかご確認ください。

2 カメラの電源をONにする

- NX StudioのNikon Transfer 2が起動します。Nikon Transfer 2は、NX Studioをインストールすると一緒にインストールされる画像転送ソフトウェアです。
- 起動するプログラム（ソフトウェア）を選ぶ画面がパソコンに表示されたときは、Nikon Transfer 2を選んでください。
- 自動で起動しない場合、NX Studioを起動して「取り込む」アイコンをクリックしてください。

3 [転送開始] をクリックする

記録されている画像がパソコンに取り込まれます。



4 カメラの電源をOFFにする

USBケーブルを抜いて接続を解除してください。

✓ Windows 10またはWindows 8.1をお使いの場合

パソコンの設定によっては、図のようなダイアログが表示されます。

この場合は、表示されたダイアログをクリックしてから、「**画像ファイルを取り込む-Nikon Transfer 2**」をクリックしてNikon Transfer 2を選びます。



✓ macOSをお使いの場合

Nikon Transfer 2が自動起動しないときは、カメラとパソコンを接続した状態で、macOS付属アプリケーションのイメージキャプチャを起動し、カメラを接続時に開くアプリケーションとしてNikon Transfer 2を設定してください。

✓ 動画を転送する場合のご注意

このカメラで使用したメモリーカードを他機種のカメラに入れて、そのカメラから動画を転送しないでください。動画が転送されないままファイルが削除されるおそれがあります。

✓ パソコンとの接続時のご注意

- カメラとパソコンが通信している間は、カメラの電源を OFF にしたり、USB ケーブルを抜いたりしないでください。
- ケーブルを接続するときは、無理な力を加えずにまっすぐに差し込んでください。端子を引き抜くときも、まっすぐに引き抜いてください。
- ケーブルを抜き差しするときは、必ずカメラの電源をOFFにしてください。
- カメラとパソコンを接続するときは、十分に充電されたバッテリーをお使いになることをおすすめします。

✓ USBハブについて

USBハブを使ってカメラをパソコンに接続すると、正しく動作しないことがあります。カメラはパソコンに標準装備されたUSBポートへ接続してください。

別売のワイヤレストランスミッター WT-7を 使って、無線LANまたは有線LANでパソコン に画像を転送する

このカメラは、別売のワイヤレストランスミッター WT-7（□□266）を USBケーブルで接続することにより、無線LANまたは有線LANでパソコンやFTPサーバーと通信できます。

■ ワイヤレストランスミッター WT-7接続時に 使える機能

FTP画像送信モード	メモリーカードに記録した静止画および動画や、撮影直後の静止画をパソコンやFTPサーバーに保存できます。
PC画像送信モード	
カメラコントロール モード	別売のCamera Control Pro 2で、カメラをコントロールしたり、撮影した静止画および動画をパソコンに保存できます。
HTTPサーバー モード	パソコンやスマートフォンのWeb ブラウザーからメモリーカードに記録した画像などの閲覧やリモート撮影ができます。

- 別売のワイヤレストランスミッター WT-7の使用方法については、WT-7の使用説明書をよくお読みください。
- ワイヤレストランスミッターに関連するソフトウェアは、必ず最新版にバージョンアップしてお使いください。

✓ フォルダー送信時のご注意

セットアップメニュー [ネットワーク] の [オプション] の [フォルダー送信] でフォルダーを選択して送信する場合、選択したフォルダー内にファイルが1000個以上保存されていても、小さい番号から最大1000ファイルまでしか送信されません。

✓ 画像転送状態でのご注意

有線LAN/無線LANで画像を転送しているとき、または転送予定の画像が残っているときは、次の機能や設定などが使用できません。

- 動画の記録および再生
- 静止画撮影メニュー [サイレント撮影(静止画Lv)] (□81) の [する(モード2)]

✓ 動画の転送について

有線LAN/無線LANをお使いの場合、動画は画像送信モードでパソコンに転送できます ([ネットワーク] の [オプション] が [撮影後自動送信] または [フォルダー送信] の場合を除く)。

✓ HTTPサーバーモードについて

次の場合など、HTTPサーバーモードでは使用できない機能や設定があります。

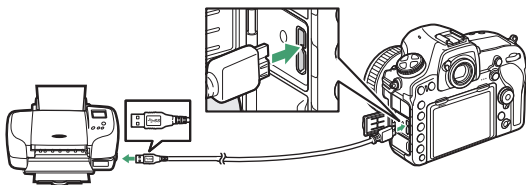
- カメラ本体での動画の記録および再生
- 静止画撮影メニュー [サイレント撮影(静止画Lv)] (□81) の [する(モード2)]

画像をプリンターで印刷する

PictBridge（ピクトブリッジ）対応プリンターをお使いの場合、パソコンを使わずに、カメラとプリンターを付属のUSBケーブルで直接接続してメモリーカード内の画像をプリントできます（ダイレクトプリント）。

カメラとプリンターを接続する

USBケーブルは、無理な力を加えず、端子にまっすぐ差し込んでください。



- カメラとプリンターの電源をONにすると、画像モニターにPictBridgeのロゴが表示された後、撮影された画像が表示されます。

✓ ダイレクトプリントの前に

- ダイレクトプリント時は、残量が充分にあるバッテリーをお使いください。別売のパワーコネクターとACアダプターをお使いになることをおすすめします。
- 直接プリントする画像は、静止画撮影メニューの【色空間】を【sRGB】に設定して撮影してください（□56）。

✓ USBハブについて

USBハブに接続した場合の動作は保証しておりません。

✓ ダイレクトプリントについてのご注意

- RAW画像およびTIFF画像（□47）はダイレクトプリントできません。RAW画像の場合は画像編集メニューの【RAW現像】（□195）で作成したJPEG画像をプリントしてください。
- 【フチ設定】と【範囲指定】は、それぞれの機能に対応していないプリンターでは選べません。なお、【範囲指定】で狭い範囲を大きくプリントした場合は、画像が粗くプリントされる場合があります。

1コマだけプリントする

1 プリントしたい画像を選んで OK ボタンを押す

- マルチセレクトの OK または OK を押してプリントしたい画像を選びます。
 - 1コマ表示中に OK ボタンを押すと、表示中の画像を拡大表示します。 OK ボタンを押すと、1コマ表示に戻ります。
 - OK (OK) ボタンを押して6コマ表示に切り換えて、画像を選ぶことができます。 OK ボタンを押すと、1コマ表示に戻ります。
 - 6コマ表示中に OK (OK) ボタンを押すと、[スロット/フォルダー指定] 画面が表示されます。
-

2 プリント設定の項目を設定する

- [プリント設定] 画面で設定したい項目を選んで OK を押すと、それぞれの設定画面が表示されます。設定方法については、「プリント設定項目について」(P257) をご覧ください。
-

3 プリントを開始する

- [プリント実行] を選んで、 OK ボタンを押すとプリントが始まります。
- プリントを中断したいときは、もう一度 OK ボタンを押してください。

■ プリント設定項目について

用紙設定※	プリントする用紙のサイズを選んで Ⓢ ボタンを押します。プリンターが対応する用紙サイズのみが表示されます。
枚数指定	プリントする枚数(1～99枚)を設定して Ⓢ ボタンを押します。
フチ設定※	[あり]を選んで Ⓢ ボタンを押すと、画像にフチを付けてプリントします。
日付プリント※	[あり]を選んで Ⓢ ボタンを押すと、画像に日付をプリントします。
範囲指定	[する]を選んでマルチセクターの Ⓢ を押すと、[範囲指定]画面が表示されます。プリント範囲(黄色の枠)は Ⓢ (⚡) ボタンを押すと狭くなり、 Ⓢ ボタンを押すと広がります。マルチセクターを操作するとプリント範囲が移動します。プリント範囲を決定するには Ⓢ ボタンを押します。

※ プリンターの設定を優先したいときは、それぞれの設定時に「**プリンターの設定**」を選んでください。

複数の画像をプリントする

- 1 カメラとプリンターを接続し (□255)、撮影した画像が表示されたらMENUボタンを押す

- 2 プリント方法を選んで、プリントする画像や枚数を設定する

- プリント方法を選んでマルチセクターの①を押します。

プリント 画像選択	プリントする画像と枚数を選んでプリントします。 • マルチセクターでプリントする画像を選び、 (P/?) ボタンを押しながら①または②を押して枚数(1~99枚)を設定して、 ボタンを押します。 •  (Z) ボタンを押すと、[スロット/フォルダー指定] 画面が表示されます。 •  ボタンを押している間は、選択中の画像を拡大表示します。 • プリントしない画像は枚数を0にします。
INDEX プリント	メモリーカードの中のJPEG画像 (□47) を一覧できる「インデックス」をプリントします。 • [INDEXプリント]画面が表示されたら、 ボタンを押します。 • インデックスプリントできるのは 256 コマまでです。メモリーカード内に257コマ以上の画像がある場合は、印刷されない画像があります (確認画面が表示されます)。 • 用紙サイズによってはプリントできない場合があります (警告メッセージが表示されます)。

- 3 プリント設定の項目を設定する

- [プリント設定] 画面で設定したい項目を選んで①を押すと、それぞれの設定画面が表示されます。[用紙設定]、[フチ設定]、[日付プリント] を設定できます。設定方法については、「プリント設定項目について」 (□257) をご覧ください。

- 4 プリントを開始する

- [プリント実行] を選んで ボタンを押すと、プリントが始まります。
- プリントを中断したいときは、もう一度 ボタンを押してください。

関連ページ

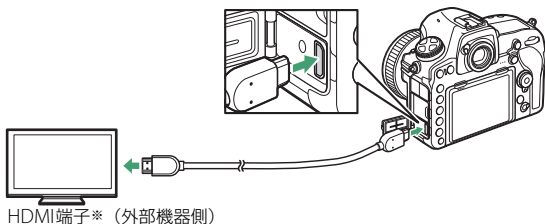
プリント時のエラーについては、使用説明書の「警告メッセージ」をご覧ください。

テレビで見る

HDMIケーブルを使ってテレビと接続する

カメラをHDMI端子のあるテレビなどと接続することができます。接続には、別売のHDMI端子用ケーブル（□268）または市販のHDMI端子用ケーブル（Type C）が必要です。別途お買い求めください。HDMIケーブルを抜き差しするときは、必ずカメラの電源をOFFにしてください。

HDMI端子（カメラ側）



※ 使用する外部機器の端子に合ったケーブルをお使いください。

- テレビの入力をHDMI入力に切り換え、カメラの電源をONにして▶ボタンを押すと、撮影した画像がテレビの画面に表示されます。
- テレビで動画を再生するときは、音量をテレビ側で調節してください。カメラ側では音量調節できません。

HDMI対応機器との接続時の設定を変更する

セットアップメニュー（□156）の[HDMI]で、HDMI対応機器との接続時の設定を変更できます。

■■ 出力解像度

HDMI対応機器への出力解像度を設定できます。

- [出力解像度] が [オート] の場合、出力先の映像信号形式を自動的に検出します。



■■ 外部記録制御

[外部記録制御] を [する] に設定すると、Atomos Open Protocolに対応した市販の外部レコーダー（Atomos社のSHOGUN、NINJA、SUMOシリーズ）とカメラをHDMIケーブルで接続したときに、カメラ側の操作に連動して外部レコーダーの動画記録の開始および終了を行えます。

- 動画の画像サイズ（□84）が3840×2160または1920×1080スローの場合、カメラ側で動画記録の操作を行っても外部レコーダーを連動させることはできません。外部レコーダーで動画記録を行う場合は、外部レコーダー側で操作してください。
- 外部レコーダーと接続して、[外部記録制御] を [する] に設定すると、カメラの液晶モニターにアイコン（動画ライブビュー中：GⓈBY、動画記録中：GⓈREC）が表示されます。動画を記録するときは、外部レコーダーの表示や、外部レコーダーで動画が記録されていることをご確認ください。
- 接続するレコーダーによっては、外部レコーダー側で設定を変更する必要があります。詳しくは外部レコーダーの使用説明書をご覧ください。

■ 詳細設定

出力レンジ	ビデオ信号の色階調の入力範囲（RGBレンジ）は、HDMI対応機器によって異なります。通常は、HDMI対応機器に合わせて自動で出力レンジを切り換える【オート】をお使いください。HDMI対応機器のRGBレンジを識別できない場合は、次のいずれかを選んでください。 • リミテッドレンジ: RGBレンジが16～235の機器に適しています。画面で黒色がつぶれて表示される場合に選びます。 • フルレンジ: RGBレンジが0～255の機器に適しています。黒色が明るく表示されたり、薄く表示されたりする場合に選びます。
出力画面サイズ	HDMI対応機器の画面に出力する範囲を、95%と100%から選びます（いずれも上下左右とも）。
ライブビュー時の 情報表示	HDMI接続してライブビュー撮影をするときに、HDMI対応機器に撮影情報を表示するかどうかを設定します。【しない】に設定している場合、または動画の画像サイズ（□84）を3840×2160または1920×1080スローに設定している場合は、撮影情報が表示されません。
モニターの 同時表示	HDMI対応機器との接続時に、カメラの画像モニターを点灯させるかどうかを設定します。【しない】を選ぶと、画像モニターが消灯するため、カメラのバッテリーの消耗を少なくすることができます。 • 動画の画像サイズ（□84）を3840×2160または1920×1080スローに設定している場合は、常に画像モニターは点灯します。 • 【ライブビュー時の情報表示】が【しない】の場合、【モニターの同時表示】は【する】に固定されます。

HDMIとは

High-Definition Multimedia Interfaceの略で、マルチメディアインターフェースのひとつです。このカメラでは別売のHDMI端子ケーブル（Type C）を使ってHDMI対応機器と接続できます（□268）。

テレビでの画像の再生について

- 画像の再生方法は、画像モニターで再生するときと同じです。
- テレビ画面では、画像の周辺部が一部ケラレて表示される場合があります。その場合は、セットアップメニュー [HDMI] → [詳細設定] → [出力画面サイズ]（□262）を [95%] に設定してください。
- テレビでの再生などでカメラを長時間使うときは、別売のパワーコネクタとACアダプターをお使いになることをおすすめします。

スライドショー

再生メニューの [スライドショー]（□31）では、撮影した画像を1コマずつ連続再生できます。

画像モニターの同時表示についてのご注意

[モニターの同時表示] の設定にかかわらず、静止画撮影メニュー [サイレント撮影（静止画Lv）]（□81）が [する（モード2）] の場合は、カメラの画像モニターに画像を表示しません。

市販の外部レコーダーを使った動画記録について

市販の外部レコーダーを使用する場合、次の設定をおすすめします。

- [HDMI] > [詳細設定] > [出力画面サイズ] : [100%]
- [HDMI] > [詳細設定] > [ライブビュー時の情報表示] : [しない]

使用できるアクセサリ

このカメラには撮影領域を広げるさまざまなアクセサリが用意されています。

電源

● Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL15a

ニコンデジタルカメラD850用のバッテリーです。

- EN-EL15a の代わりにEN-EL15c/EN-EL15b/EN-EL15 も使えます。EN-EL15を使用する場合、EN-EL15aを使用したときよりも撮影可能コマ数（電池寿命）が減少します。

● バッテリーチャージャー MH-25a

Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL15a 用のチャージャーです。

- MH-25a の代わりにバッテリーチャージャー MH-25 も使えます。

● マルチパワーバッテリーパックMB-D18

MB-D18には縦位置シャッターボタンとメインコマンドダイヤル、サブコマンドダイヤル、マルチセレクト、Fnボタン、AF作動ボタン（AF-ONボタン）が装備されているので、縦位置での撮影に便利です。カメラ本体のMB-D18用接点カバーを取り外して装着します。

- MB-D18でEN-EL18cを使用する場合は、別売のバッテリーチャージャーMH-26aまたはMH-26と、バッテリー室カバーBL-5が必要です。また、EN-EL18cの代わりにEN-EL18b/EN-EL18a/EN-EL18も使えます。

- MB-D18装着時は使用する電池によって連続撮影速度*が異なります。

MB-D18に 使用する電池	リリースモードが CHのとき	リリースモードが CLのとき
EN-EL15aまたは 単3形電池	最大約7コマ/秒	最大約1～6コマ/秒
EN-EL18c	最大約9コマ/秒	最大約1～8コマ/秒

※ AFモードが**AF-C**、露出モード**S**または**M**、1/250秒以上の高速シャッタースピードで、その他が初期設定のときの値です。

- 連続撮影可能コマ数は、使用する電池によって異なります。詳しくは「別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D18を装着してEN-EL18cを使用した場合の連続撮影可能コマ数について」（□273）をご覧ください。

電源	● パワーコネクタ EP-5B、ACアダプター EH-5c/EH-5b ※ ACアダプターを使用すると、長時間カメラを使用するとき 安定して電源を供給できます。 - このカメラは、カメラ本体とACアダプターを接続するた めにパワーコネクタ EP-5Bが必要です。カメラとパワーコ ネクタ、ACアダプターを接続する方法については、「カメラ とパワーコネクタ、ACアダプターの接続方法」(□275) をご覧ください。 - マルチパワーバッテリーパックMB-D18をカメラに装着して ACアダプターを使用する場合、EP-5Bは、カメラではなく MB-D18に入れてください。なお、カメラとMB-D18の両方 にEP-5Bを入れて使用しないでください。 ※日本国外でお使いになるには、別売の電源コードが必要です。
フィルター	● フィルターをレンズ保護のために常用する場合は、ニュート ラルカラー NCをお使いください。 ● カメラ測光系の特性上、偏光フィルター (Polar) は使用でき ません。円偏光フィルター (C-PL、C-PL II) をお使いください。 ● 逆光撮影や、輝度の高い光源を画面に入れて撮影する場合は、 フィルターによって画像上にゴーストが発生するおそれがあ ります。このような場合は、フィルターを外して撮影するこ とをおすすめします。 ● 露出倍数のかかるフィルター (Y44、Y48、Y52、O56、R60、 X0、X1、C-PL (円偏光フィルター)、ND25、ND45、ND4、 ND85、ND8、ND400、A2、A12、B2、B8、B12) を使用す る場合、RGB マルチパターン測光、または3D-RGB マルチパ ターン測光の効果が得られない場合がありますので、測光 モードを中央部重点測光に切り換えて撮影することをおすす めします。詳しくは、各フィルターの使用説明書をご覧ください。 ● 特殊フィルターなどを使用する場合は、オートフォーカスや フォーカスエイドが行えないことがありますのでご注意ください。

• **ワイヤレストランスミッター WT-7 ※**

カメラで撮影した画像をワイヤレスで転送したり、別売の Camera Control Pro 2 を使ってパソコンからカメラを遠隔操作できます。さらに、パソコンやスマートフォンの Web ブラウザから画像の閲覧やリモート撮影ができます。

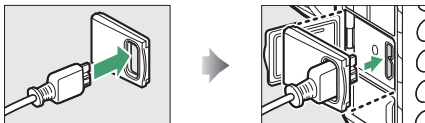
※ ワイヤレストランスミッターをお使いいただく場合は、LAN の知識および環境が必要です。ワイヤレストランスミッターで使用するソフトウェアは、必ず最新版にバージョンアップしてお使いください。

• **USB ケーブル用端子カバー UF-4/**

USB ケーブルゴム UF3-RU14

カメラと WT-7 の接続時に、USB ケーブル用端子カバー UF-4 と USB ケーブルゴム UF3-RU14 を USB ケーブルの端子にそれぞれ取り付けることにより、カメラや WT-7 から USB ケーブルが不用意に外れることを防げます。取り付けは、図の手順で行ってください。

UF-4 (カメラ側)



UF3-RU14 (ワイヤレストランスミッター側)



ワイヤレス リモートコント ローラー	● ワイヤレスリモートコントローラー WR-R10/WR-T10 ※ ワイヤレスリモートコントローラー WR-R10を、10ピンターミナルに接続したWR用変換アダプター WR-A10に取り付けると、ワイヤレスリモートコントローラー WR-T10からの操作で無線での遠隔撮影を行えます。WR-R10を使用して、電波制御に対応したスピードライトを制御することもできます。 ● ワイヤレスリモートコントローラー WR-1 ※ WR-1は、他のWR-1やWR-R10(WR用変換アダプターWR-A10が必要) またはWR-T10と組み合わせて、送信機または受信機として使います。たとえば、受信機に設定したWR-1をカメラの10ピンターミナルに取り付けると、送信機に設定したWR-1からの操作で、遠隔撮影することができます。 ※ ワイヤレスリモートコントローラーをお使いいただく場合は、WR-R10ならびにWR-1のファームウェアを最新版にバージョンアップしてください。ファームウェアのバージョンアップ方法については、当社のホームページでご確認ください。
ファインダー用 アクセサリ	● 接眼目当てDK-19 接眼部に取り付けて使用する、ゴム製の接眼目当てです。ファインダー視野がよりはっきり確認でき、目の疲れを軽減します。 ● 接眼補助レンズDK-17C 遠視、近視の方のための補助レンズで、接眼部に差し込むだけで簡単に取り換えることができます。－3、－2、0、＋1、＋2m⁻¹の5種類が用意されています。視度補正は個人差が大きいのので店頭で実際に取り付けてお選びください。このカメラには視度調節機能が付いています（－3～＋1m⁻¹）ので、この範囲外の視度補正が必要なときにお使いください。 ● マグニファイングアイピースDK-17M 接眼部に取り付けることにより、ファインダー倍率を約1.2倍に拡大します。 ● マグニファイヤー DG-2 ファインダー中央部の像を拡大します。より厳密なピント合わせが必要なときに使用します。 ● アイピースアダプター DK-18 このカメラにマグニファイヤー DG-2 やアングルファインダー DR-3を取り付けるためのアダプターです。 ● アンティフォグ ファインダーアイピースDK-14、DK-17A 寒いときや湿度が高い場合など、ファインダーのくもりの発生を防止し、クリアなファインダー像を提供します。

ファインダー用 アクセサリ	• フッ素コート付きファインダーアイピースDK-17F 汚れが付着しにくく付着しても簡単に拭き取れる、ニコン独自のフッ素コートを両面に採用した保護ガラスを使用しています。 • 変倍アングルファインダー DR-5 変倍アングルファインダー DR-5をカメラの接眼部に取り付けると、撮影レンズと直角の方向（水平方向に向けたカメラの真上など）からファインダー内の画像を確認できます。全視野が見える1倍と、より精密なピント確認作業が可能な2倍※の2種類の倍率を選択できます。また、視度調節も可能です。 ※2倍では周辺部にケラレが生じます。 • アングルファインダー DR-4 アングルファインダー DR-4をカメラの接眼部に取り付けると、撮影レンズと直角の方向（水平方向に向けたカメラの真上など）からファインダー内の画像を確認できます。
HDMIケーブル (□260)	• HDMIケーブルHC-E1 カメラ側がType C、HDMI機器側がType AのHDMIケーブルです。
アクセサリ シューカバー	• アクセサリシューカバー BS-3、BS-1 スピードライトを取り付けるアクセサリシューを保護するためのカバーです。
ボディー キャップ	• ボディーキャップBF-1B、BF-1A レンズを取り外したカメラボディーに取り付けることにより、ゴミやほこりの付着を防ぎ、カメラ内部を保護します。
ニコンデジタル カメラ専用 ソフトウェア	• Camera Control Pro 2 パソコンからカメラを操作して静止画や動画を撮影したり、撮影した画像を直接ハードディスクなどへ保存したりできる、カメラコントロール用ソフトウェアです。Camera Control Pro 2で画像の記録先の設定が【PC】になっている場合、カメラとパソコンを接続してCamera Control Pro 2を起動すると、表示パネルにPC接続中マークが表示されます。 • ソフトウェアは必ず最新版にバージョンアップしてお使いください。ご使用のパソコンがインターネットに接続されている場合、OSログオン後に所定時間を経過すると、ニコンメッセージセンター 2はソフトウェアの更新情報などを確認します（初期設定）。更新情報がある場合は、「通知の画面」が自動的に表示されます。 • 対応OSについては、当社ホームページのサポート情報でご確認ください。

10ピン
ターミナルに
接続する
アクセサリ

10ピンターミナルに次のアクセサリを接続することにより、遠隔撮影や無人撮影などができます。

使用しない場合は、必ず10ピンターミナルカバーを閉じてください。ゴミ等が入ると、誤作動の原因となることがあります。

- **リモートコードMC-22、MC-22A**（長さ：約1m）
コード先端にある端子（青、黄、黒）に特殊装置を接続すると、音や信号による遠隔操作が可能です。
- **リモートコードMC-30、MC-30A**（長さ：約80cm）
カメラブレを避けたいときや、カメラから離れてレリーズ操作をしたいときに便利です。
- **リモートコードMC-36、MC-36A**（長さ：約85cm）
一定間隔で撮影するインターバルタイマー機能を備えたリモート撮影用コードです。
- **延長コードMC-21、MC-21A**（長さ：約3m）
MC-20、MC-22、MC-22A、MC-23、MC-23A、MC-25、MC-25A、MC-30、MC-30A、MC-36、MC-36A、ML-3に併用できる延長コードです（MC-21またはMC-21Aを2本以上接続して使用することはできません）。
- **接続コードMC-23、MC-23A**（長さ：約40cm）
10ピンターミナルを装備するカメラを2台同時に作動させるための接続コードです。
- **変換コードMC-25、MC-25A**（長さ：約20cm）
2ピンターミナル用のラジオコントロールセットMW-2や、インターバロメーターMT-2、ルミコントロールセットML-2などを、10ピンターミナルに接続するための変換コードです。
- **WR用変換アダプターWR-A10**
ワイヤレスリモートコントローラーWR-R10を10ピンターミナル装備のカメラに装着するためのアダプターです。
- **GPSユニットGP-1/GP-1A**
10ピンターミナルでカメラとGP-1/GP-1Aを接続することにより、撮影時の緯度、経度、標高、協定世界時（UTC）を画像データに記録することができます。
※ 販売は終了しています。
- **ルミコントロールセットML-3**
最大で約8m離れたところから、信号（赤外パルス光）による遠隔操作ができます。

外部マイク

- **ステレオマイクロホンME-1**

ステレオマイクロホンME-1を外部マイク入力端子に接続すると、ステレオ録音ができます。また、動画撮影中にオートフォーカスでピント合わせをしたときに生じるレンズの動作音などが録音されるのを軽減できます。

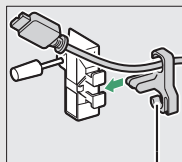
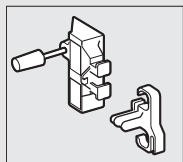
- **ワイヤレスマイクロホンME-W1**

Bluetooth無線通信技術を搭載したワイヤレスマイクロホンです。カメラの動画撮影時に離れた場所の音声を収音できます。

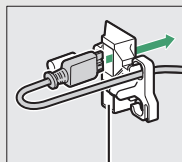
HDMI/USBケーブルクリップについて

付属のHDMI/USBケーブルクリップを取り付けると、カメラから別売のHDMIケーブルやUSBケーブルが不用意に外れることを防ぐことができます（HDMI/USBケーブルクリップは、市販のHDMI端子用ケーブルで使用できない場合があります）。ここではUSBケーブルを使って説明しています。

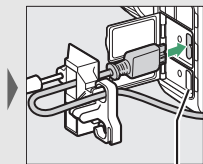
- HDMI/USB ケーブルクリップを使用するときは、画像モニターを収納してください。



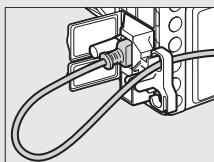
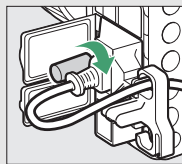
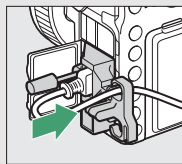
HDMIケーブルの場合
はここに通します。



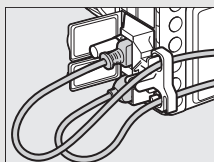
HDMIケーブルの場合
はここに通します。



HDMIケーブルの場合
はここに差し込みます。



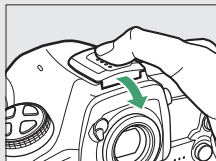
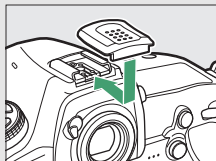
USBケーブルを使用する
場合



HDMIケーブルとUSBケー
ブルを同時に使用する場合

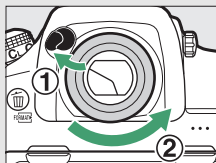
アクセサリーシューカバーの取り付けおよび取り外し方

別売のアクセサリーシューカバーを取り付けるには、カバーを図のようにカメラのアクセサリーシューに差し込みます。取り外すときは、カメラをしっかりと支えて、カバー全体を親指で押さえながら矢印の方向にスライドさせます。



付属のアイピースの取り付けおよび取り外し方

カメラのアイピースシャッターを閉じてロックを解除してから ①、付属のアイピース (DK-17F) を軽くはさむように2本の指で持ち、図のように回して取り外します ②。取り付けるときは、アイピースを逆に回します。別売のアイピースの取り付けおよび取り外しの場合も同様に行ってください。



使用できるアクセサリについて

- 国または地域によって、販売していない場合があります。
- アクセサリの最新情報は、当社ホームページやカタログなどでご確認ください。

別売のマルチパワーバッテリーパック MB-D18を装着してEN-EL18cを使用した 場合の連続撮影可能コマ数について

別売のマルチパワーバッテリーパックMB-D18を装着してEN-EL18cを使用した場合の連続撮影可能コマ数※1は、EN-EL15aを使用した場合と異なります。レリーズモードを**CH**に設定したときに、64GBのメモリーカード※2を使って連続撮影できるコマ数は次のようになります。ただし、カードの種類や撮影条件によって、連続撮影可能コマ数は増減することがあります。

■■【撮像範囲設定】が【FX (36×24)】の場合※3

画質モード	画像 サイズ	電源	
		EN-EL15a	EN-EL18c
RAW (ロスレス圧縮RAW/12ビット記録)	L	170コマ	54コマ
	M	94コマ	40コマ
	S	56コマ	35コマ
RAW (ロスレス圧縮RAW/14ビット記録)	L	51コマ	29コマ
RAW (圧縮RAW/12ビット記録)	L	200コマ	56コマ
RAW (圧縮RAW/14ビット記録)	L	74コマ	31コマ
RAW (非圧縮RAW/12ビット記録)	L	55コマ	39コマ
RAW (非圧縮RAW/14ビット記録)	L	29コマ	24コマ
TIFF (RGB)	L	32コマ	29コマ
	M	35コマ	28コマ
	S	39コマ	31コマ
FINE	L	200コマ	79コマ
	M	200コマ	86コマ
	S	200コマ	56コマ
NORMAL	L	200コマ	86コマ
	M	200コマ	92コマ
	S	200コマ	57コマ
BASIC	L	200コマ	108コマ
	M	200コマ	102コマ
	S	200コマ	59コマ

■ [撮像範囲設定] が [DX (24×16)] の場合※4

画質モード	画像 サイズ	電源	
		EN-EL15a	EN-EL18c
RAW (ロスレス圧縮RAW/12ビット記録)	L	200コマ	91コマ
	M	200コマ	56コマ
	S	200コマ	54コマ
RAW (ロスレス圧縮RAW/14ビット記録)	L	200コマ	45コマ
RAW (圧縮RAW/12ビット記録)	L	200コマ	102コマ
RAW (圧縮RAW/14ビット記録)	L	200コマ	48コマ
RAW (非圧縮RAW/12ビット記録)	L	200コマ	72コマ
RAW (非圧縮RAW/14ビット記録)	L	200コマ	43コマ
TIFF (RGB)	L	113コマ	54コマ
	M	200コマ	71コマ
	S	200コマ	73コマ
FINE	L	200コマ	138コマ
	M	200コマ	152コマ
	S	200コマ	135コマ
NORMAL	L	200コマ	165コマ
	M	200コマ	158コマ
	S	200コマ	143コマ
BASIC	L	200コマ	176コマ
	M	200コマ	166コマ
	S	200コマ	145コマ

※1 ISO感度がISO 100の場合の、連続撮影速度を維持して撮影できるコマ数です。
次のような場合などには、連続撮影可能コマ数は減少します。

- [画質モード] で画質を優先した ([★] が付いた) 項目に設定してJPEG画像を撮影した場合
- [自動ゆがみ補正] (□59) を [する] に設定した場合

※2 Sony QD-G64EのXQDメモリーカードを使用した場合 (2017年9月現在)

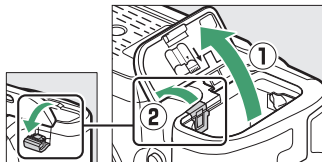
※3 [撮像範囲] の [DX自動切り換え] が [する] でDXレンズ以外のレンズを装着した場合を含みます。

※4 [撮像範囲] の [DX自動切り換え] が [する] でDXレンズを装着した場合を含みます。

カメラとパワーコネクター、ACアダプターの 接続方法

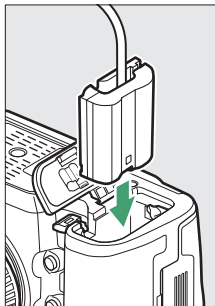
カメラとパワーコネクター、ACアダプターを接続する前に、カメラ本体の電源がOFFになっていることを確認してください。

1 カメラのバッテリー室 カバー (①) とパワーコ ネクターカバー (②) を 開ける



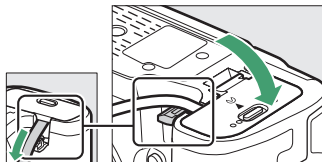
2 パワーコネクター EP-5Bを入れる

- パワーコネクターは、接点の向きに注意しながら入れてください。
- オレンジ色のバッテリーロックレバーをパワーコネクター側面で押しながら、パワーコネクターを奥まで入れると、バッテリーロックレバーがパワーコネクターに掛かり、パワーコネクターがロックされます。



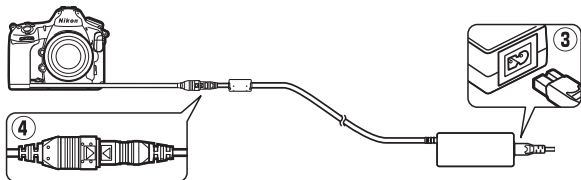
3 カメラのバッテリー室 カバーを閉じる

- パワーコネクターのコードがパワーコネクターカバーを開けた部分から出るように注意して、バッテリー室カバーを閉じます。



4 パワーコネクターとACアダプター EH-5c/EH-5bを接続する

- 電源コードのACプラグを、ACアダプターのACプラグ差し込み口に差し込みます (③)。
- パワーコネクターのDCプラグコネクターにACアダプターのDCプラグを差し込みます (④)。
- パワーコネクターとACアダプターの使用時には、画像モニター上のバッテリー残量表示がに変わります。



株式会社 **ニコン**

株式会社 **ニコン** イメージング ジャパン